

1 調査結果のまとめ

※前回調査は、平成28年11月に実施しています。

(1) あなたご自身について

- 調査票を記入した人については、「本人」が最も多く、次いで「家族や介助者（本人の意見を聞くことが難しいため、本人の状況から判断して記入）」となっています。しかし、「家族や介助者（本人の意見を聞くことが難しいため、本人の状況から判断して記入）」と「家族や介助者（本人に聞きながら代わりに記入）」を合わせると5割を超えていることから、障がい者の生活を支える上で、本人の意思確認や意思決定支援が重要であることが分かります。
- 身体障がい者は40歳以上になると大幅に増加しています。65歳以上になると、障がい者のうち身体障がい者の占める割合が8割を超えています。これは、疾病に起因するものが多く、今後も高齢化により身体障がい者は増加していくものと考えられます。また、身体障がい者のうち、50歳以上の割合が5割を超えています。精神障がい者は40歳～59歳の年代が中心となっています。障がい児の場合は、知的障がいと発達障がい全体の約9割となっています。

(2) 生活状況について

- 日常生活の主な支援者（介助者）については、「父・母」が最も多く、次いで「総合支援法や介護保険のサービス事業者」となっています。身体障がい者は、50歳以上の割合が5割を超えていますが、主な支援者については「父・母」が最も多くなっています。全ての障がい者にいえることですが、支援者の高齢化に対して将来を見据えた支援体制の構築が必要となっています。
- 市内の相談場所の認知度については、「障害者総合相談室ゆいはあと」が約5割となっています。65歳以上では介護保険が適用になることもあり、「地域包括支援センター」が4割を超えています。平成27年10月に設置した「障がい者相談支援センター」は3割強の回答となり、前回調査の約2割より認知度が高まった結果となりました。平成26年6月に設置した「権利擁護支援センター」は1割未満の回答となっており、身近な相談場所として更なる周知が必要と思われます。
- 日常生活で困ったときの相談相手については、「家族や親せき」が最も多く、次いで「かかりつけの医師や看護師」となっています。「障がい者相談支援センター」と「相談支援事業所」に相談するという回答が、前回調査の34人に比べると75人と2倍以上に増加しており、利用者の認知度が高まっていると考えられます。
- 外出時に困っていることについては、「家族やヘルパーの付き添いが必要である」が最も多く、次いで「費用がかかり負担となる」となっています。身体障がい者は多くの面で困り感を感じています。また、障がい特性によって困り感が異なるため、きめ細かな支援が必要であると考えます。
- 障がい者の就労支援として必要なことについては、「職場の障がい者理解」が最も多く、次いで「就労後のフォローなど、職場と支援機関の連携」となっています。障がい者が就労を継続するためには、職場における障がい特性の理解が重要であることから、障がい者への支援と併せて、企業に対する支援を丁寧の実施し、職場と支援機関の緊密な連携体制を構築する必要があると考えます。
- 障がいがあることで差別や嫌な思いをしたことの有無については、障がい者の7割以上が、「ある」、「少しある」と回答しています。「保育所・学校・職場」等の身近な場所や「電車・バス・タクシー」等の公共交通機関で経験しています。

- 地域の障がい者に対する理解については、「理解がある」、「やや理解がある」の合計が5割を上回っており、前回調査からは約8%増加しています。精神障がい者では、「やや理解不足」、「理解不足」の合計が6割を超えており、理解が足りないと感じる場面が多いことが伺われます。
- 地区別に見ると、ほぼ全ての地区で約5割以上の障がい者が、「理解がある」、「やや理解がある」と感じています。前回調査では、5割を上回ったのが4地区であったため、地区ごとの障がい者への理解が高まった結果となっています。
- 神奈川県で平成29年3月から導入している「ヘルプカード」の所持については、約1割にとどまっています。今後は、更に周知を進めていく必要があると考えます。
- 地域の人とのつながりや交流の場の有無については、全体では「ある」、「少しある」の合計が5割を上回っていますが、前回調査からは約7%減少しています。また、前回調査では5割を下回った地区が1地区であったのに対し、今回は5地区が下回る結果となったため、地区ごとの実態や要因を分析する必要があると考えます。
- 地域とのつながりの内容については、「あいさつする程度」が最も多く、次いで「運動会などの地域の行事」となっています。
- 自分が住んでいる地域で、住民同士の助け合いが行われているかについては、「思う」、「どちらかというと思う」と思うの合計が5割を上回っています。前回調査の約3割からは増加していますが、地区ごとでは差が出る結果となっています。
- 自分が住んでいる地域にあってほしい住民同士の助け合いについては、「急病などの緊急時の手助け」が最も多く、次いで「見守り・安否確認」となっています。平常時の見守りから緊急時の手助けまで、一連の流れで助け合いができる地域性が必要とされていることが分かります。
- 自宅、学校、職場（事業所を含む）以外の居場所が必要かについては、「必要である」が約6割となっています。「自分の好きなことができる場所」が最も多く、次いで「共通の趣味や話題のある人との交流」、「同じ障がい特性を持った人との交流」となっています。自分の居場所として、趣味や好きなことができる場所と同じく、共通の話題を持つ他者との交流を必要としていると考えられます。

(3) 訪問系サービスについて

- 訪問系サービスは、全体の3割以上の障がい者が利用しており、「移動支援」が最も多く、次いで「居宅介護（家事援助）」となっています。
障がい児と64歳以下の障がい者では「移動支援」が最も多く、65歳以上の障がい者では「居宅介護（家事援助）」が最も多くなっています。
- 8割以上の方が概ねサービスに満足しています。また、サービスについて改善してほしい（こうなってほしい）と思うことについては、「利用できる回数や時間を増やす」が最も多く、次いで「希望する曜日や時間帯に利用できるようにする」となっています。

(4) 日中活動系サービスについて

- 日中活動系サービスは、全体の８割以上の障がい者が利用しており、「就労継続支援（Ｂ型）」が最も多く、次いで「短期入所」、「生活介護」となっています。
障がい児では、児童福祉法のサービスが約９割となっており、64歳以下の障がい者では「就労継続支援（Ｂ型）」が最も多く、65歳以上の障がい者では「生活介護」が最も多くなっています。
- ８割以上の方が概ねサービスに満足しています。また、サービスについて改善してほしい（こうなってほしい）と思うことについては、「希望する曜日や時間帯に利用できるようにする」が最も多く、次いで「サービスの質をよくする」となっています。

(5) サービス等利用計画について

- サービス等利用計画については、４割がセルフプランとなっています。その理由としては「セルフプラン以外を知らないから」が最も多くなっているため、障がい者が選択することができるように、計画相談の制度を更に周知していくことが必要であると考えます。

(6) その他

- 障がい者が地域で安心して暮らしていくために、行政にどのような取組を求めるかについては、「介護保険や障害福祉サービスの充実」が最も多く、次いで「雇用の場の確保」となっています。障がい別では、身体障がい者や知的障がい者では、「災害に対する支援体制の構築」の割合が高く、精神障がい者や発達障がい者では、「雇用の場の確保」の割合が高くなっています。このほかにも、公共交通や医療体制の充実の要望も多いことから、多様な取組が求められています。
一方、「地域内交流の促進」については、「その他」を除き、全ての障がいで最も少ない結果となっています。共生社会の実現や、災害時における共助の関係を推進するためには、地域内交流の活性化が不可欠であるため、今後も啓発活動や住民との協働が必要であると考えます。
- 多くの障がい者が、様々な障害福祉サービスを利用しながら生活しています。今後は、少子高齢化、超高齢社会（一人暮らし、ダブルケア）、支援の担い手不足がさらに進むと予想されることから、8050問題、親亡き後の問題などが大きな課題になってくると考えられます。また、重度の障がいがある障がい者や、医療的ケアが必要な障がい者に対するサービスの不足等も課題となっています。今後、家族のみに負担が掛かることがないように、公的なサービスの充実はもちろん、地域で支える体制を構築するために、障がい特性の理解や地域課題の解消など様々な取組が必要であると考えます。

2 調査結果の詳細

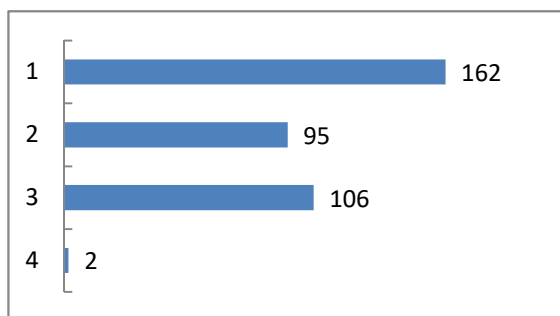
(1) あなたご自身について

問1 この調査票を記入されるのはどなたですか。（1つに○）

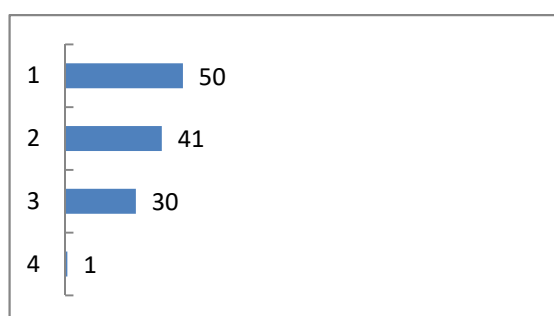
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	本人	162	50	22	95	14	3
2	家族や介助者（本人に聞きながら代わりに記入）	95	41	41	12	15	2
3	家族や介助者（本人の意見を聞くことが難しいため、本人の状況から判断して記入）	106	30	69	4	44	5
4	その他	2	1	1	0	0	0
	有効回答数	365	122	133	111	73	10

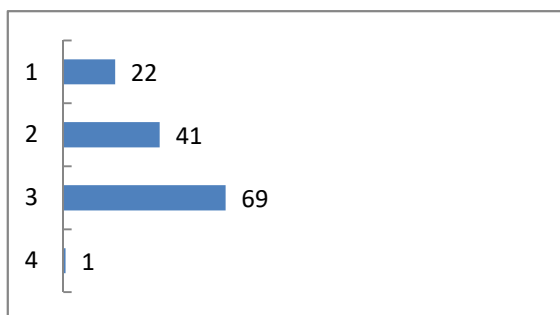
【全体】



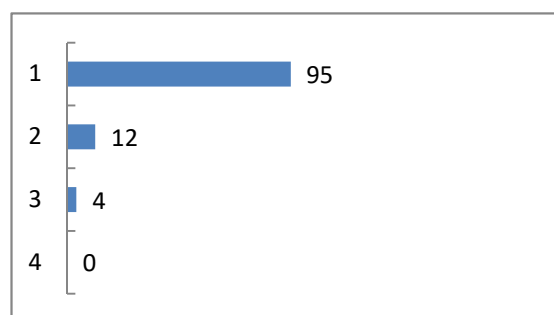
【身体】



【知的】



【精神】



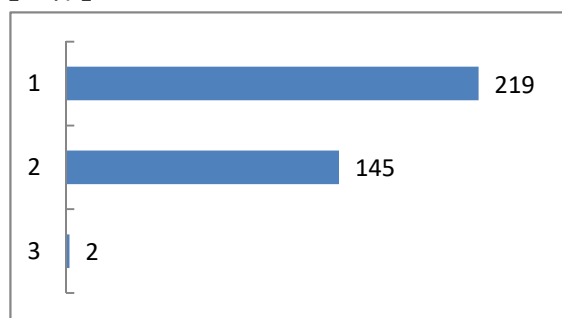
身体や精神では、「1 本人」が最も多くなっています。知的では、「3 家族や介助者（本人の意見を聞くことが難しいため、本人の状況から判断して記入）」が最も多く、「2 家族や介助者（本人に聞きながら代わりに記入）」と合わせると、8割以上が家族や介助者により回答しています。

問2 あなたの性別はどちらですか。（1つに○）

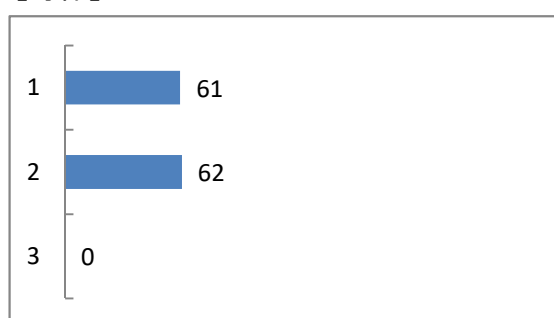
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	男性	219	61	91	62	57	6
2	女性	145	62	44	47	16	4
3	答えたくない	2	0	0	1	1	0
	有効回答数	366	123	135	110	74	10

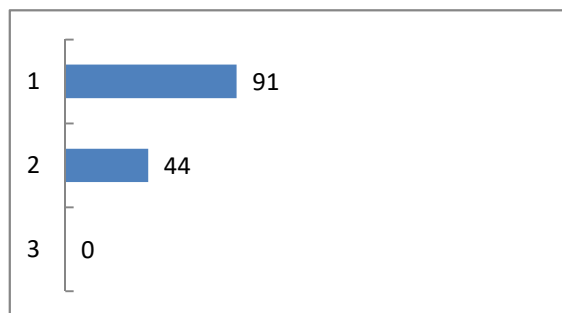
【全体】



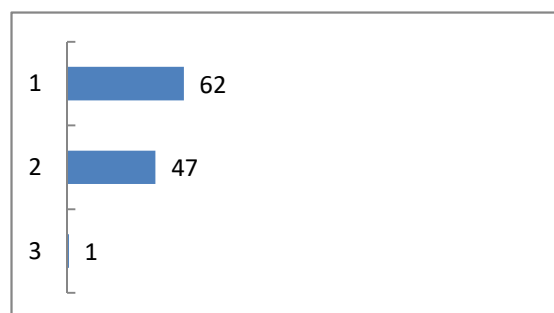
【身体】



【知的】



【精神】



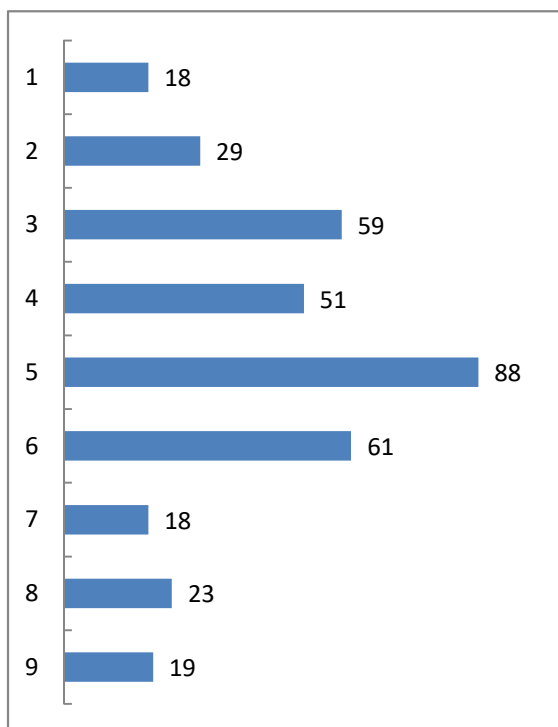
回答者の内訳は、「1 男性」が219人、「2 女性」が145人となっています。

問3 令和元年10月1日現在の、あなたの年齢はいくつですか。（1つに○）

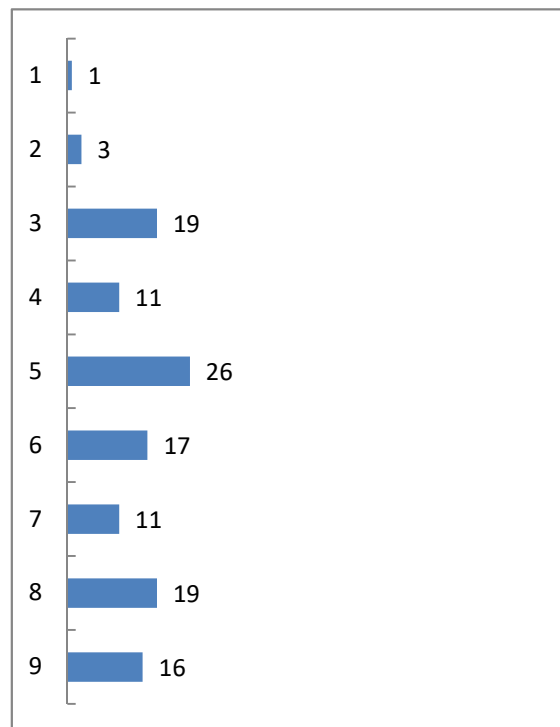
単位：人

			全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	0～就学前	障がい児	18	1	0	1	17	0
2	就学後～17歳		29	3	16	0	20	1
3	18歳～29歳	障がい者 ～64歳	59	19	37	11	13	0
4	30歳～39歳		51	11	27	16	12	1
5	40歳～49歳		88	26	32	40	9	5
6	50歳～59歳		61	17	14	34	2	2
7	60歳～64歳		18	11	1	7	0	0
8	65歳～74歳	障がい者 65歳～	23	19	5	1	0	1
9	75歳～		19	16	3	1	0	0
	有効回答数		366	123	135	111	73	10

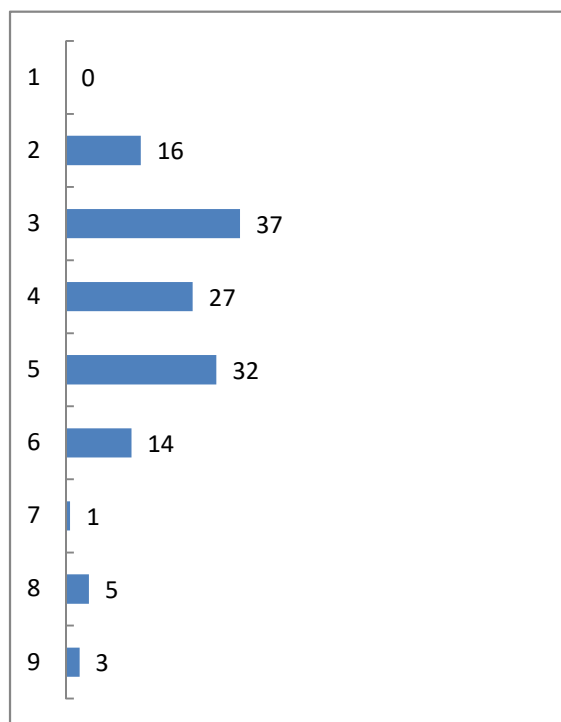
【全体】



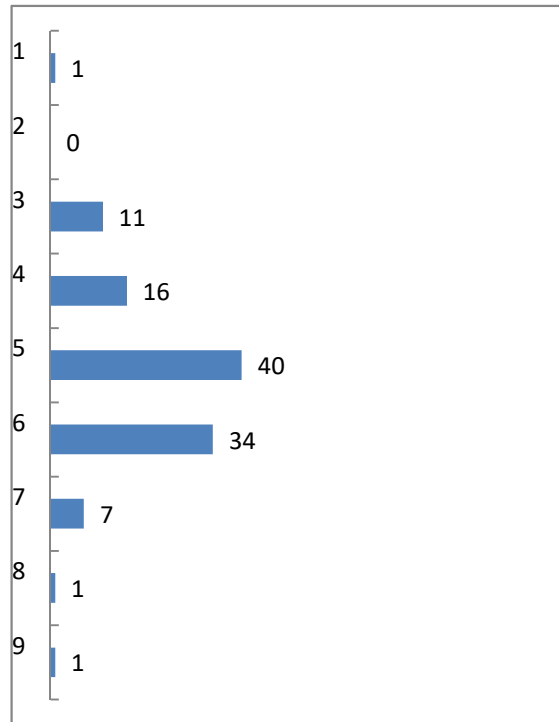
【身体】



【知的】



【精神】



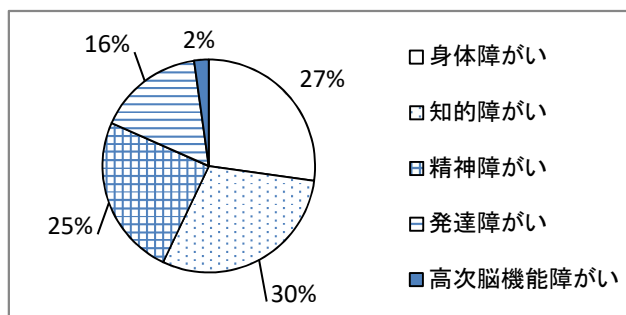
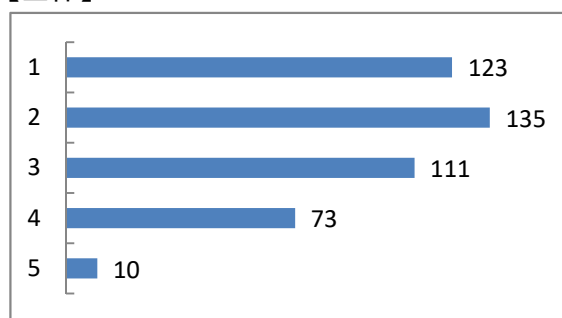
身体は、40歳以上になると大幅に増加しており、知的は、「3 18歳～29歳」が最も多くなっています。精神は、40歳～59歳の年代が中心となっています。

問4 あなたの障がいは次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

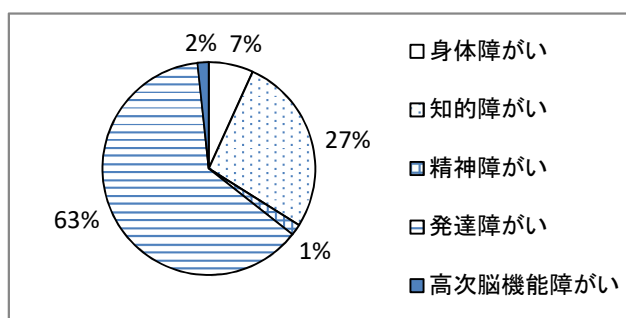
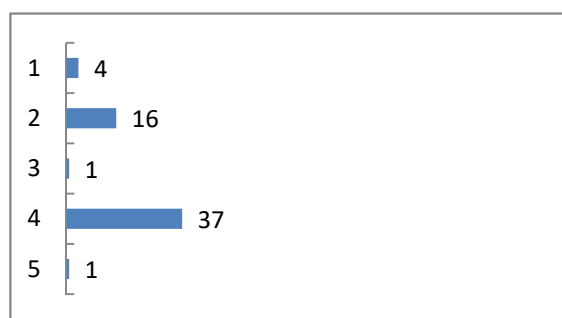
単位：人

		全体	障がい児	障がい者 ～64歳	障がい者 65歳～
1	身体障がい	123	4	84	35
2	知的障がい	135	16	111	8
3	精神障がい	111	1	108	2
4	発達障がい	73	37	36	0
5	高次脳機能障がい	10	1	8	1

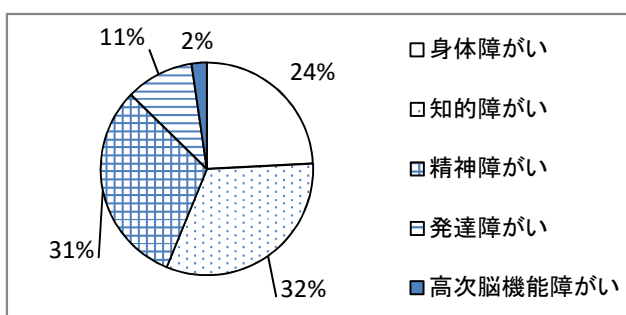
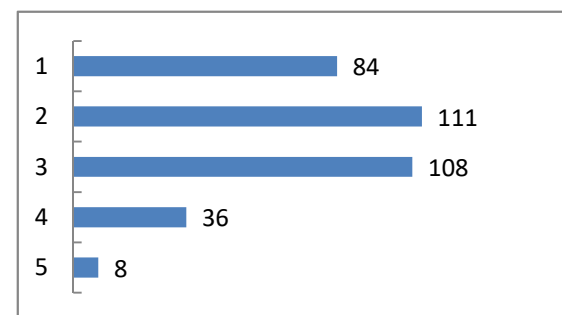
【全体】



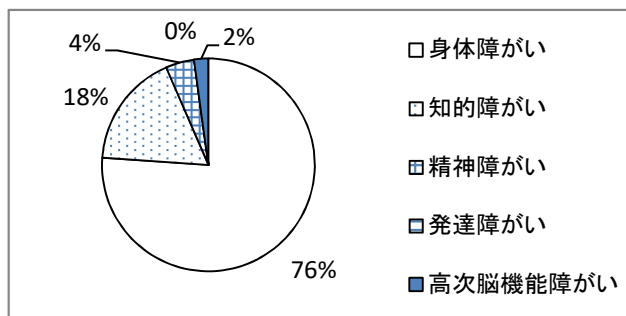
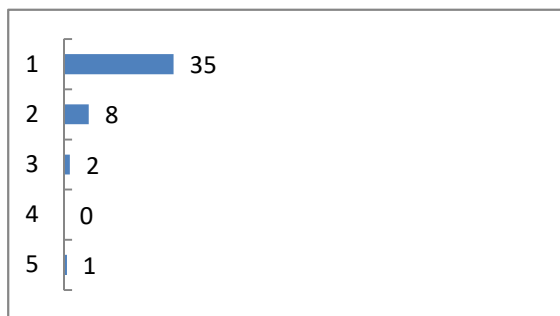
【障がい児】



【障がい者 ～64歳】



【障がい者 65歳～】



障がい全体の内訳としては、身体が約27%、知的が約30%、精神が約25%、発達が約16%、高次脳機能が約2%となっています。障がい児は、知的と発達の合計が約90%となっています。65歳以上は、身体が約76%となっています。

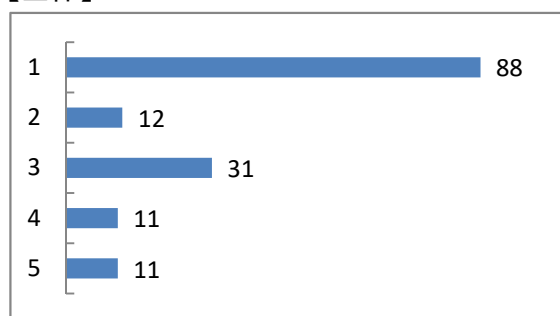
問4で「1 身体障がい」と答えた方におたずねします。

問5－1（1）あなたにはどの障がいがありますか。（あてはまるものすべてに○）

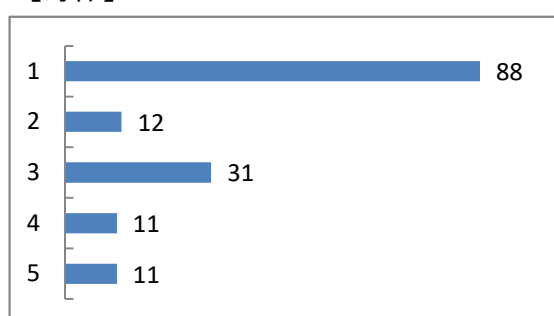
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	肢体不自由	88	88	19	7	4	5
2	内部障がい	12	12	4	1	0	1
3	視覚障がい	31	31	4	2	1	3
4	聴覚または平衡機能の障がい	11	11	3	1	0	1
5	音声・言語またはそしゃく機能の障がい	11	11	3	0	1	2

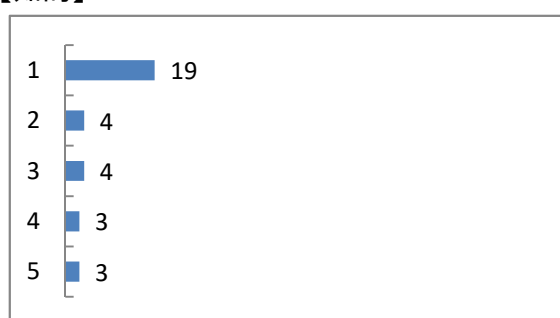
【全体】



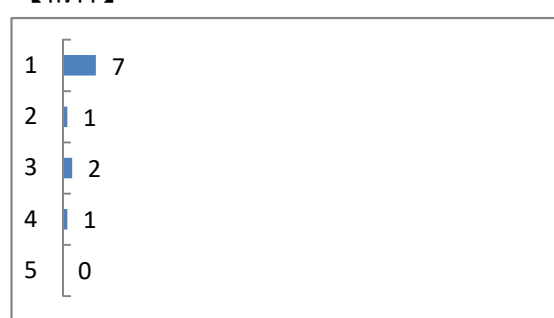
【身体】



【知的】



【精神】



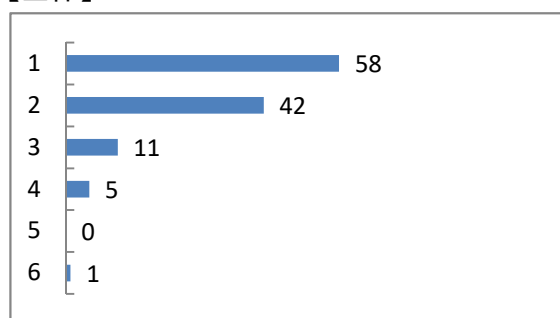
身体の障がい部位別では、「1 肢体不自由」が多くなっています。

問4で「1 身体障がい」と答えた方におたずねします。
問5－1（2）「身体障害者手帳」の等級はどれですか。（1つに○）

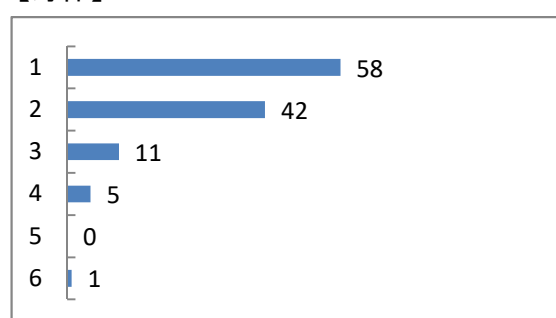
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	1 級	58	58	9	2	0	4
2	2 級	42	42	9	4	1	3
3	3 級	11	11	3	2	1	0
4	4 級	5	5	3	0	1	0
5	5 級	0	0	0	0	0	0
6	6 級	1	1	1	1	1	0

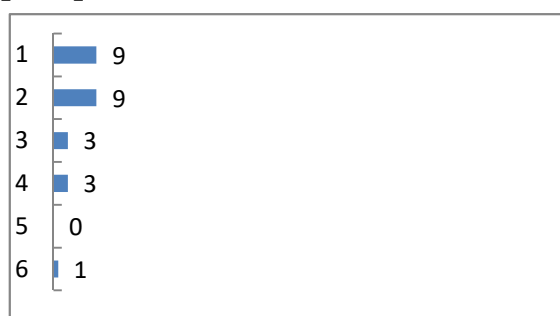
【全体】



【身体】



【知的】



【精神】



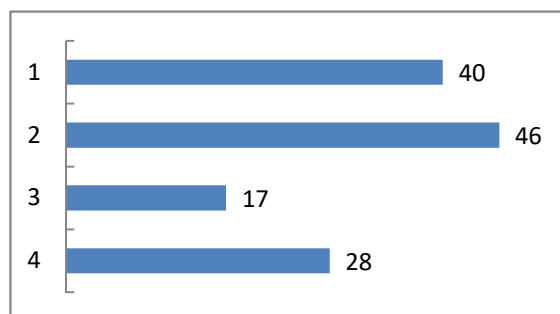
身体の等級別では、最重度である「1 1 級」が多くなっています。

問4で「2 知的障がい」と答えた方におたずねします。
 問5－2 「療育手帳」の等級はどれですか。（1つに○）

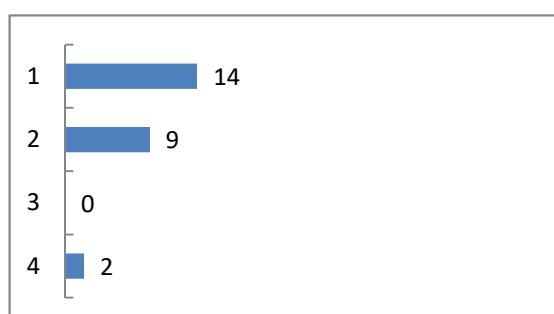
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	A 1	40	14	40	0	8	0
2	A 2	46	9	46	2	7	1
3	B 1	17	0	17	3	3	0
4	B 2	28	2	28	2	8	0

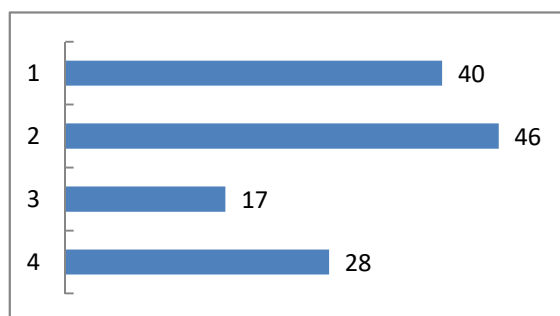
【全体】



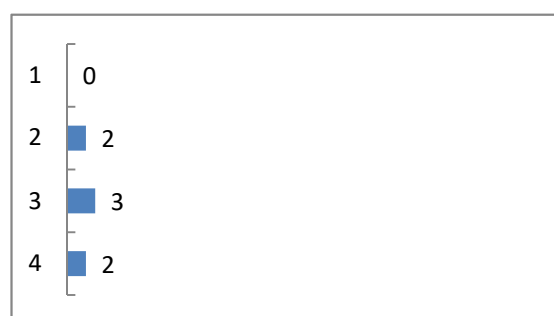
【身体】



【知的】



【精神】



知的の等級別では、「2 A 2」が多くなっています。

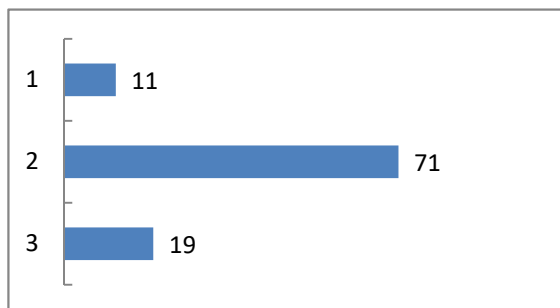
問4で「3 精神障がい」と答えた方におたずねします。

問5－3（1）「精神障害者保健福祉手帳」の等級はどれですか。（1つに○）

単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	1級	11	2	1	11	0	1
2	2級	71	3	4	71	7	1
3	3級	19	2	3	19	4	0
4	手帳を持っていない	7	1	1	7	2	0

【全体】



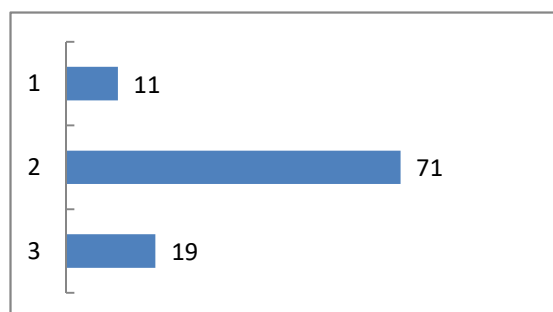
【身体】



【知的】



【精神】



問4で「3 精神障がい」と答えた方におたずねします。

問5－3（2）「自立支援医療受給者証」をお持ちですか。（1つに○）

単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	はい	96	7	9	96	8	1
2	いいえ	2	1	0	2	1	0

精神の等級別では、「2 2級」が多くなっています。9割以上の方が、手帳や自立支援医療受給者証を取得しています。

問4で「4 発達障がい」と答えた方におたずねします。

問5－4 どの手帳をお持ちですか。手帳の等級もあわせてお答えください。

単位：人

		全体	障がい児	障がい者 ～64歳	障がい者 65歳～
1	「身体障害者手帳」 1 級	0	0	0	0
2	「身体障害者手帳」 2 級	1	0	1	0
3	「身体障害者手帳」 3 級	1	0	1	0
4	「身体障害者手帳」 4 級	1	0	1	0
5	「身体障害者手帳」 5 級	0	0	0	0
6	「身体障害者手帳」 6 級	1	0	1	0
7	「療育手帳」 A 1	9	1	8	0
8	「療育手帳」 A 2	7	2	5	0
9	「療育手帳」 B 1	3	2	1	0
10	「療育手帳」 B 2	13	7	6	0
11	「精神障害者保健福祉手帳」 1 級	0	0	0	0
12	「精神障害者保健福祉手帳」 2 級	10	0	10	0
13	「精神障害者保健福祉手帳」 3 級	5	0	5	0
14	持っていない	26	25	0	0

発達では、「14 持っていない」が多くなっています。

問４で「５ 高次脳機能障がい」と答えた方におたずねします。

問５－５ どの手帳をお持ちですか。手帳の等級もあわせてお答えください。

単位：人

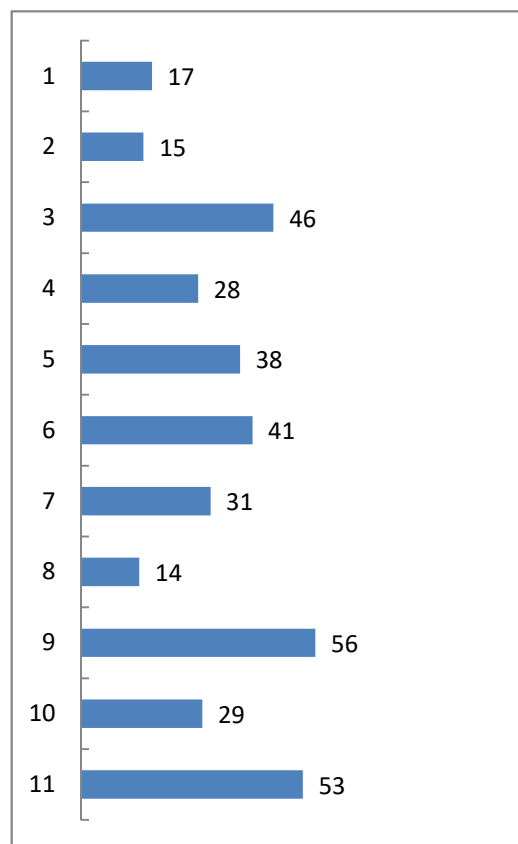
		全体	障がい児	障がい者 ～64歳	障がい者 65歳～
1	「身体障害者手帳」１級	4	0	3	1
2	「身体障害者手帳」２級	3	0	3	0
3	「身体障害者手帳」３級	0	0	0	0
4	「身体障害者手帳」４級	0	0	0	0
5	「身体障害者手帳」５級	0	0	0	0
6	「身体障害者手帳」６級	0	0	0	0
7	「療育手帳」Ａ１	0	0	0	0
8	「療育手帳」Ａ２	1	0	1	0
9	「療育手帳」Ｂ１	0	0	0	0
10	「療育手帳」Ｂ２	1	0	1	0
11	「精神障害者保健福祉手帳」１級	0	0	0	0
12	「精神障害者保健福祉手帳」２級	1	0	1	0
13	「精神障害者保健福祉手帳」３級	1	0	1	0
14	持っていない	1	1	0	0

高次脳機能障がいでは、「４ 『身体障害者手帳』 １級」が多くなっています。

問6 現在、あなたがお住まいの町域を書いてください。

単位：人

		全体
1	厚木	17
2	厚木南	15
3	依知	46
4	睦合	28
5	睦合南	38
6	荻野	41
7	小鮎・緑ヶ丘	31
8	玉川・森の里	14
9	南毛利	56
10	相川・南毛利南	29
11	未回答	53
	有効回答数	368



「3 依知」、「5 睦合南」、「6 荻野」、「9 南毛利」の人口が多い地区では、35人以上から回答がありました。また、「11 未回答」が2番目に多く、全体の14%を超えています。無記名アンケートであっても、町域を書くのに抵抗があったと思われます。

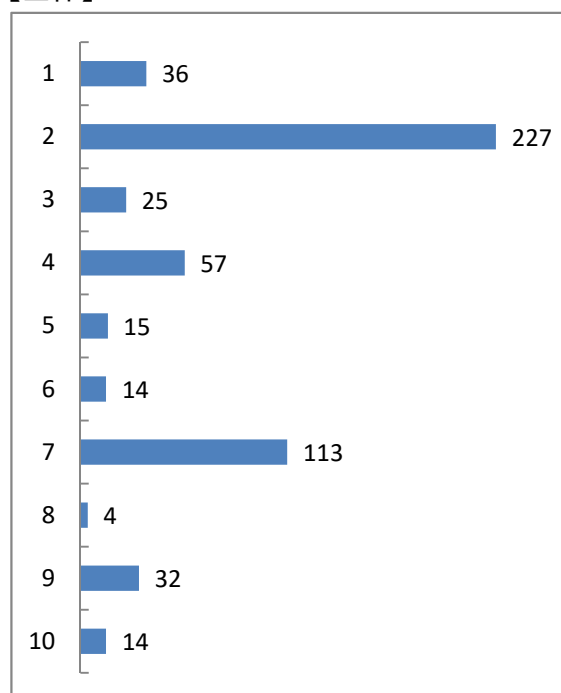
(2) 生活状況について

問7 あなたの日常生活の主な支援者はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

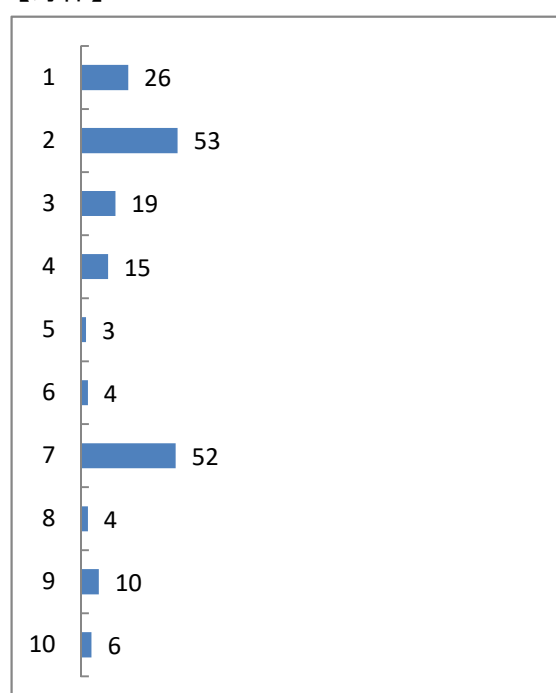
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	夫・妻	36	26	0	10	1	3
2	父・母	227	53	99	63	68	6
3	子ども	25	19	1	6	2	1
4	兄弟姉妹	57	15	25	26	12	1
5	その他の親族	15	3	4	6	3	0
6	友人・知人	14	4	2	8	1	0
7	総合支援法や介護保険のサービス事業者	113	52	44	26	12	5
8	ボランティア	4	4	0	0	0	0
9	その他	32	10	13	13	5	1
10	いない	14	6	2	8	2	6

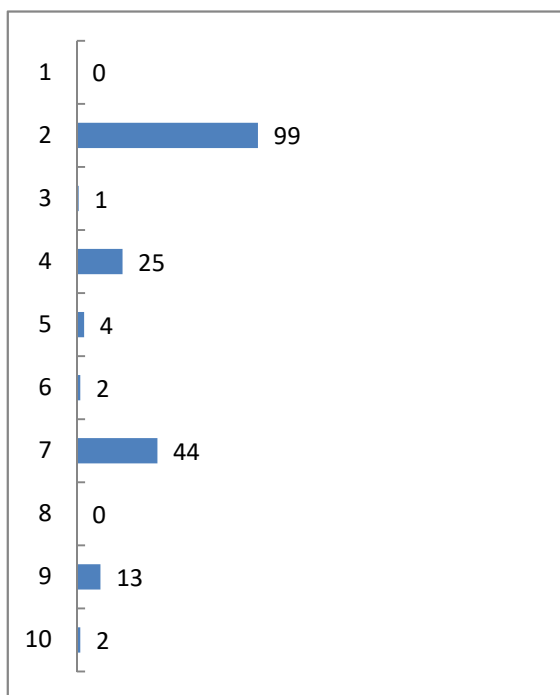
【全体】



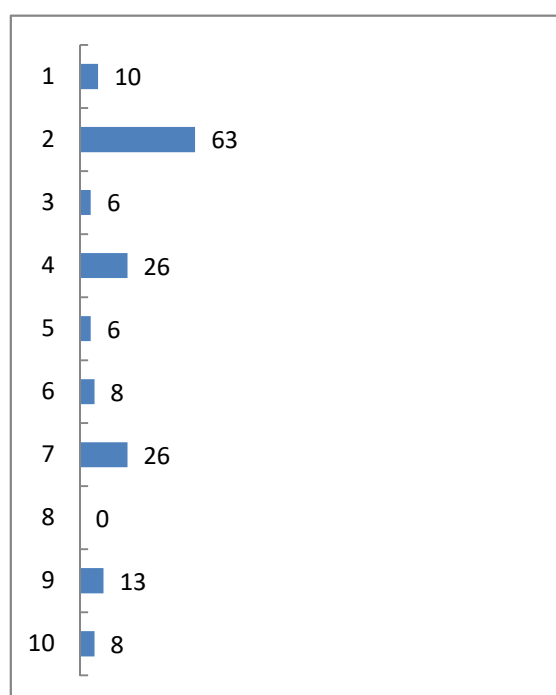
【身体】



【知的】



【精神】



全体では、「2 父・母」が最も多く、次いで「7 総合支援法や介護保険のサービス事業者」となっています。高齢の方が多い身体においても、「2 父・母」が最も多い結果となっています。

高次脳機能については母数が少ないですが、26%の人が「10 いない」と回答しています。

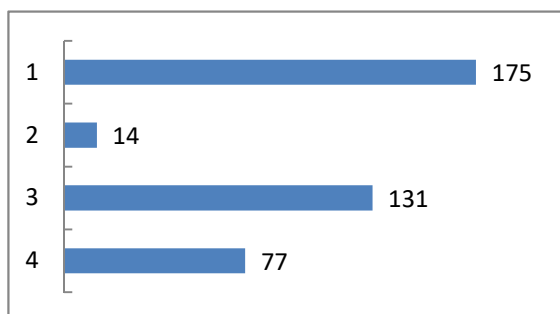
問8 あなたは、次の相談場所があることを知っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

単位：人

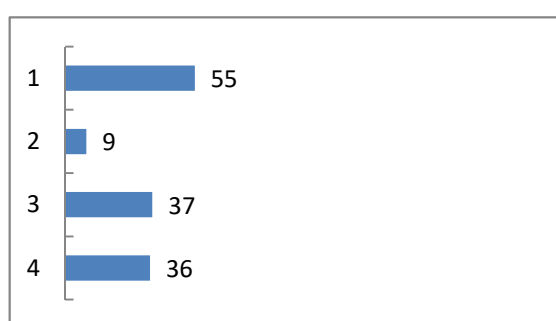
		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	障害者総合相談室ゆいはあと	175	55	76	58	36	5
2	権利擁護支援センター	14	9	4	2	3	1
3	障がい者相談支援センター (厚木市内に6か所あります。※参照)	131	37	44	64	19	6
4	地域包括支援センター (厚木市内に10か所あります)	77	36	26	19	13	1

※ハートラインあゆみ、ケアーズ山藤、ここから、わたしの夢、すぎな、いっぽ

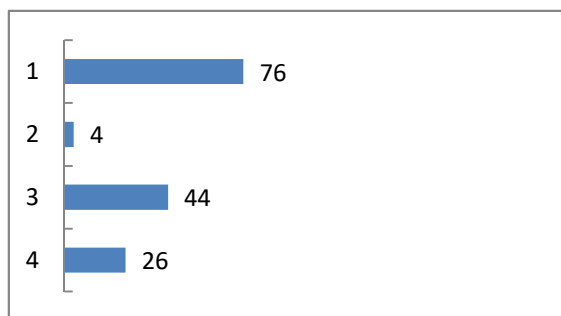
【全体】



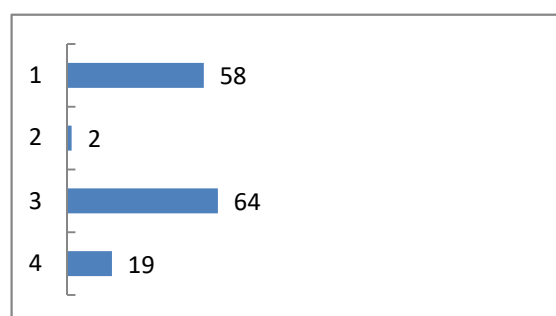
【身体】



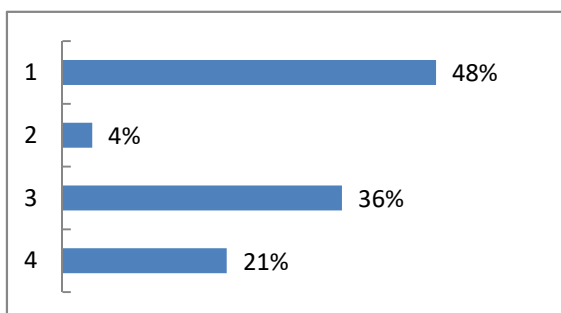
【知的】



【精神】



【全回答者368人のうち「知っている」と回答した人の割合】

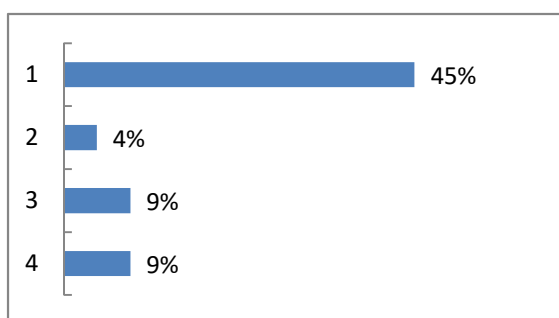


単位：人

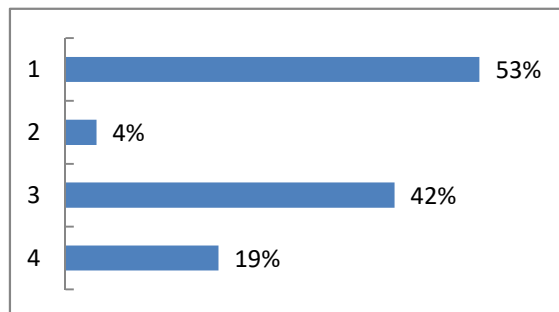
		全体	障がい児	障がい者 ～64歳	障がい者 65歳～
1	障害者総合相談室ゆいはあと	175	21	146	7
2	権利擁護支援センター	14	2	11	1
3	障がい者相談支援センター	131	4	116	10
4	地域包括支援センター	77	4	54	19

※年齢記載のない人（2人）は上の表には含めていません。

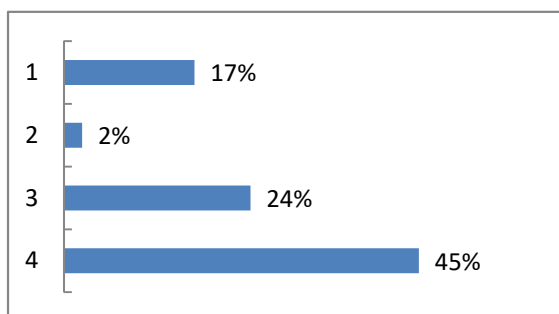
【障がい児全回答者47人のうち「知っている」と回答した人の割合】



【障がい者（～64歳）全回答者277人のうち「知っている」と回答した人の割合】



【障がい者（65歳～）全回答者42人のうち「知っている」と回答した人の割合】



全体では、「1 障害者総合相談室ゆいはあと」、「3 障がい者相談支援センター」の合計が6割となっています。

65歳以上になると、介護保険が適用となるため、「4 地域包括支援センター」が4割を上回っています。

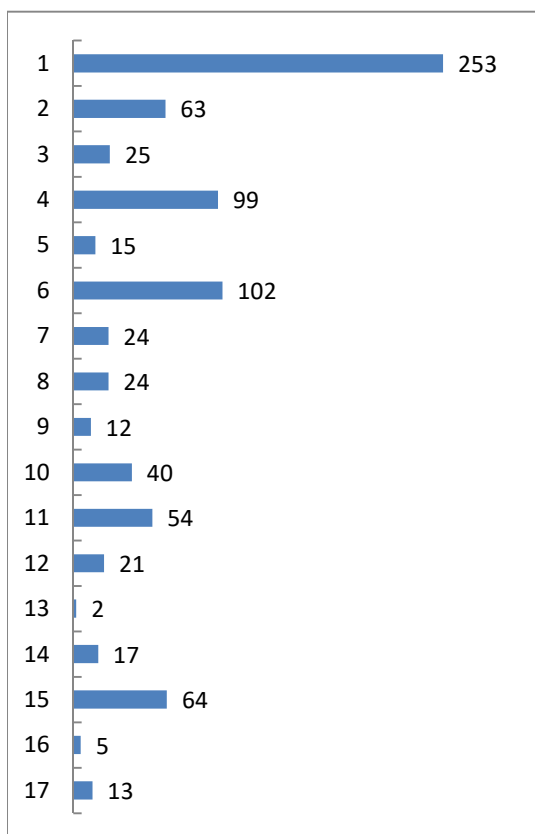
問9 あなたは、困ったときに、誰（どこ）に相談していますか。
（あてはまるものすべてに○）

単位：人

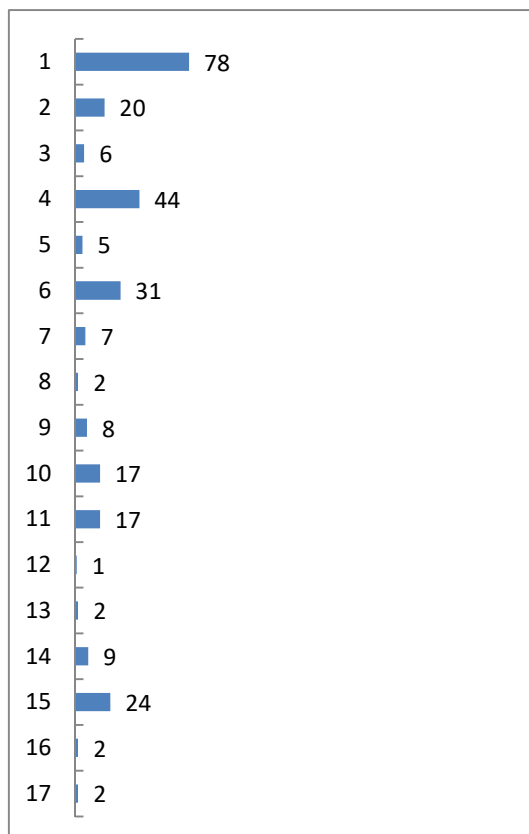
		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	家族や親せき	253	78	99	78	58	6
2	友人・知人	63	20	13	28	16	1
3	職場の上司や同僚	25	6	11	8	10	0
4	ホームヘルパーなどサービス事業所	99	44	37	19	14	2
5	障害者団体や家族会	15	5	8	2	3	0
6	かかりつけの医師や看護師	102	31	23	51	18	2
7	病院のケースワーカー	24	7	2	16	0	1
8	幼稚園、保育所、学校の先生	24	2	8	2	20	0
9	民生委員・児童委員	12	8	4	2	2	0
10	障害者総合相談室ゆいはあと	40	17	21	14	7	1
11	障がい者相談支援センター	54	17	20	24	7	2
12	10・11以外の相談支援事業所	21	1	10	4	8	0
13	権利擁護支援センター	2	2	0	0	0	0
14	地域包括支援センター	17	9	6	6	1	0
15	市役所など行政機関の相談窓口	64	24	21	25	8	0
16	相談する人はいない	5	2	1	2	1	0
17	その他	13	2	3	4	3	1

全ての障がい者で、「1 家族・親せき」が最も多くなっています。次いで、身体と知的では、「4 ホームヘルパーなどサービス事業所」、精神では、「6 かかりつけの医師や看護師」、発達では、「8 幼稚園、保育所、学校の先生」となっています。「17 その他」としては、「ケアマネージャー」、「療育相談センターまめの木」などの回答がありました。

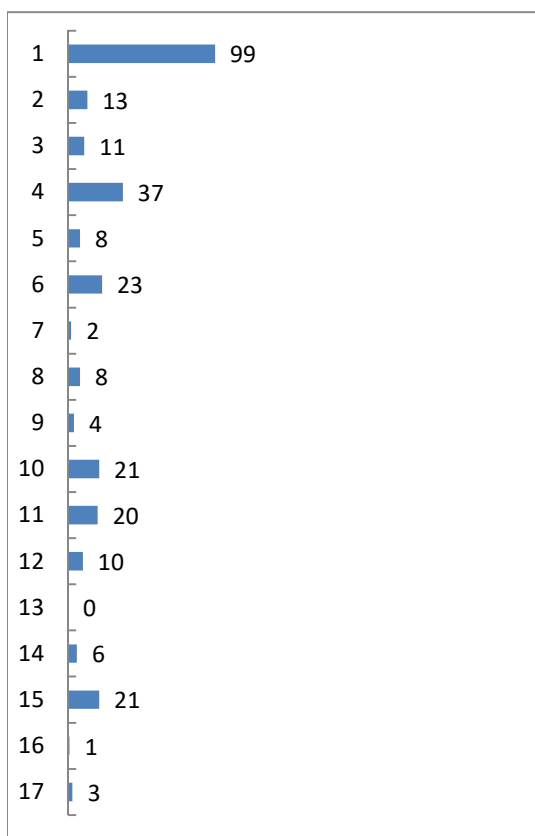
【全体】



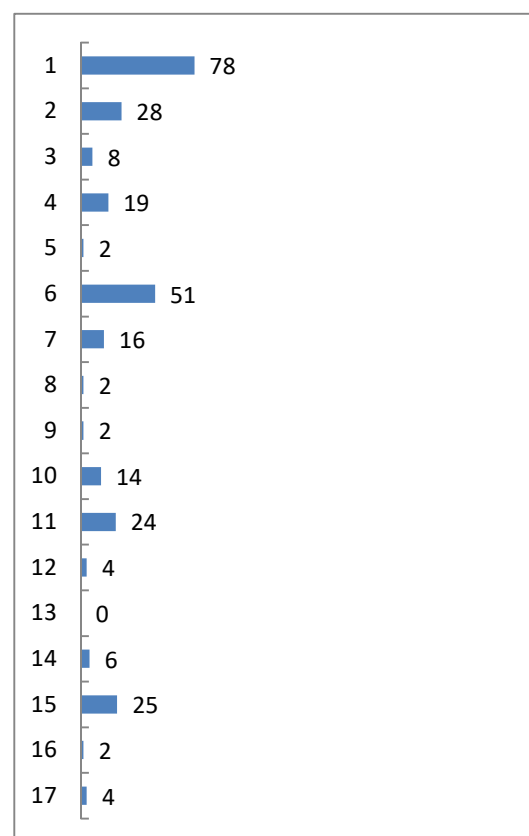
【身体】



【知的】



【精神】

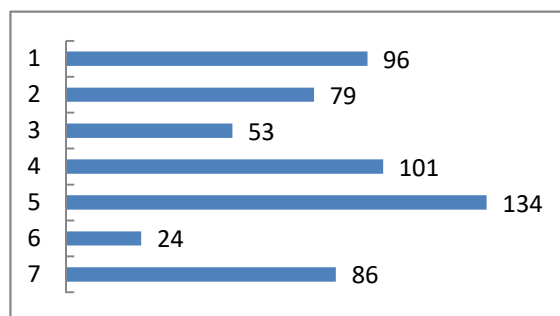


問10 あなたが外出するときに困っていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

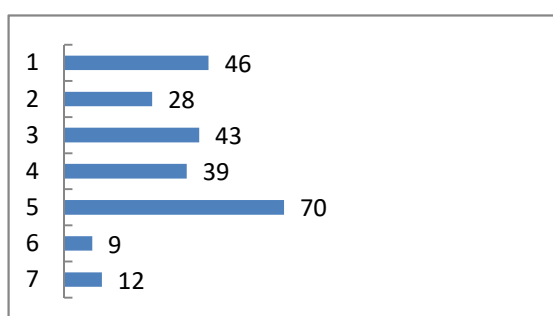
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	公共交通機関が不便である	96	46	27	32	14	3
2	安心して一休みできる場所が少ない	79	28	25	32	20	1
3	階段などの段差が多く移動が難しい	53	43	13	8	2	1
4	費用がかかり負担となる	101	39	21	51	10	3
5	家族やヘルパーの付き添いが必要である	134	70	70	10	20	4
6	その他	24	9	9	10	5	2
7	特になし	86	12	28	29	28	2

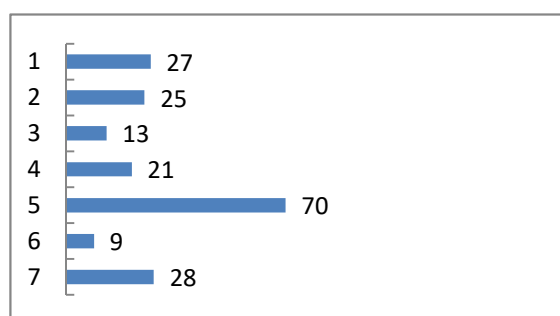
【全体】



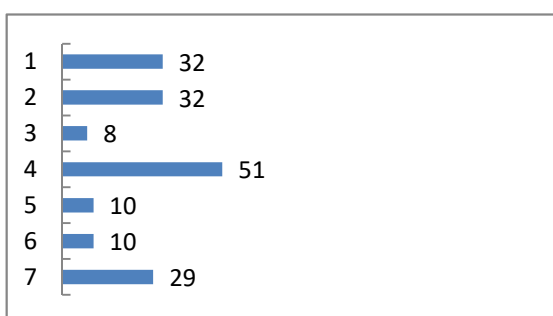
【身体】



【知的】



【精神】



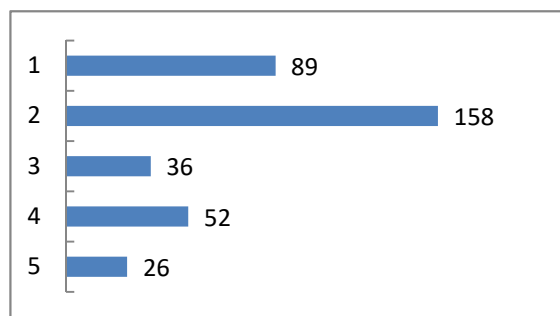
全体では、「5 家族やヘルパーの付き添いが必要である」が最も多く、次いで「4 費用がかかり負担となる」となっています。身体と知的では、「5 家族やヘルパーの付き添いが必要である」が最も多く、精神では、「4 費用がかかり負担となる」が最も多くなっています。発達では、「7 特になし」が最も多く、次いで「2 安心して一休みできる場所が少ない」と「5 家族やヘルパーの付き添いが必要である」となっています。

問11 あなたは将来どのように暮らしたいと思いますか。
(1つに○)

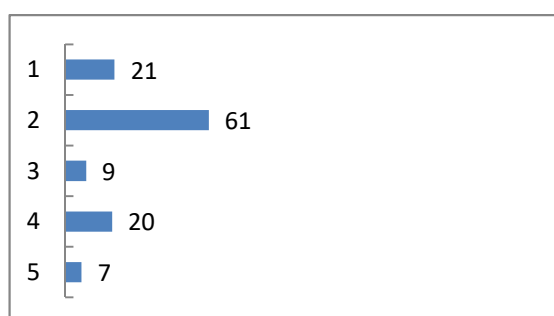
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	一人で暮らしたい（持ち家や賃貸住宅）	89	21	14	49	18	3
2	家族（親戚）と一緒に暮らしたい（持ち家や賃貸住宅）	158	61	48	41	35	5
3	グループホームで暮らしたい	36	9	24	10	4	0
4	福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）に入所したい	52	20	40	3	7	1
5	その他	26	7	8	10	7	0
	有効回答数	361	118	134	113	71	9

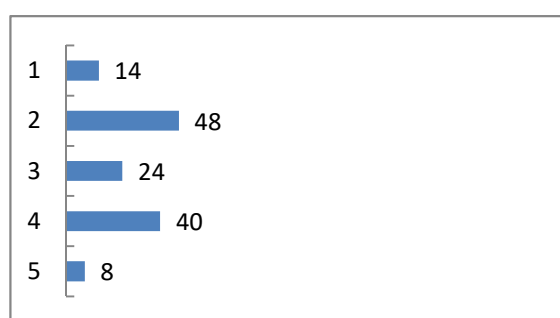
【全体】



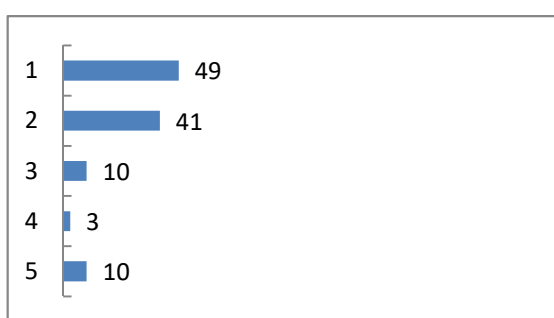
【身体】



【知的】



【精神】



全体では、「2 家族（親戚）と一緒に暮らしたい（持ち家や賃貸住宅）」が最も多く、次いで「1 一人で暮らしたい（持ち家や賃貸住宅）」となっています。身体、知的、発達では「2 家族（親戚）と一緒に暮らしたい（持ち家や賃貸住宅）」が最も多く、精神では「1 一人で暮らしたい（持ち家や賃貸住宅）」が最も多くなっています。

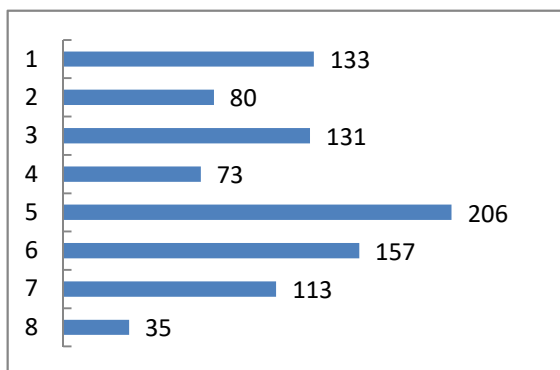
知的は、他の障がいと比較すると、施設入所やグループホームの希望が多くなっていますが、これは、問1での「8割以上が家族や介助者が回答している」ことを踏まえると、将来的に家族が支援することが困難になった状況を踏まえての回答であると思われます。

問12 あなたは、障がい者の就労支援としてどのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

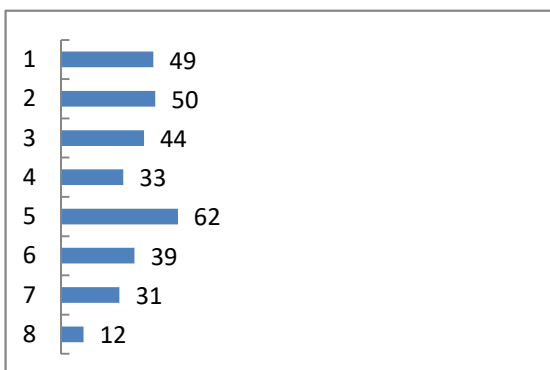
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	通勤手段の確保	133	49	53	44	24	3
2	勤務場所におけるバリアフリーなどの配慮	80	50	19	17	9	4
3	短時間勤務や勤務日数などの配慮	131	44	35	54	28	4
4	在宅勤務の拡充	73	33	12	27	15	2
5	職場の障がい者理解	206	62	69	70	52	5
6	就労後のフォローなど、職場と支援機関の連携	157	39	57	55	45	4
7	仕事についての職場外での相談対応、支援	113	31	32	46	33	3
8	その他	35	12	16	9	9	1

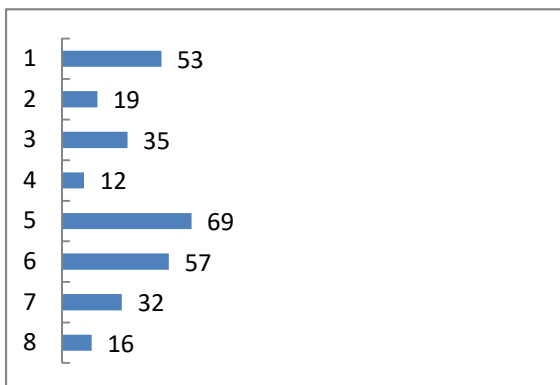
【全体】



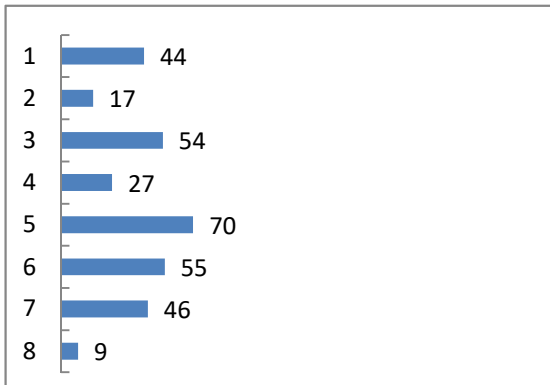
【身体】



【知的】



【精神】



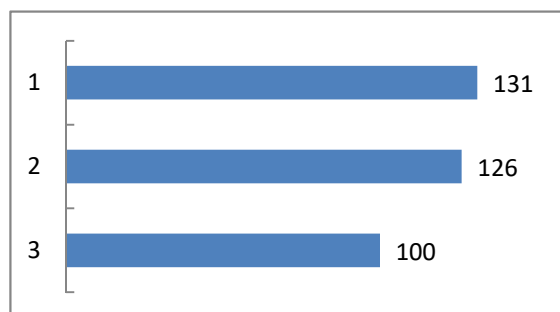
全ての障がい者で、「5 職場の障がい者理解」が最も多くなっています。次いで、身体では、「2 勤務場所におけるバリアフリーなどの配慮」となり、知的、精神、発達では、「6 就労後のフォローなど、職場と支援機関の連携」となっています。

問13 あなたは、障がいがあることで差別や嫌な思いをしたことがありますか。
(1つに○)

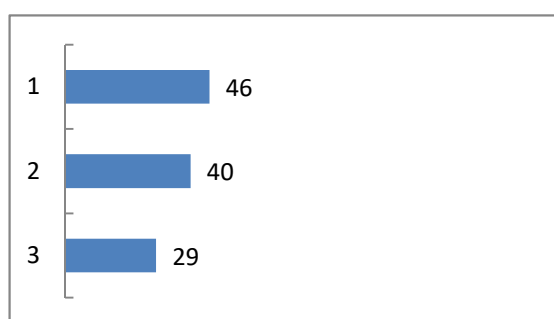
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	ある	131	46	52	43	27	3
2	少しある	126	40	44	34	27	4
3	ない	100	29	34	34	18	1
	有効回答数	357	115	130	111	72	8

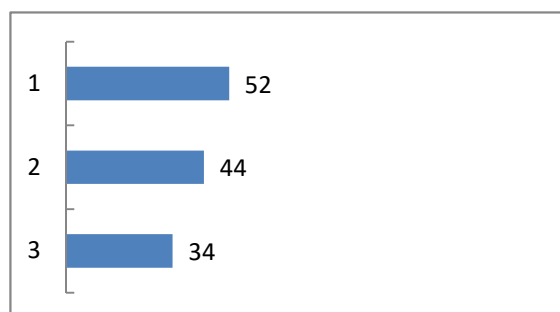
【全体】



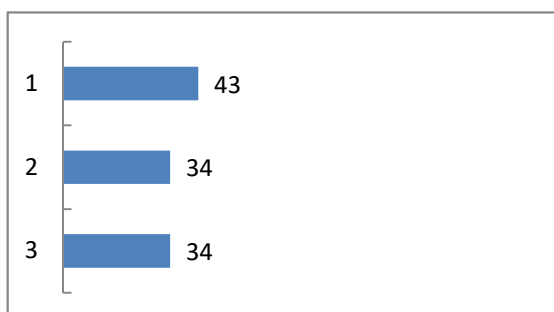
【身体】



【知的】



【精神】



全体では、「1 ある」、「2 少しある」の合計が7割を上回っています。

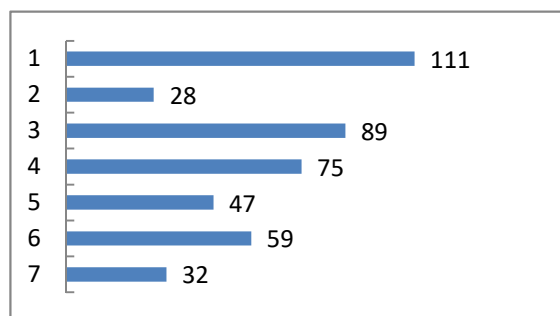
問13で「1 ある」「2 少しある」と答えた方におたずねします。

問14 どのようなところで差別や嫌な思いをしましたか。（あてはまるものすべてに○）

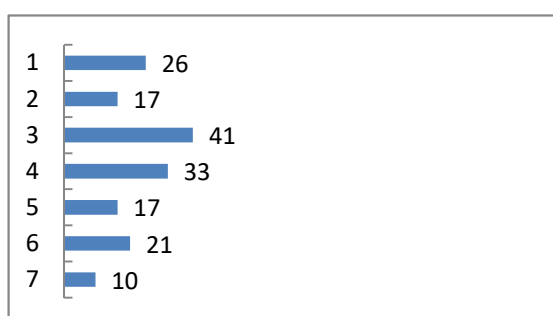
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	保育所・学校・職場	111	26	44	36	35	1
2	銀行などの公共的な場	28	17	8	6	1	1
3	電車・バス・タクシー	89	41	33	24	7	0
4	お店などの商業施設	75	33	38	12	11	1
5	病院などの医療機関	47	17	15	15	9	2
6	住んでいる地域	59	21	22	22	10	1
7	その他	32	10	8	11	12	4

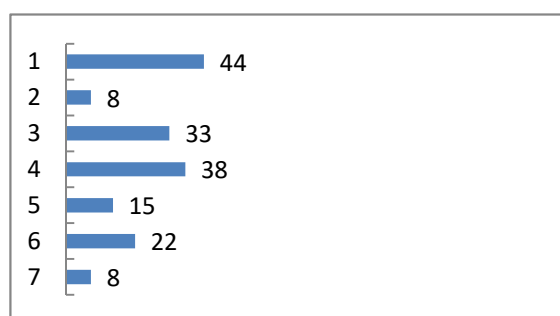
【全体】



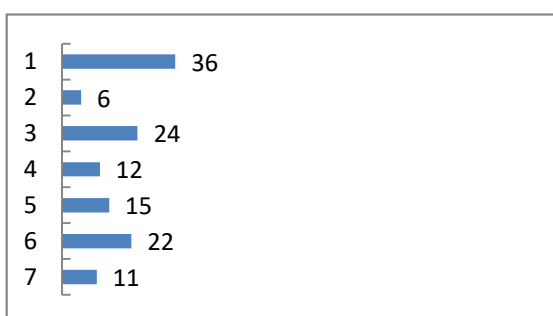
【身体】



【知的】



【精神】



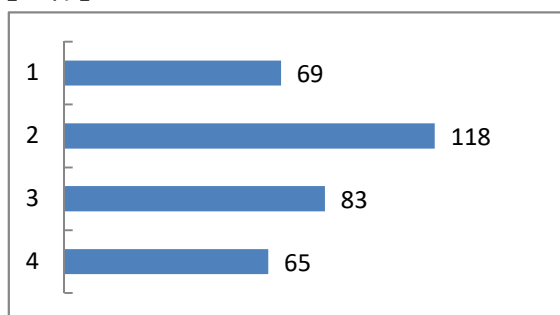
身体では、「3 電車・バス・タクシー」が最も多く、知的、精神、発達では、「1 保育所・学校・職場」が最も多くなっています。

問15 地域の方は障がい者に対する理解があると思いますか。（1つに○）

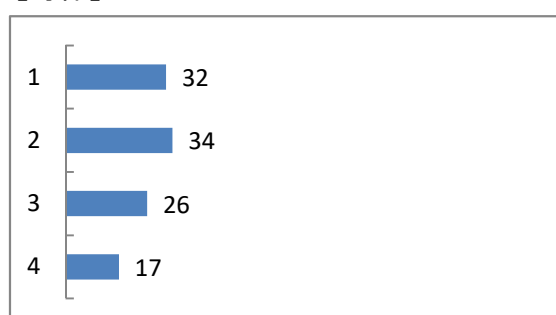
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	理解があると思う	69	32	31	15	9	1
2	やや理解があると思う	118	34	54	26	23	5
3	やや理解不足だと思う	83	26	32	31	16	0
4	理解不足だと思う	65	17	10	34	16	3
	有効回答数	335	109	127	106	64	9

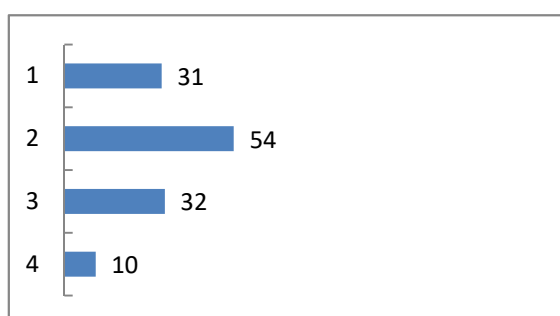
【全体】



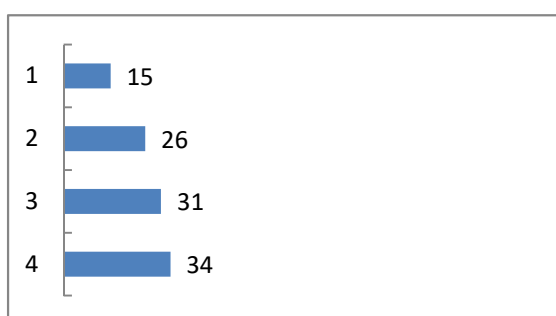
【身体】



【知的】



【精神】

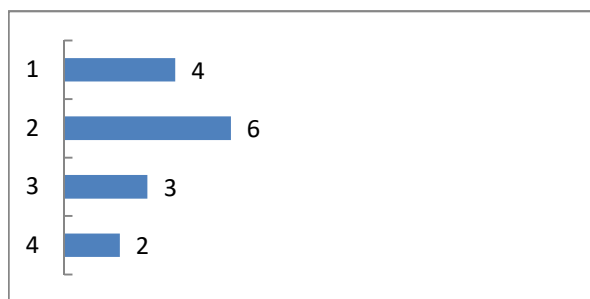


身体、知的、発達では、「2 やや理解があると思う」が最も多くなっています。精神では、「3 やや理解不足だと思う」と「4 理解不足だと思う」を合わせると、6割以上が理解不足と感じています。

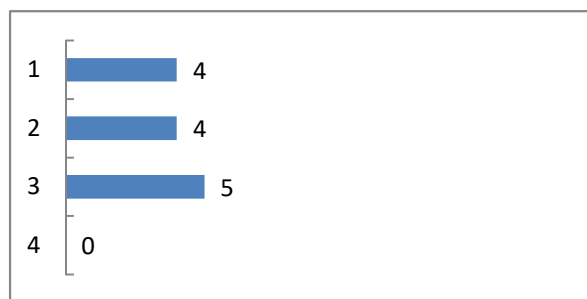
単位：人

		厚木	厚木南	依知	睦合	睦合南	荻野	小鮎 緑ヶ丘	玉川 森の里	南毛利	相川 南毛利南
1	理解があると思う	4	4	8	4	6	6	4	5	12	6
2	やや理解があると思う	6	4	12	11	12	14	9	4	17	11
3	やや理解不足だと思う	3	5	12	6	7	9	7	3	12	6
4	理解不足だと思う	2	0	9	6	11	9	5	0	9	4
	有効回答数	15	13	41	27	36	38	25	12	50	27

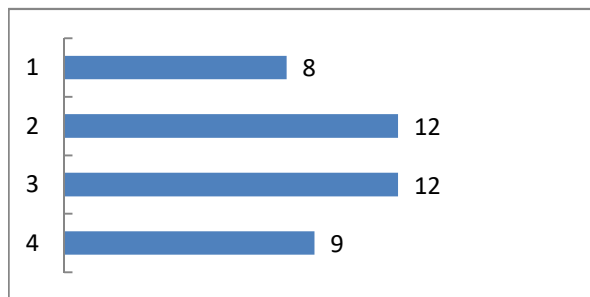
【厚木】



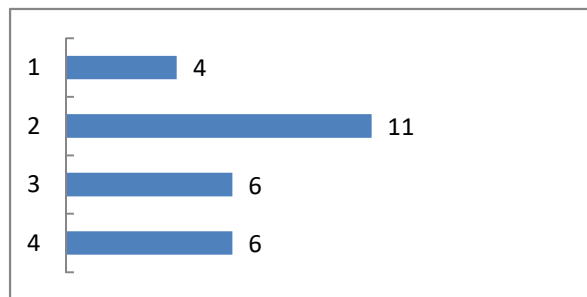
【厚木南】



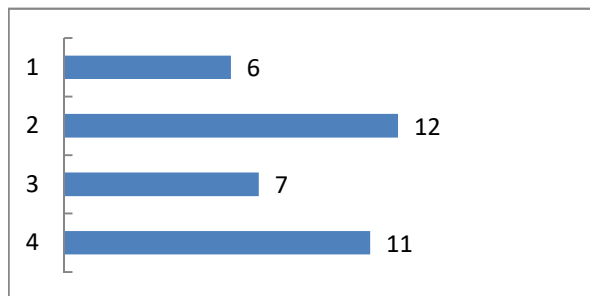
【依知】



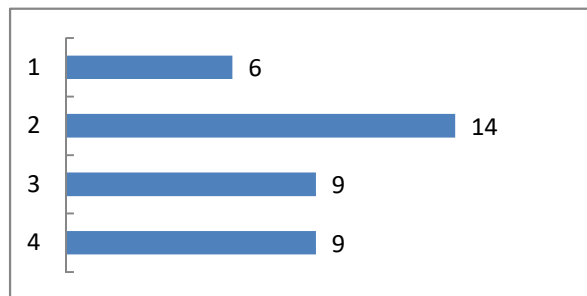
【睦合】



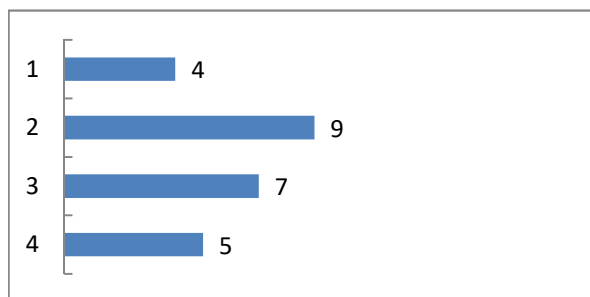
【睦合南】



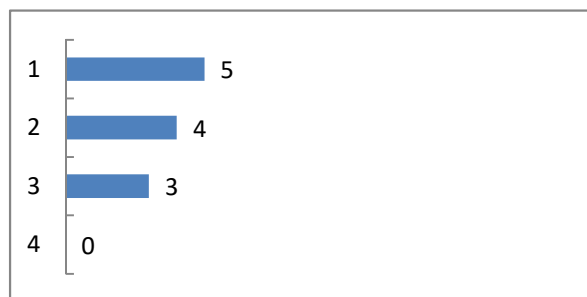
【荻野】



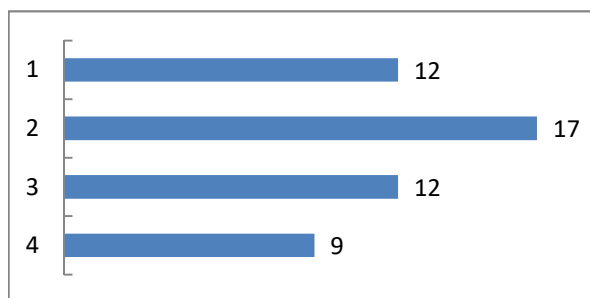
【小鮎・緑ヶ丘】



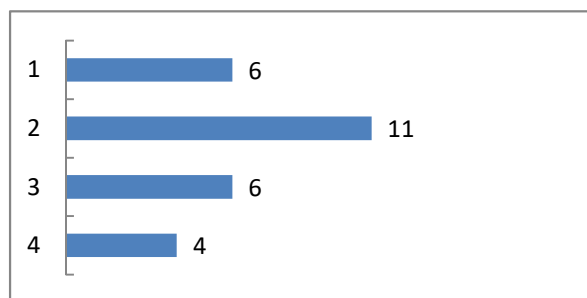
【玉川・森の里】



【南毛利】



【相川・南毛利南】



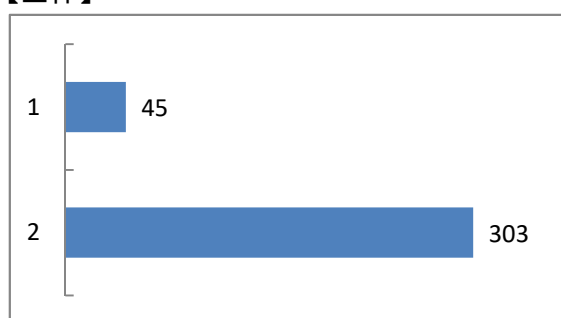
ほぼ全ての地区で、「1 理解があると思う」、「2 やや理解があると思う」の合計が5割を上回っています。

問16 あなたは、障がいのある方が困ったときに誰かに手助けを受けるための「ヘルプカード」を持っていますか。（1つに○）

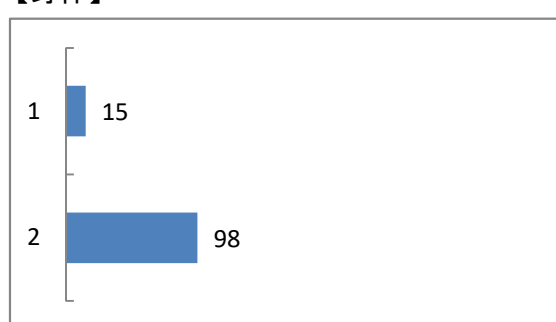
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	ある	45	15	21	17	11	2
2	ない	303	98	109	91	56	8
	有効回答数	348	113	130	108	67	10

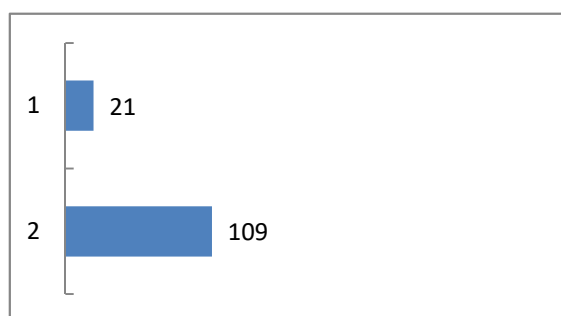
【全体】



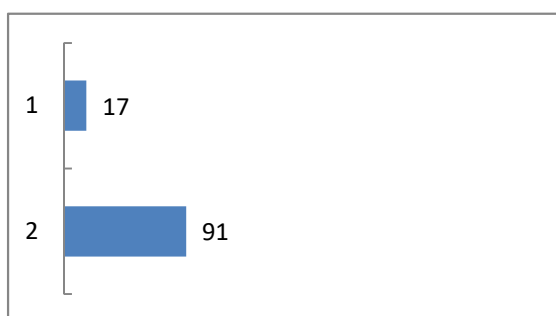
【身体】



【知的】



【精神】



約9割の人が、ヘルプカードを持っていない状況です。

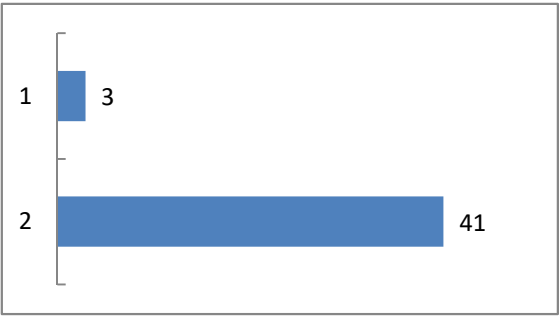
問16で「1 持っている」と答えた方におたずねします。

問17 ヘルプカードを見せて、誰かに手助けを受けたことがありますか。（1つに○）

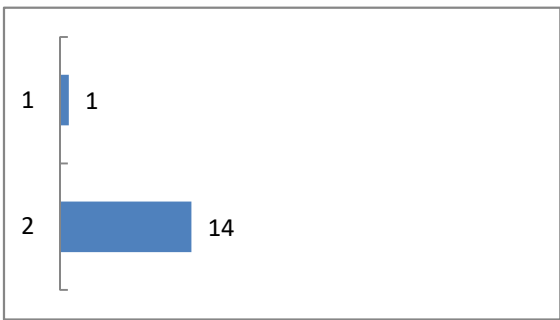
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	ある	3	1	0	2	0	0
2	ない	41	14	21	14	11	2
	有効回答数	44	15	21	16	11	2

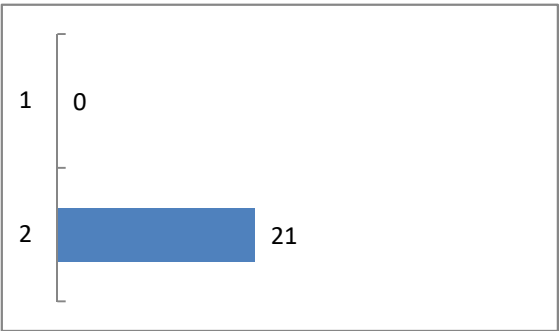
【全体】



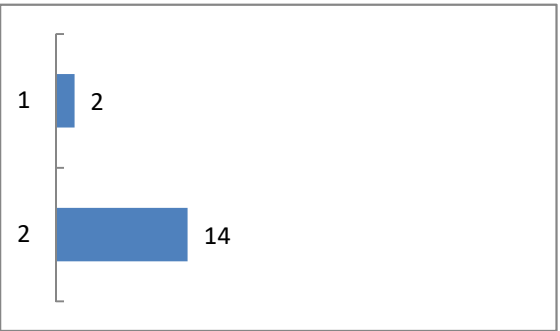
【身体】



【知的】



【精神】



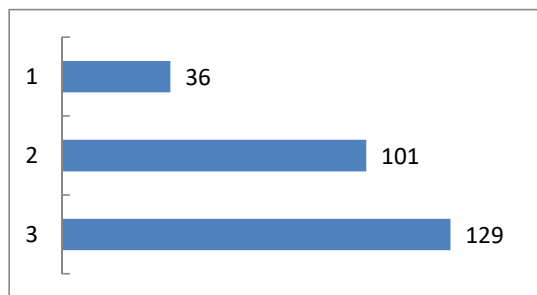
9割以上の方が、手助けを受けたことがないと回答しています。

問18 地域の人とつながりを持てる場や、交流する機会がありますか。（1つに○）

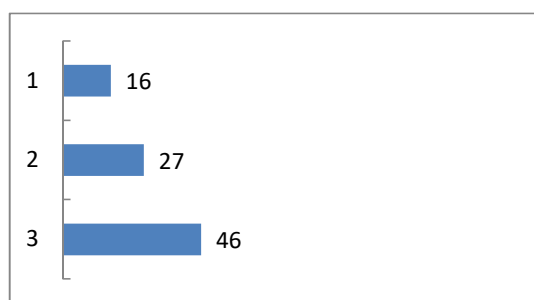
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	ある	36	16	14	10	5	2
2	少しある	101	27	41	33	20	1
3	ない	129	46	50	44	21	2
	有効回答数	266	89	105	87	46	5

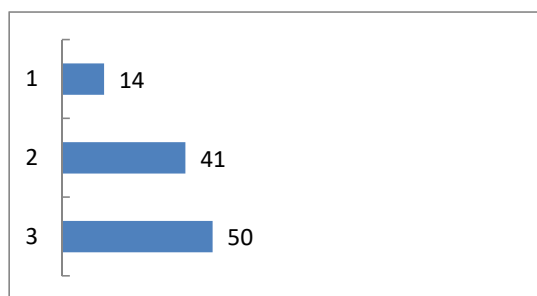
【全体】



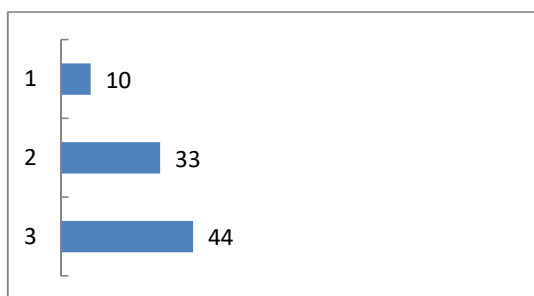
【身体】



【知的】



【精神】

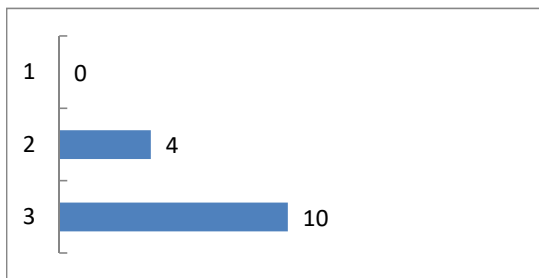


全体では、「1 ある」、「2 少しある」の合計が5割を上回っています。

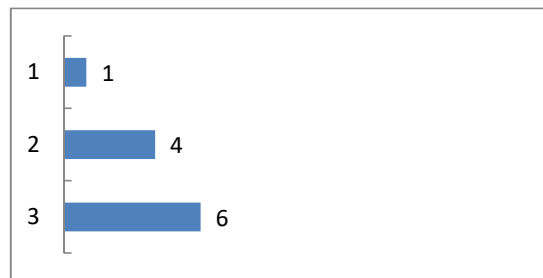
単位：人

		厚木	厚木南	依知	睦合	睦合南	荻野	小鮎 緑ヶ丘	玉川 森の里	南毛利	相川 南毛利南
1	ある	0	1	4	1	5	4	3	2	7	4
2	少しある	4	4	11	12	9	14	7	4	13	10
3	ない	10	6	19	10	16	13	13	4	15	9
	有効回答数	14	11	34	23	30	31	23	10	35	23

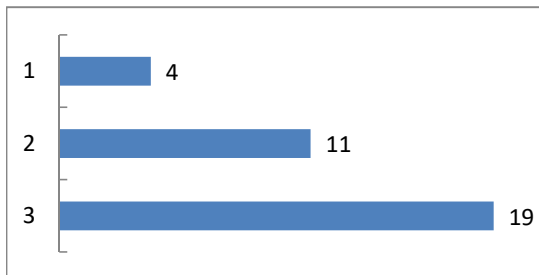
【厚木】



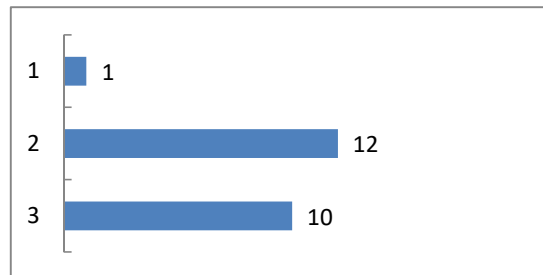
【厚木南】



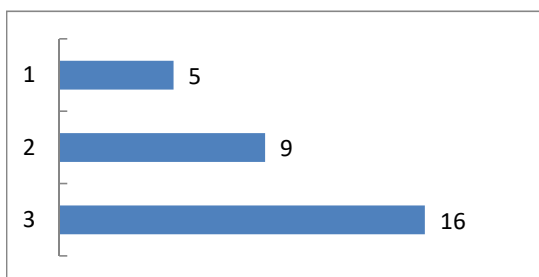
【依知】



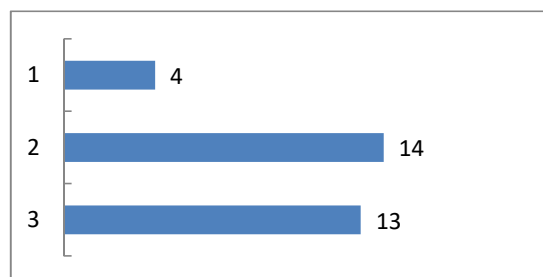
【睦合】



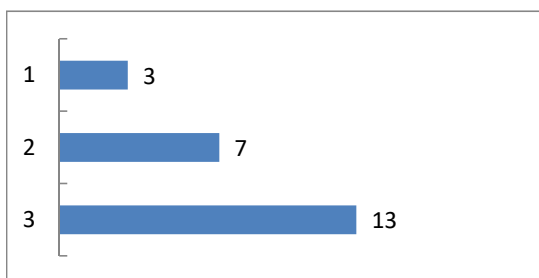
【睦合南】



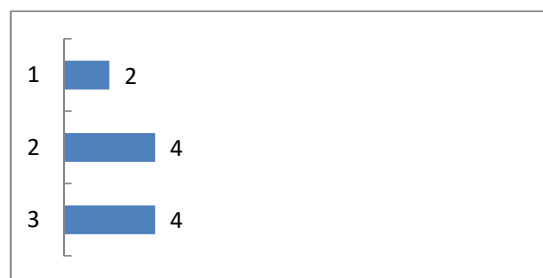
【荻野】



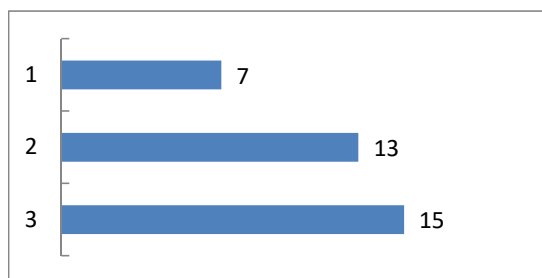
【小鮎・緑ヶ丘】



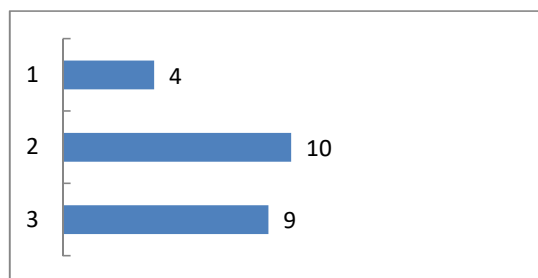
【玉川・森の里】



【南毛利】



【相川・南毛利南】



「1 ある」、「2 少しある」の合計が5割を上回った地区は、「睦合」、「荻野」、「玉川・森の里」、「南毛利」、「相川・南毛利南」の5地区です。厚木地区では、7割以上が「3 ない」と回答していますが、高層マンション建設等により人口は増加傾向にあり、隣近所との人間関係が希薄な地域があるためと思われます。

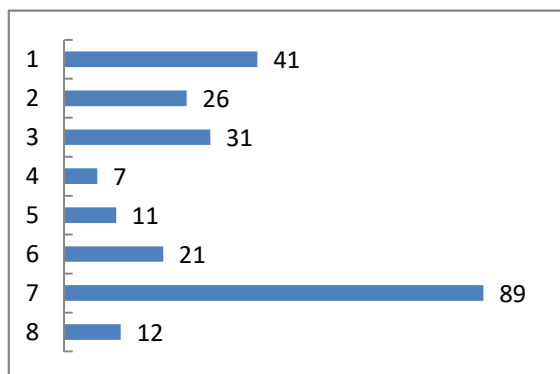
問18で「1 ある」「2 少しある」と答えた方におたずねします。

問19 どんなつながりや機会がありますか。（あてはまるものすべてに○）

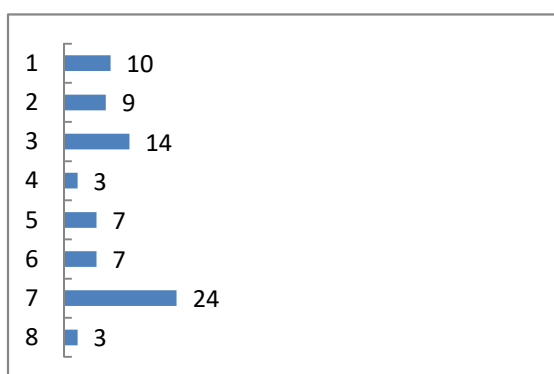
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	運動会などの地域の行事	41	10	24	7	10	1
2	清掃などの自治会活動	26	9	12	5	6	1
3	近隣住民とのおしゃべり	31	14	9	11	5	1
4	地域サロンやミニデイ	7	3	4	2	0	0
5	趣味やサークル	11	7	3	3	1	1
6	学校、団体、地域の役員	21	7	5	3	10	0
7	あいさつする程度	89	24	34	36	15	2
8	その他	12	3	3	6	1	0

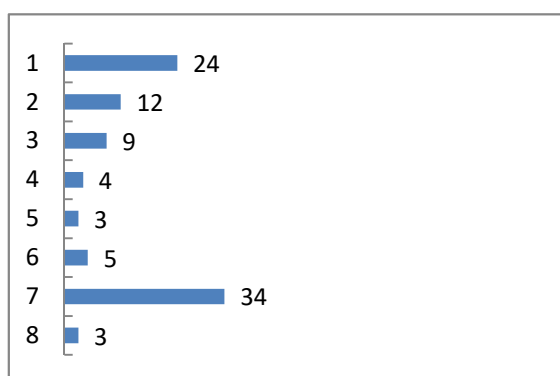
【全体】



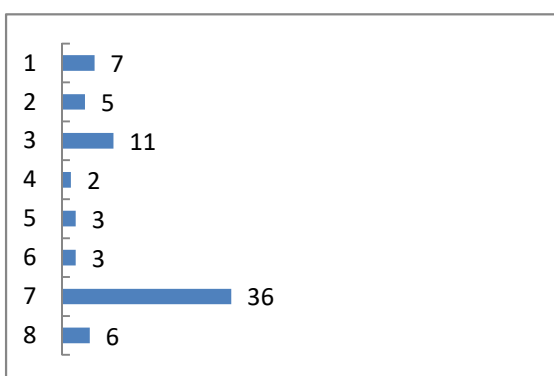
【身体】



【知的】



【精神】

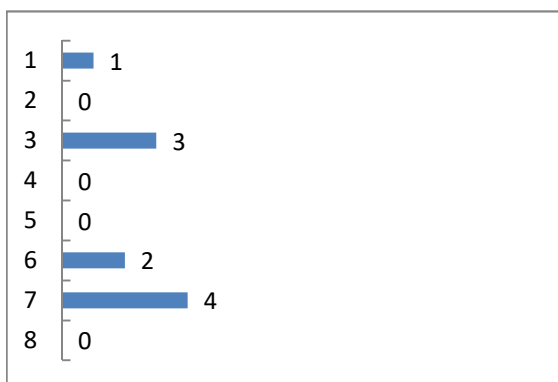


全ての障がい者で、「7 あいさつする程度」が最も多くなっています。知的において、「1 運動会などの地域の行事」が多くなっているのは、施設の運動会に参加している人が多かったためと思われます。

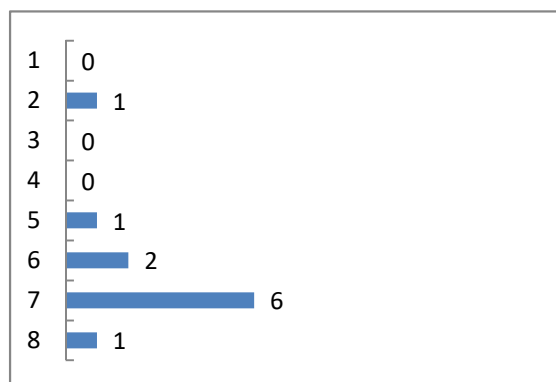
単位：人

		厚木	厚木南	依知	睦合	睦合南	荻野	小鮎 緑ヶ丘	玉川 森の里	南毛利	相川 南毛利南
1	運動会などの地域の行事	1	0	4	5	3	3	2	3	4	6
2	清掃などの自治会活動	0	1	2	2	1	4	3	1	5	3
3	近隣住民とのおしゃべり	3	0	0	5	3	4	3	0	6	3
4	地域サロンやミニデイ	0	0	0	3	0	1	1	0	1	0
5	趣味やサークル	0	1	2	0	1	0	2	0	2	3
6	学校、団体、地域の役員	2	2	1	2	3	1	2	0	4	3
7	あいさつする程度	4	6	12	7	7	14	8	3	11	7
8	その他	0	1	1	3	1	1	0	1	0	1

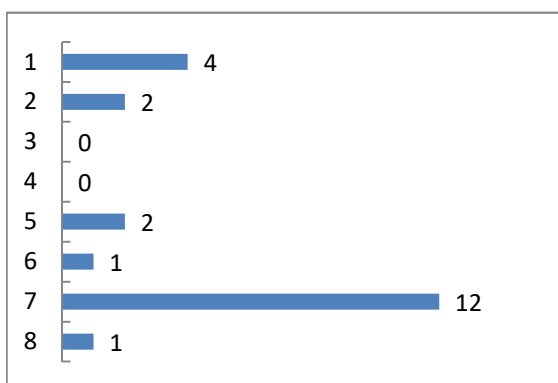
【厚木】



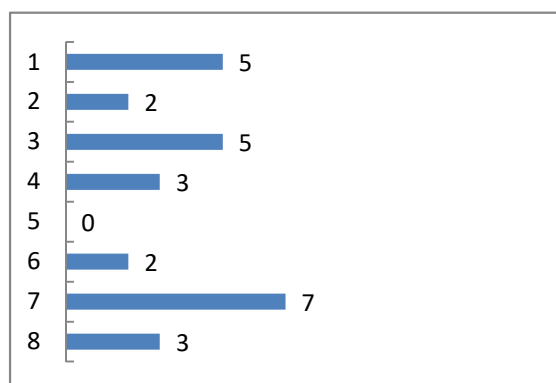
【厚木南】



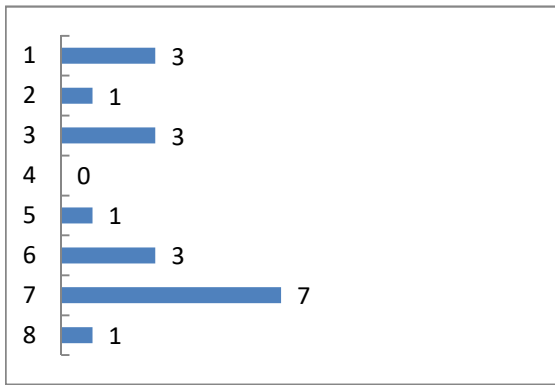
【依知】



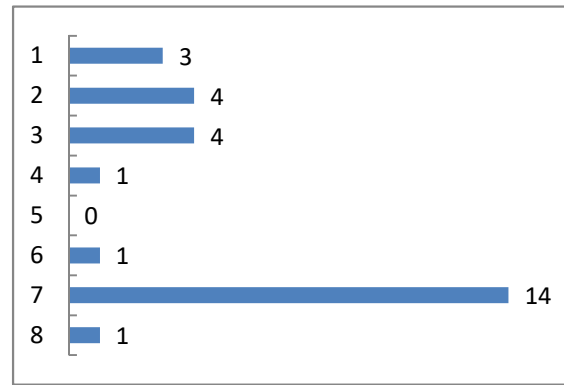
【睦合】



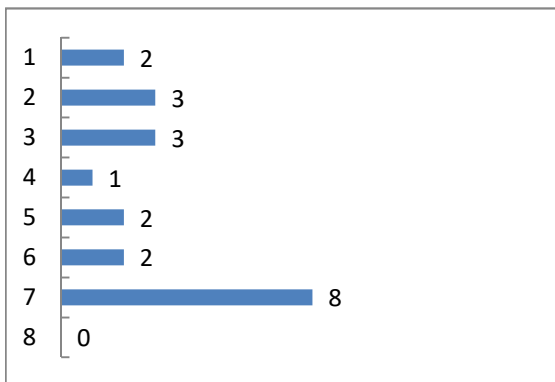
【睦合南】



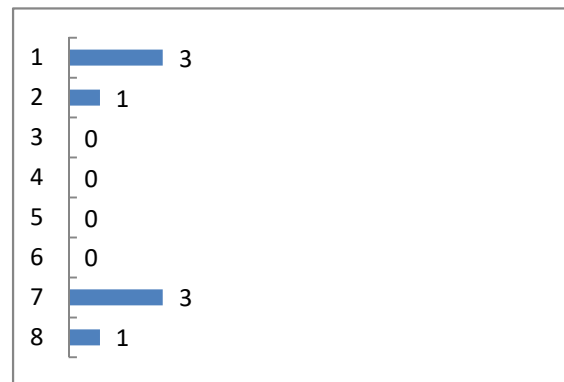
【荻野】



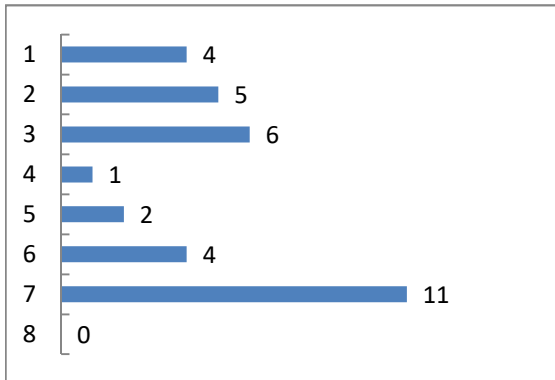
【小鮎・緑ヶ丘】



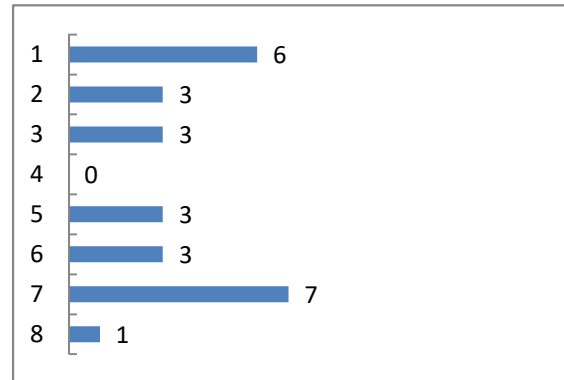
【玉川・森の里】



【南毛利】



【相川・南毛利南】



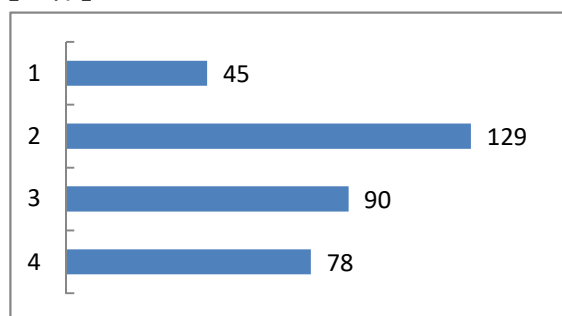
全ての地区で、「7 あいさつする程度」が最も多くなっています。

問20 あなたがお住まいの地域で、住民同士の助け合いがありますか。
(1つに○)

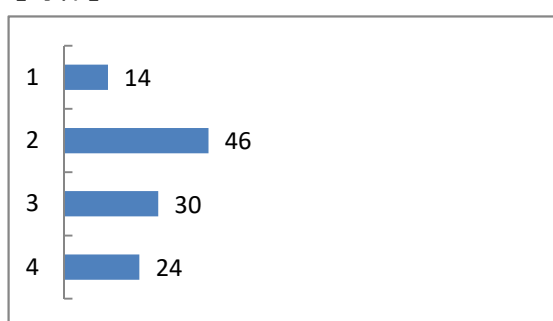
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	思う	45	14	22	13	4	1
2	どちらかというところがあると思う	129	46	49	30	27	6
3	どちらかというところはない	90	30	38	23	19	1
4	あると思わない	78	24	16	40	15	2
	有効回答数	342	114	125	106	65	10

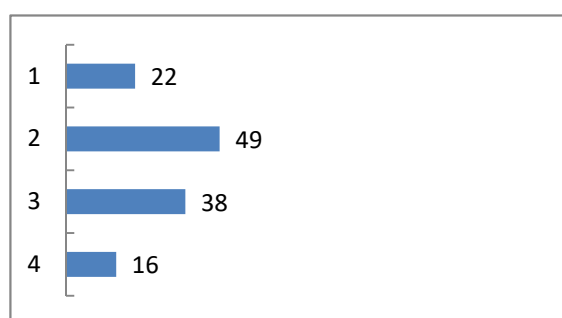
【全体】



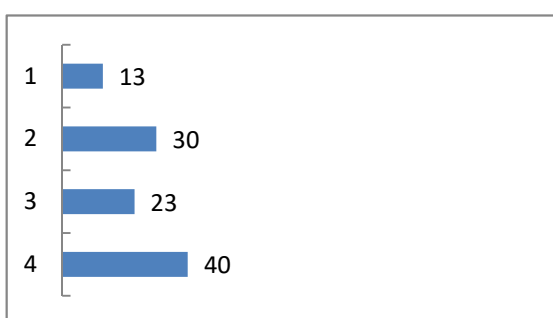
【身体】



【知的】



【精神】

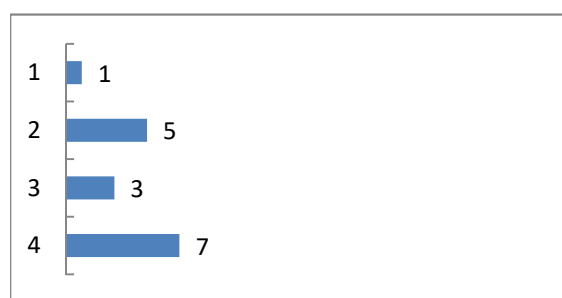


全体では、「1 思う」、「2 どちらかというところがあると思う」の合計が5割を上回っています。

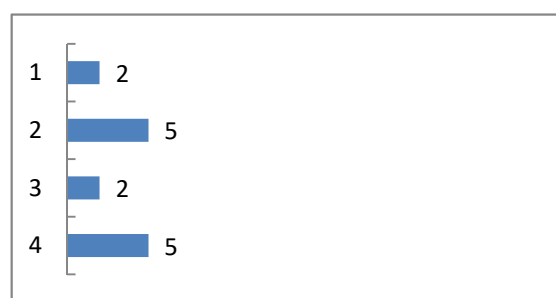
単位：人

		厚木	厚木南	依知	睦合	睦合南	荻野	小鮎 緑ヶ丘	玉川 森の里	南毛利	相川 南毛利南
1	思う	1	2	4	1	3	4	7	5	6	4
2	どちらかという とあると思う	5	5	13	12	14	10	11	7	28	10
3	どちらかという とあると思わない	3	2	12	6	9	14	4	1	14	6
4	思わない	7	5	15	6	11	9	7	1	4	5
	有効回答数	16	14	44	25	37	37	29	14	52	25

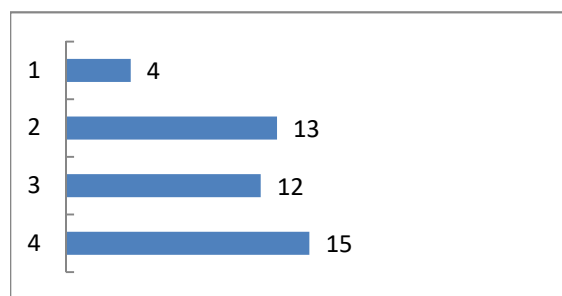
【厚木】



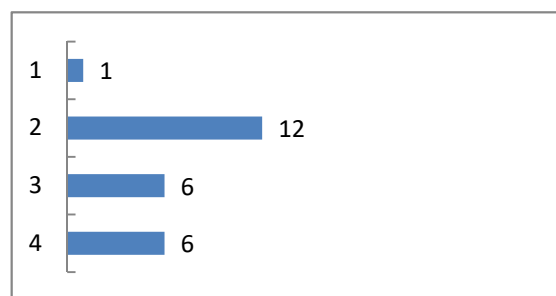
【厚木南】



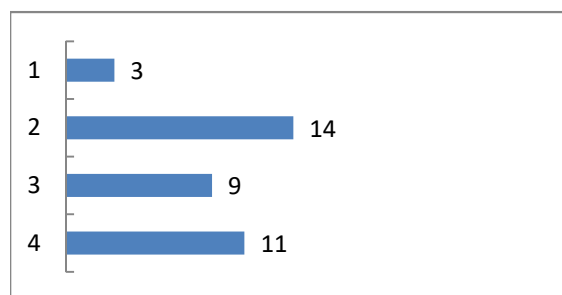
【依知】



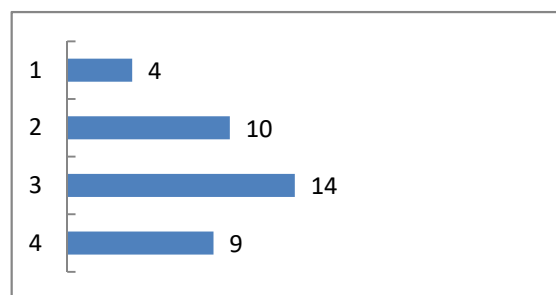
【睦合】



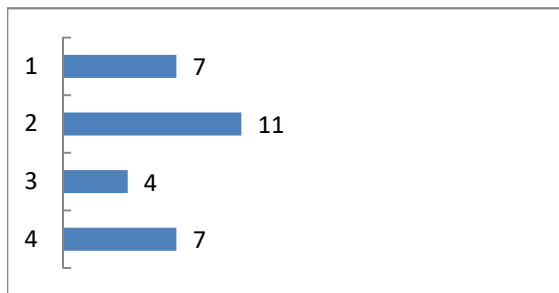
【睦合南】



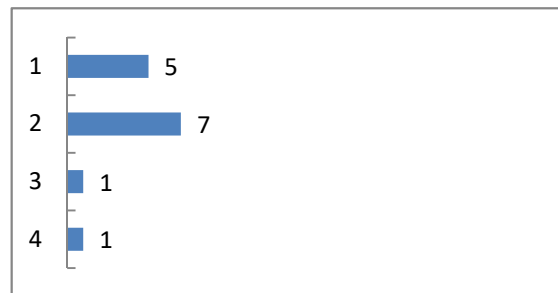
【荻野】



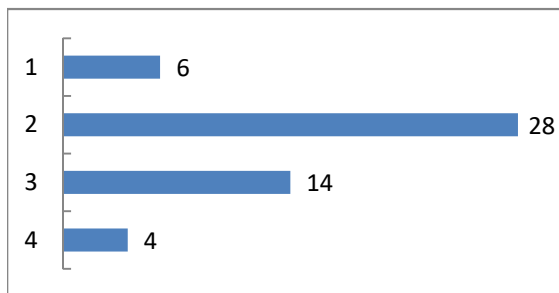
【小鮎・緑ヶ丘】



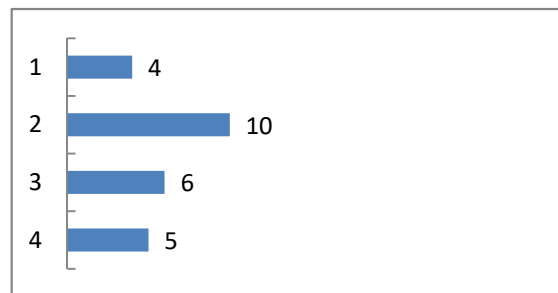
【玉川・森の里】



【南毛利】



【相川・南毛利南】



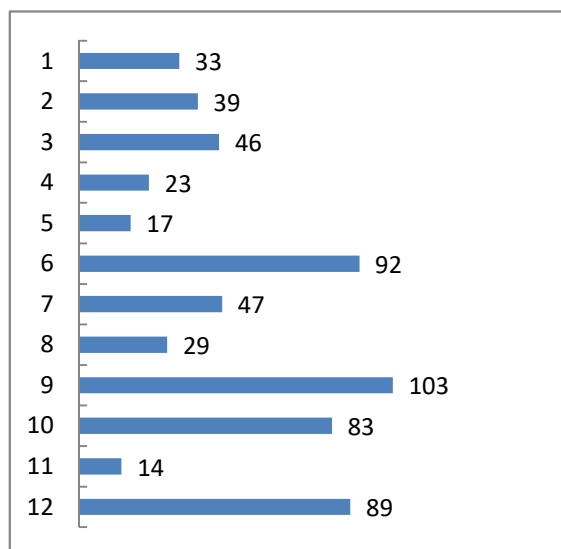
「1 思う」、「2 どちらかというと思う」の合計が5割を上回った地区は、「厚木南」、「睦合」、「小鮎・緑ヶ丘」、「玉川・森の里」、「南毛利」、「相川・南毛利南」となっています。

問21 あなたがお住まいの地域に、あってほしい住民同士の助け合いはありますか。
(3つまで○)

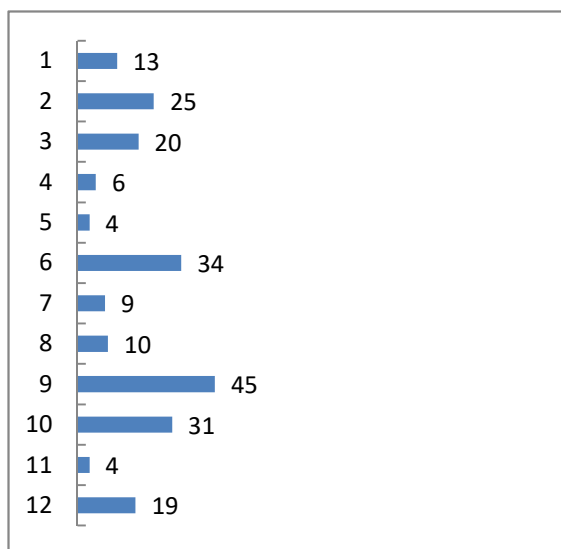
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	洗濯や食事の準備などの日常的な家事支援	33	13	12	11	3	1
2	ごみ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事	39	25	9	10	1	2
3	通院、買い物などの外出のお手伝い	46	20	19	12	5	0
4	食事の配達サービス	23	6	8	14	2	0
5	健康管理の支援	17	4	6	9	2	0
6	見守り・安否確認	92	34	40	20	21	3
7	悩み事の相談	47	9	10	30	13	1
8	日常会話の相手	29	10	6	11	5	2
9	急病などの緊急時の手助け	103	45	40	23	18	3
10	気軽に行ける自由な居場所づくり	83	31	32	23	17	1
11	その他	14	4	7	2	7	0
12	特にない	89	19	37	28	17	2

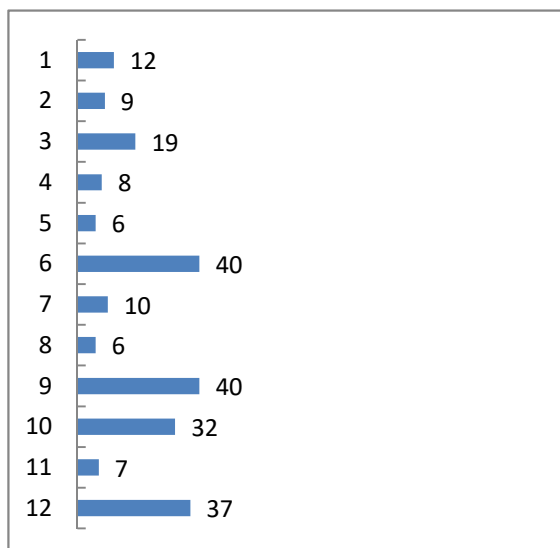
【全体】



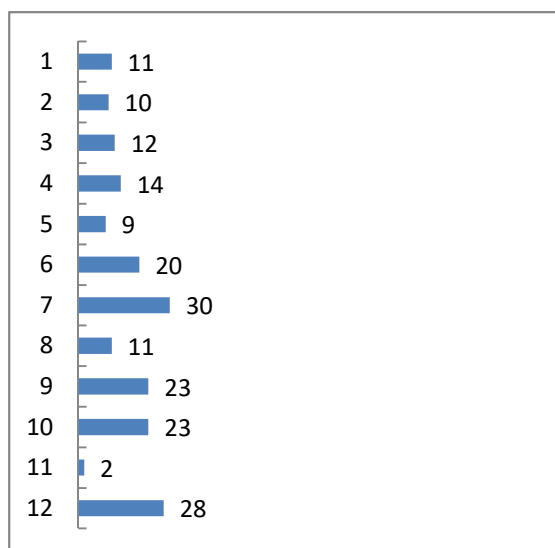
【身体】



【知的】



【精神】

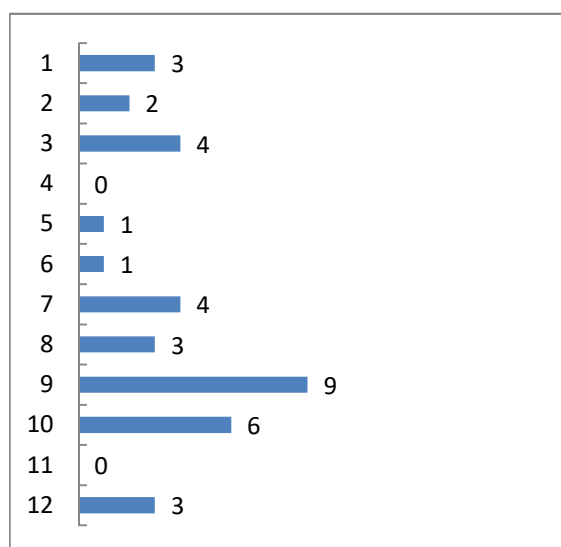


全体では、「9 急病などの緊急時の手助け」が最も多く、次いで「6 見守り・安否確認」となっています。身体、知的、発達では、ほぼ同様の傾向となりますが、精神では、「7 悩み事の相談」が最も多くなっています。

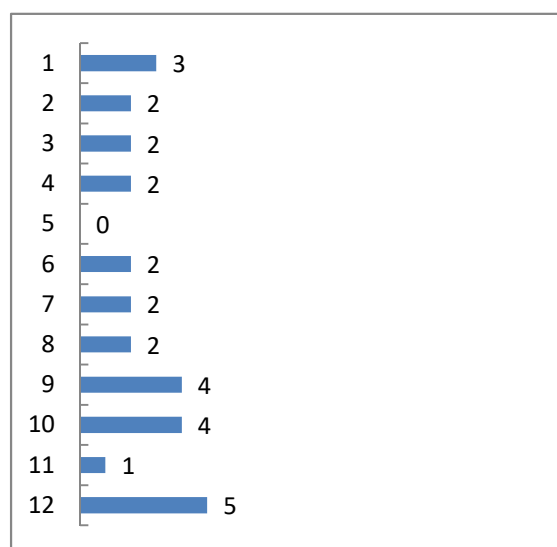
単位：人

		厚木	厚木南	依知	睦合	睦合南	荻野	小鮎 緑ヶ丘	玉川 森の里	南毛利	相川 南毛利南
1	家事支援	3	3	4	1	4	1	3	2	2	5
2	ごみ出し～	2	2	6	4	2	3	3	2	5	5
3	外出お手伝い	4	2	8	2	6	6	4	2	5	2
4	食事の配達	0	2	4	4	0	2	3	1	2	2
5	健康管理	1	0	4	1	1	1	4	2	0	0
6	見守り	1	2	13	5	11	13	5	2	13	14
7	悩み事相談	4	2	5	8	7	6	4	1	5	1
8	会話相手	3	2	2	3	3	4	3	0	4	0
9	緊急時手助け	9	4	10	12	11	8	8	5	17	6
10	居場所	6	4	11	11	11	11	8	1	9	2
11	その他	0	1	1	0	1	0	4	0	2	0
12	特にない	3	5	11	5	10	13	7	7	10	8

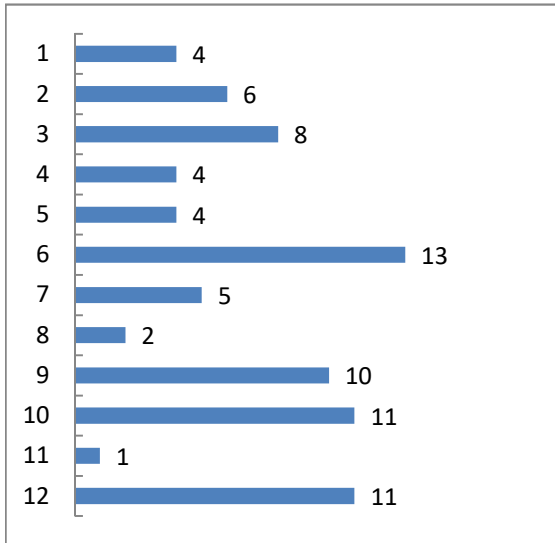
【厚木】



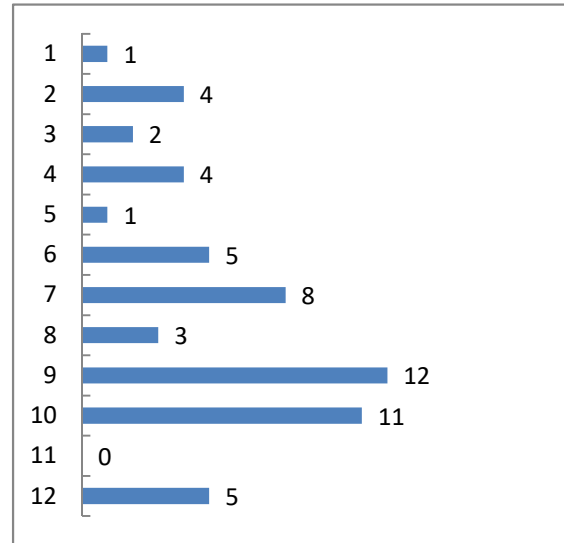
【厚木南】



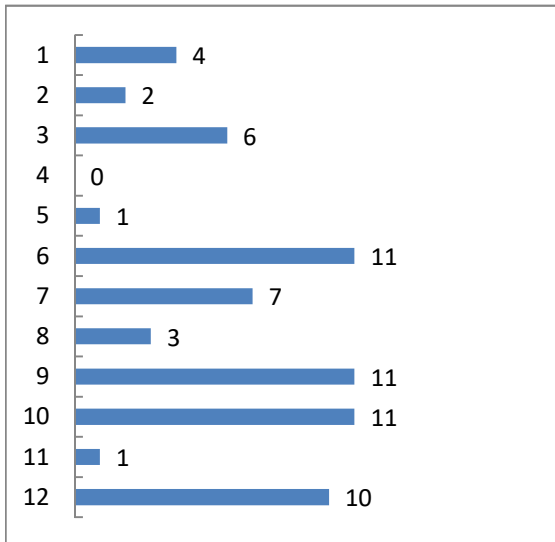
【依知】



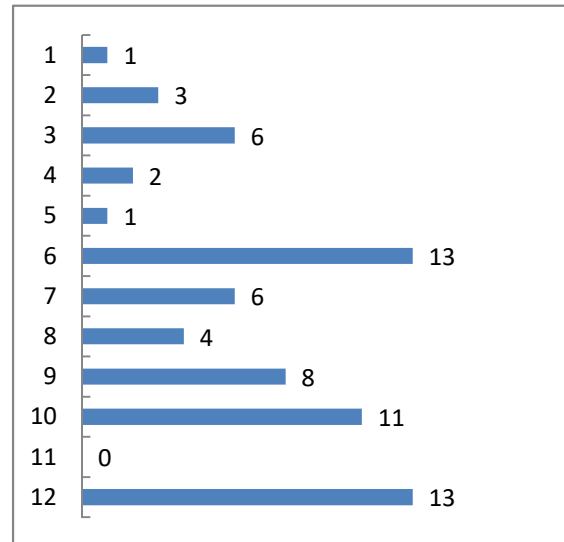
【睦合】



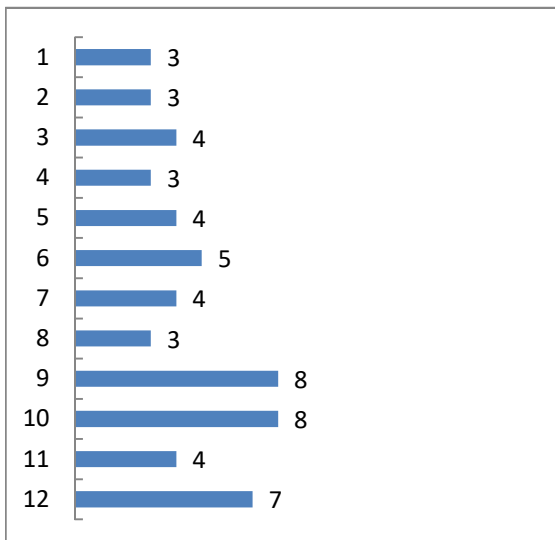
【睦合南】



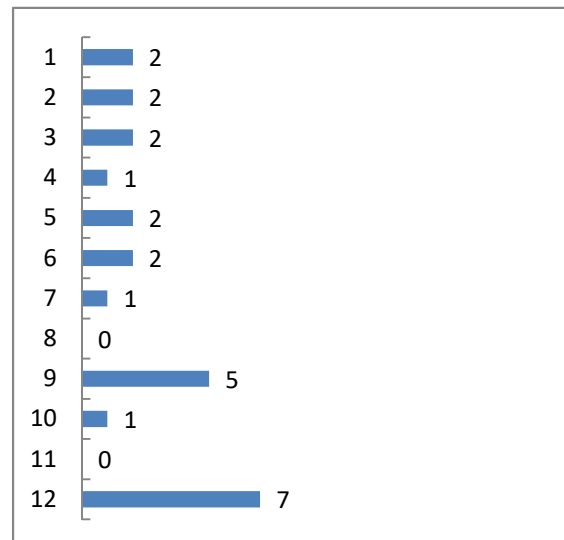
【萩野】



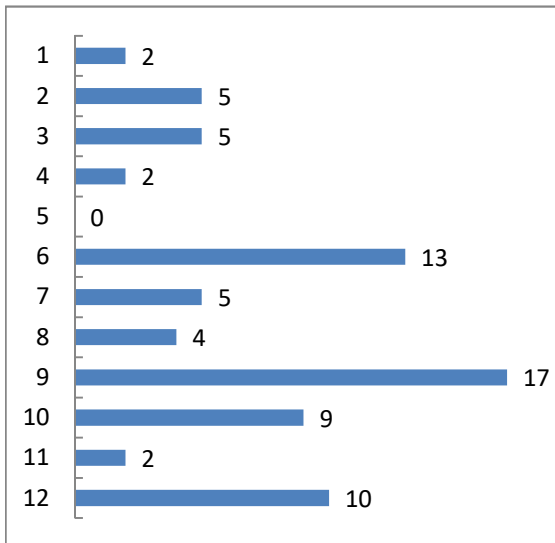
【小鮎・緑ヶ丘】



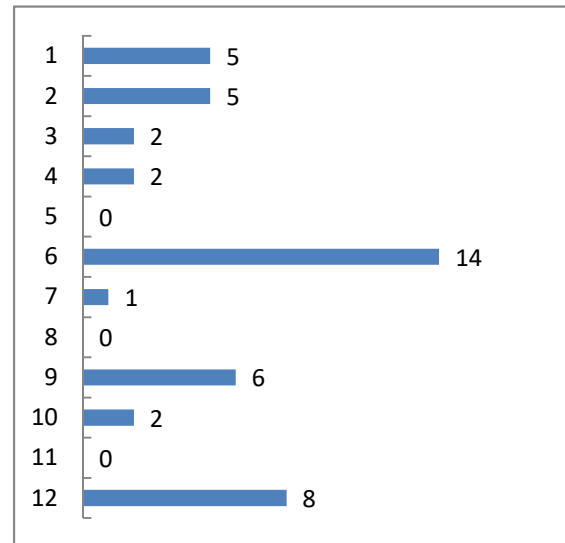
【玉川・森の里】



【南毛利】



【相川・南毛利南】



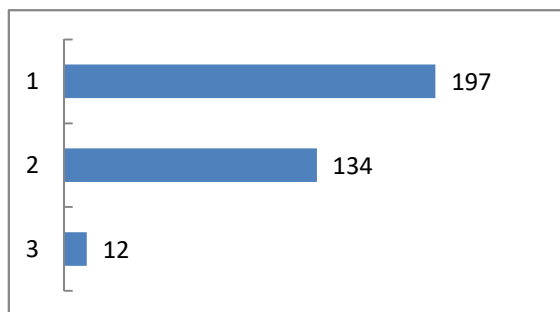
地区別では、「依知」、「睦合南」、「荻野」、「相川・南毛利南」で「6 見守り・安否確認」が多く、「厚木」、「厚木南」、「睦合南」、「小鮎・緑ヶ丘」、「玉川・森の里」、「南毛利」で「9 急病などの緊急時の手助け」が多くなっています。全体では、「10 気軽に行ける自由な居場所づくり」、「12 特にない」も多くなっています。

問22 あなたは自宅、学校、職場（事業所を含む）以外の居場所が必要ですか。
（1つに○）

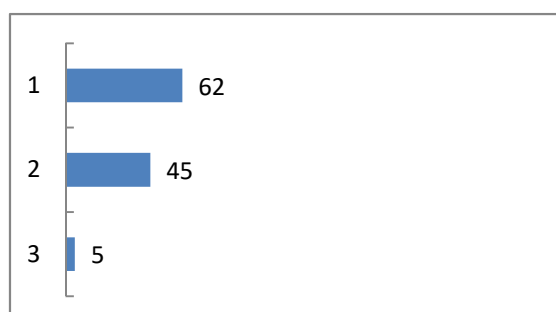
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	必要である	197	62	67	69	46	6
2	必要ではない	134	45	57	34	20	4
3	その他	12	5	4	3	2	1
	有効回答数	343	112	128	106	68	11

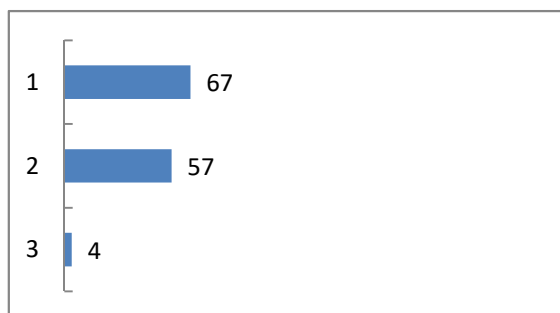
【全体】



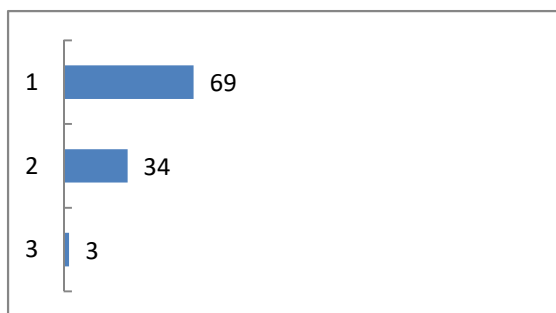
【身体】



【知的】



【精神】



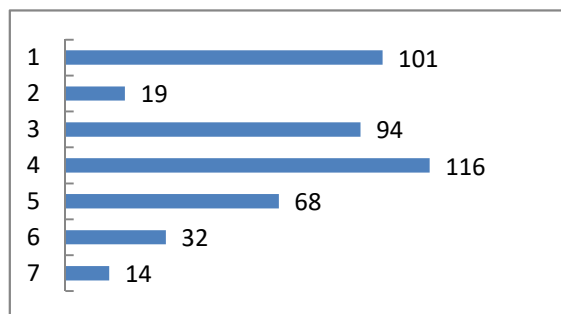
全体では、約6割が「1 必要である」と回答しています。身体、知的よりも、精神、発達の方が、「1 必要である」と回答する割合が多くなっています。

問22で「1 必要である」と答えた方におたずねします。
 問23 あなたが考える自分の居場所とはどんな場所ですか。
 (3つまで○)

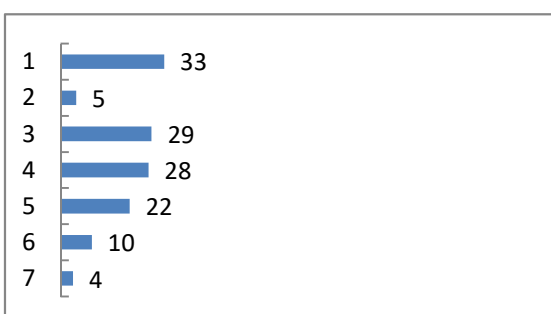
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	共通の趣味や話題のある人との交流	101	33	25	41	23	3
2	インターネット上での交流	19	5	2	11	9	1
3	同じ障がい特性を持った人との交流	94	29	26	39	20	5
4	自分の好きなことができる場所	116	28	43	40	37	2
5	同年代の人との交流（障がいの有無を問わない）	68	22	20	24	13	2
6	地域の交流スペース	32	10	8	12	5	2
7	その他	14	4	5	6	1	0

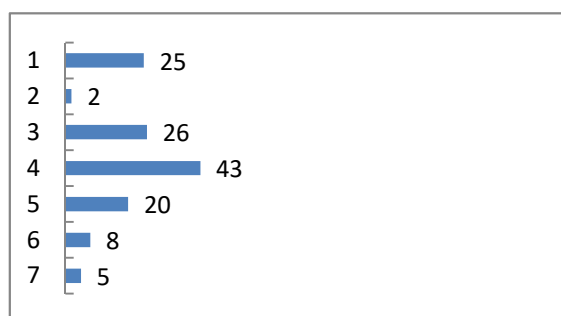
【全体】



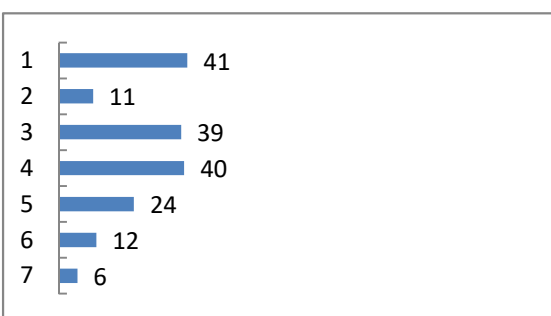
【身体】



【知的】



【精神】

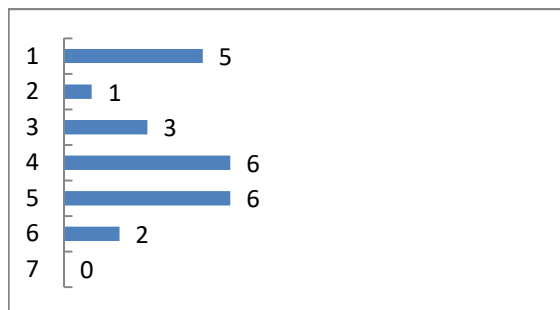


全体では、「4 自分の好きなことができる場所」が最も多く、次いで「1 共通の趣味や話題のある人との交流」となっています。また、「3 同じ障がい特性を持った人との交流」や「5 同年代の人との交流（障がいの有無を問わない）」の回答も多い一方で、「2 インターネット上での交流」は、「7 その他」を除き、最も回答数が少なくなっています。この結果から、顔の見えない交流よりも、顔の見える交流が必要とされていると考えられます。

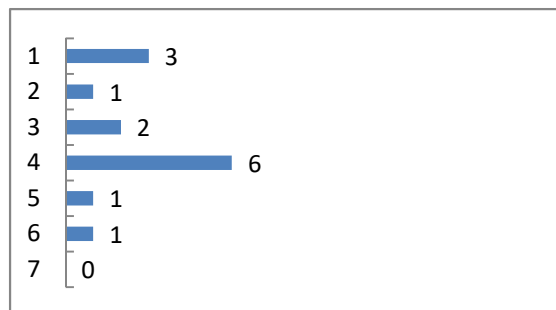
単位：人

		厚木	厚木南	依知	睦合	睦合南	荻野	小鮎 緑ヶ丘	玉川 森の里	南毛利	相川 南毛利南
1	共通の趣味や 話題のある人 との交流	5	3	13	9	11	11	9	2	14	10
2	インターネット 上での交流	1	1	2	0	1	1	1	1	4	2
3	同じ障がい特 性を持った人 との交流	3	2	13	8	8	8	10	5	10	9
4	自分の好きな ことができる 場所	6	6	16	5	12	12	10	7	16	9
5	同年代の人と の交流（障が いの有無を問 わない）	6	1	9	5	8	8	10	1	4	7
6	地域の交流ス ペース	2	1	4	3	3	3	3	0	4	2
7	その他	0	0	3	1	2	2	3	0	1	0

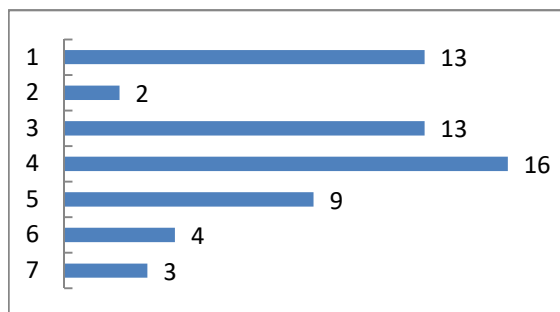
【厚木】



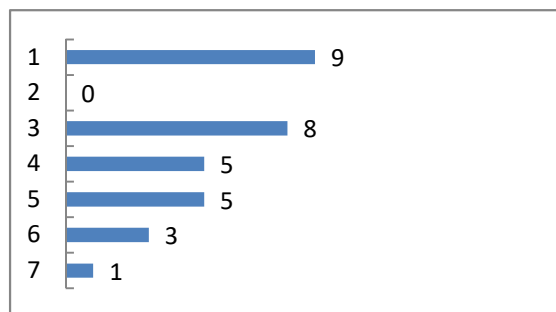
【厚木南】



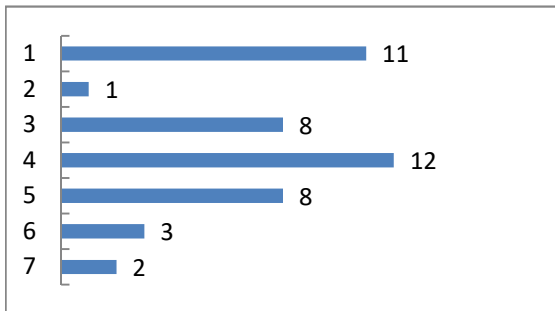
【依知】



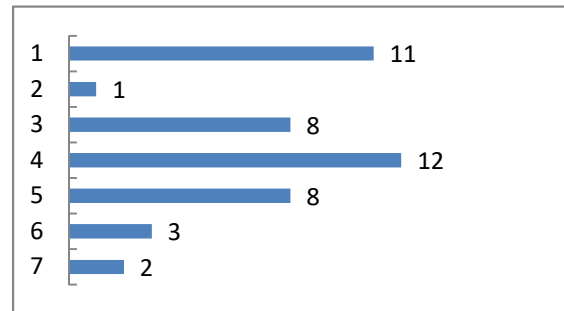
【睦合】



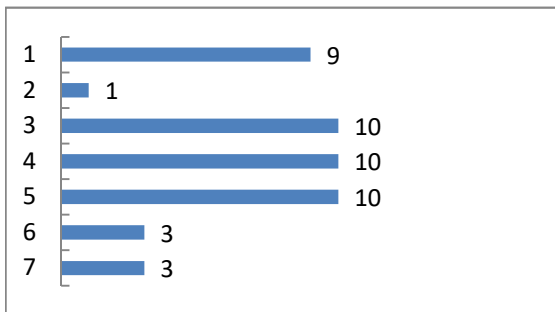
【睦合南】



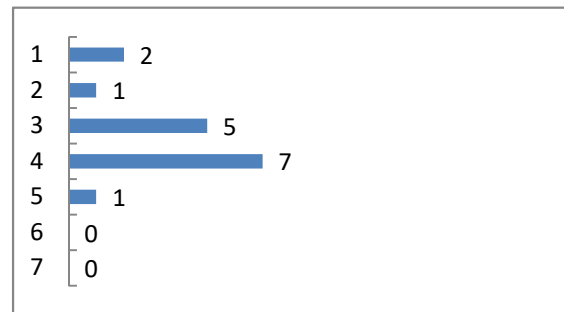
【荻野】



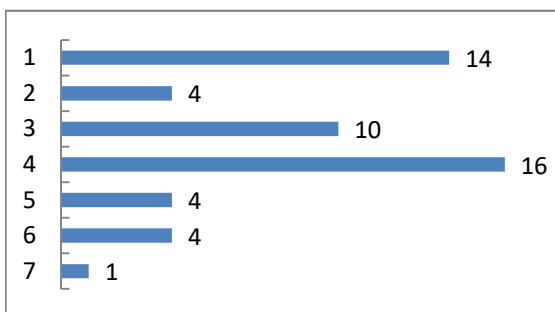
【小鮎・緑ヶ丘】



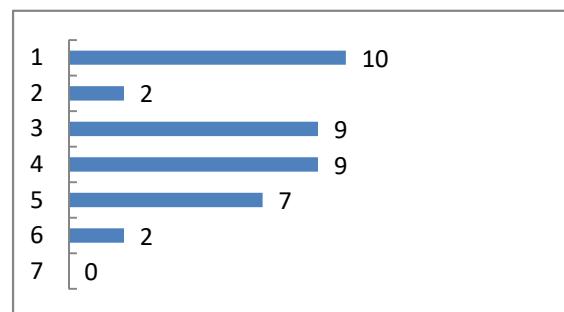
【玉川・森の里】



【南毛利】



【相川・南毛利南】



ほぼ全ての地域で、同様の回答傾向を示しており、「1 共通の趣味や話題のある人との交流」、「4 自分の好きなことができる場所」などが多く、「2 インターネット上の交流」、「6 地域の交流スペース」が少ない結果となっています。

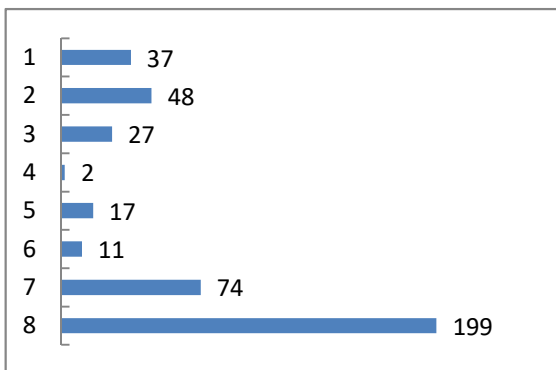
(3) 訪問系サービスについて

問24 あなたは、次の訪問系サービスを利用したことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

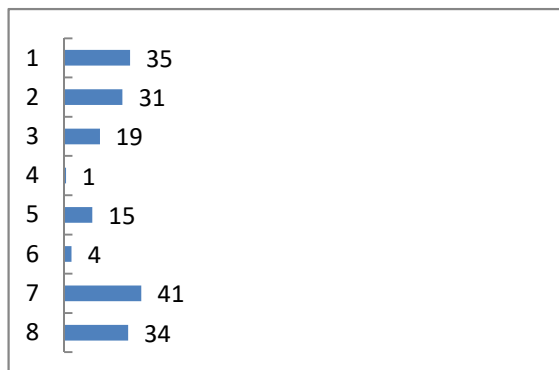
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	居宅介護（身体介護）	37	35	7	0	0	2
2	居宅介護（家事援助）	48	31	4	17	0	0
3	居宅介護（通院等介助）	27	19	7	4	1	0
4	重度訪問介護	2	1	0	1	0	0
5	同行援護	17	15	2	2	0	1
6	行動援護	11	4	7	1	3	0
7	移動支援	74	41	41	4	13	2
8	利用したことがない	199	34	76	74	51	6

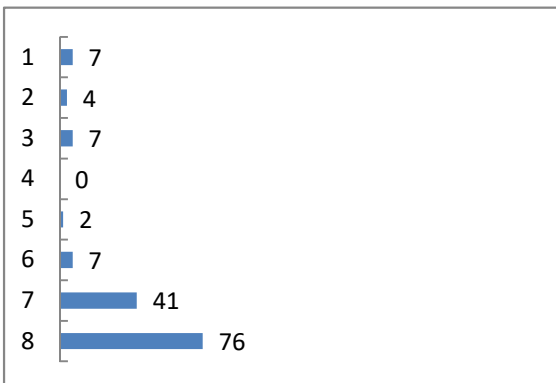
【全体】



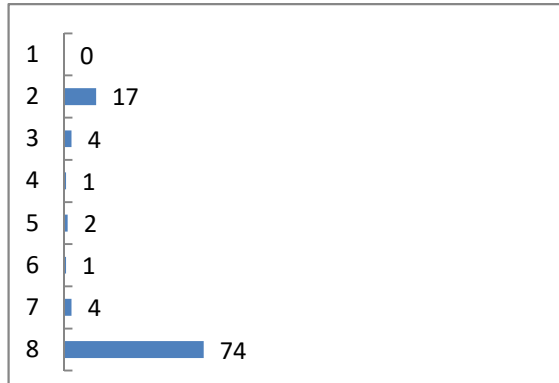
【身体】



【知的】

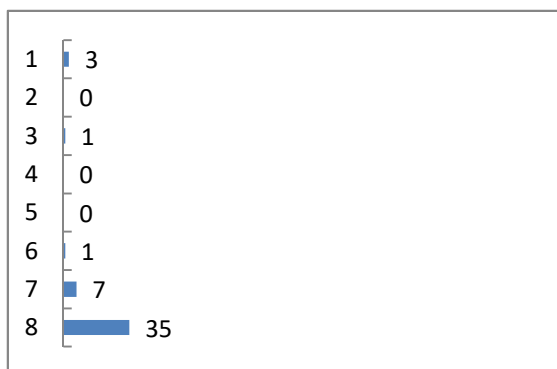


【精神】

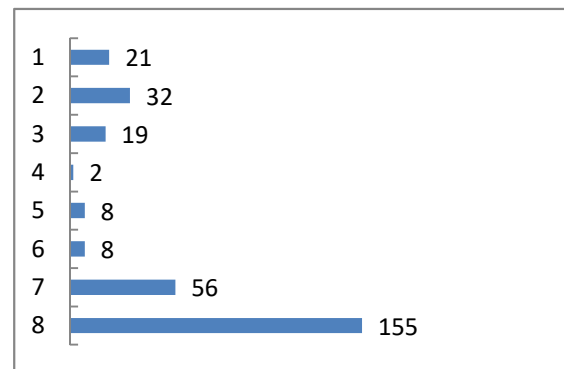


		障がい児	障がい者 ～64歳	障がい者 65歳～
1	居宅介護（身体介護）	3	21	13
2	居宅介護（家事援助）	0	32	15
3	居宅介護（通院等介助）	1	19	7
4	重度訪問介護	0	2	0
5	同行援護	0	8	9
6	行動援護	1	8	2
7	移動支援	7	56	11
8	利用したことがない	35	155	8

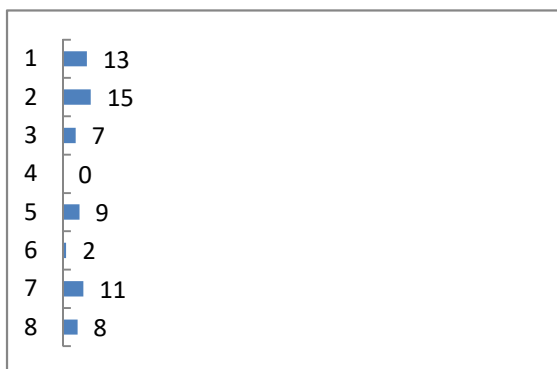
【障がい児】



【障がい者（～64歳）】



【障がい者（65歳～）】



全回答者368人のうち、「8 利用したことがない」の199人と未回答の39人を除くと、3割以上が利用しています。身体では、約6割の人が利用しています。

利用したことのサービスは、身体、知的、発達では、「7 移動支援」が最も多く、精神では、「2 居宅介護（家事援助）」が最も多くなっています。

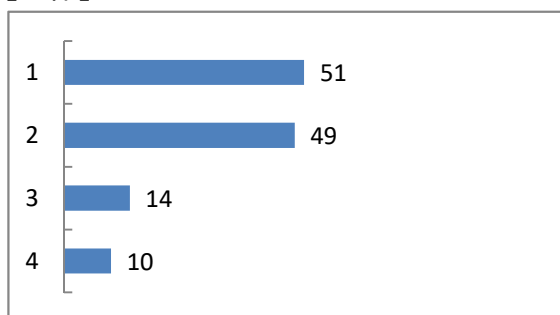
障がい児では約21%、障がい者（～64歳）では約33%、障がい者（65歳～）では約67%の利用率となっており、年齢が上がるとともに利用率が上昇しています。

問25 訪問系サービスで受けるサービス内容に満足していますか。（1つに○）

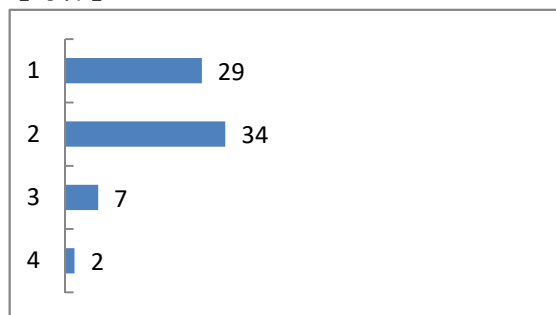
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	満足している	51	29	16	13	1	3
2	やや満足している	49	34	14	8	5	1
3	やや不満である	14	7	6	3	3	0
4	不満である	10	2	7	1	4	0
	有効回答数	124	72	43	25	13	4

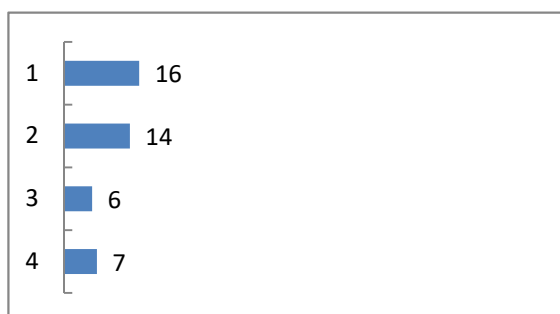
【全体】



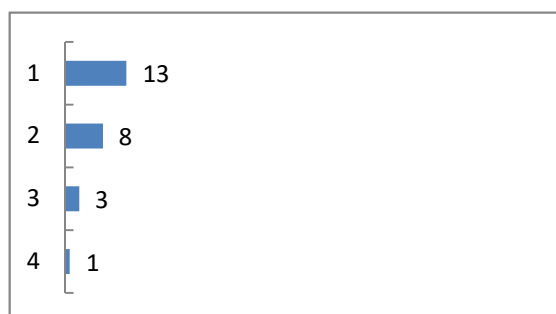
【身体】



【知的】



【精神】



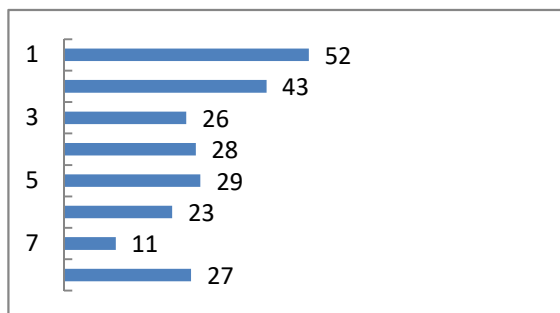
全体では、「1 満足している」が最も多く、「1 満足している」、「2 やや満足している」の合計が8割を上回っています。

問26 訪問系サービスについて、あなたが改善してほしい（こうなってほしい）と思うことは何ですか。（3つまで○）

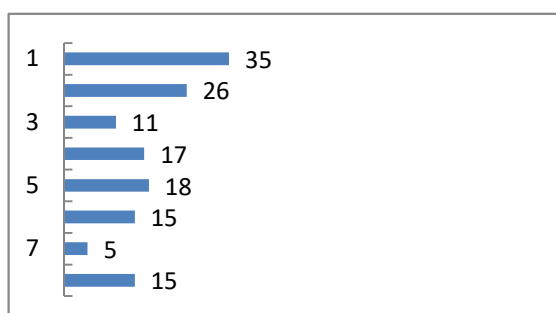
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	利用できる回数や時間を増やす	52	35	15	10	5	1
2	希望する曜日や時間帯に利用できるようにする	43	26	15	8	9	1
3	利用できる事業者の数を増やす	26	11	16	2	7	0
4	サービスの質をよくする	28	17	8	6	4	1
5	サービス利用料を安くする	29	18	7	8	3	0
6	サービスについての情報提供を増やす	23	15	9	4	3	0
7	その他	11	5	5	1	1	0
8	特にない	27	15	9	8	0	3

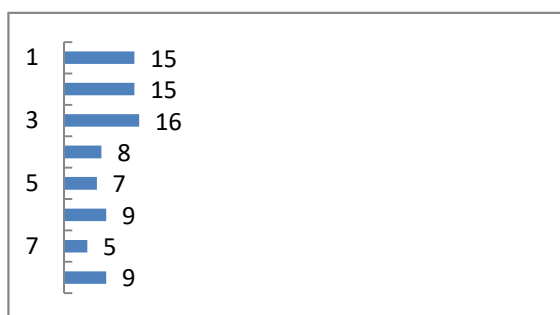
【全体】



【身体】



【知的】



【精神】



全体では、「1 利用できる回数や時間を増やす」、「2 希望する曜日や時間帯に利用できるようにする」の合計が約4割となっています。

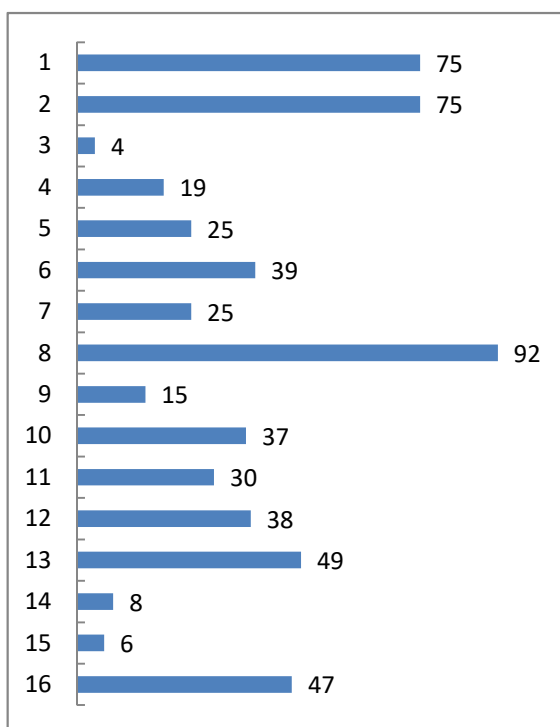
(4) 日中活動系サービスについて

問27 あなたは、次の日中活動系サービスを利用したことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

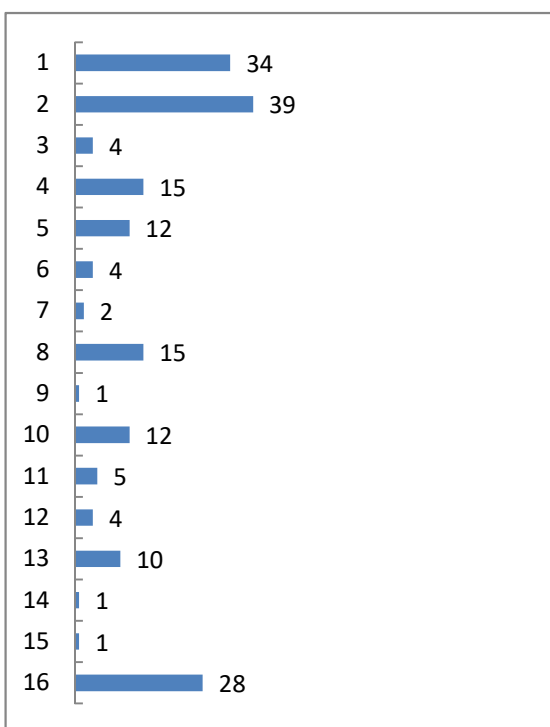
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	短期入所	75	34	47	8	10	4
2	生活介護	75	39	45	8	7	3
3	療養介護	4	4	1	0	0	1
4	自立訓練（機能訓練）	19	15	3	3	1	1
5	自立訓練（生活訓練）	25	12	8	5	3	1
6	就労移行支援	39	4	6	25	6	2
7	就労継続支援（A型）	25	2	7	17	4	0
8	就労継続支援（B型）	92	15	37	50	11	2
9	就労定着支援	15	1	7	5	6	0
10	日中一時支援	37	12	30	3	11	0
11	地域活動支援センター	30	5	5	21	2	0
12	児童発達支援	38	4	15	1	26	0
13	放課後等デイサービス	49	10	27	7	25	1
14	保育所等訪問支援	8	1	2	0	7	0
15	その他	6	1	1	3	1	0
16	利用したことがない	47	28	11	8	5	2

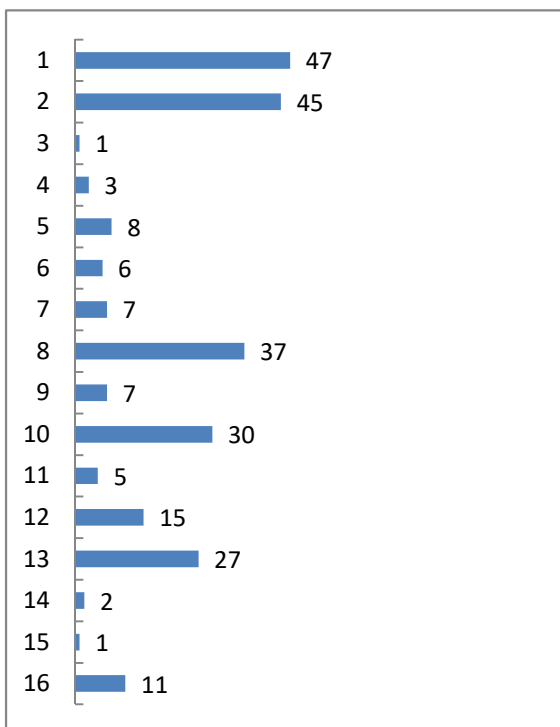
【全体】



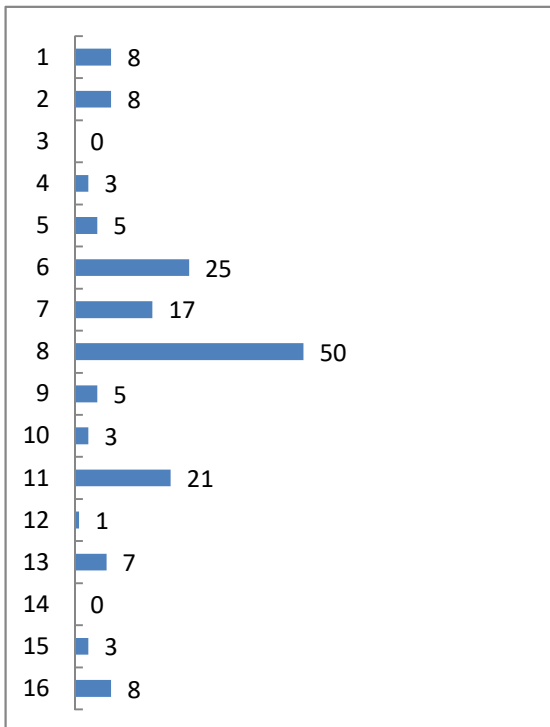
【身体】



【知的】



【精神】



全回答者368人のうち、「16 利用したことがない」の47人と未回答の19人を除くと、8割以上が利用しており、障がい種別を問わず利用率が高くなっています。

身体と知的では、「1 短期入所」と「2 生活介護」が多くなっています。

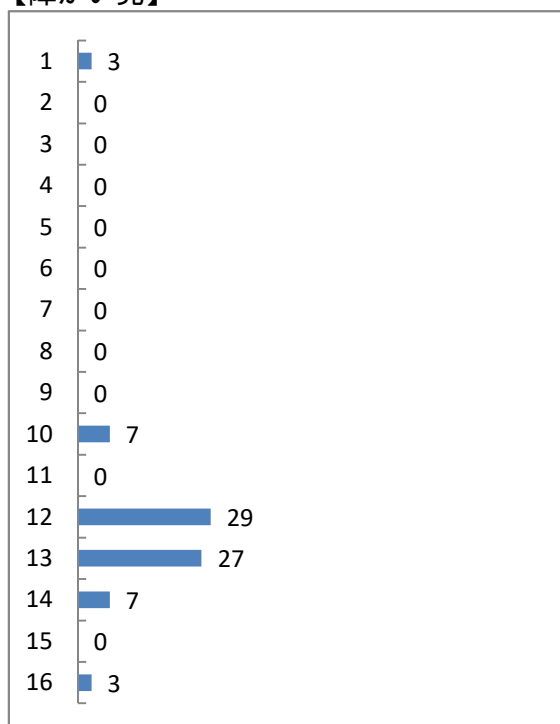
精神では、「8 就労継続支援（B型）」や「6 就労移行支援」など、就労系のサービスが多くなっています。

発達では、「12 児童発達支援」や「13 放課後等デイサービス」など、療育系のサービスが多くなっています。

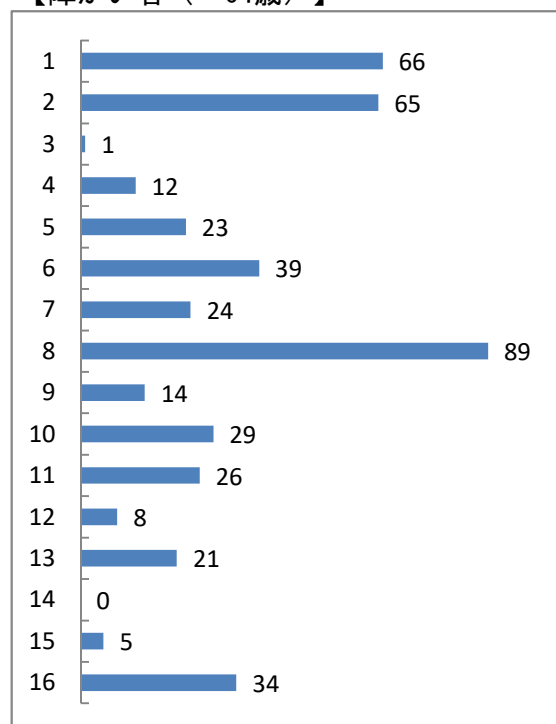
単位：人

		障がい児	障がい者 ～64歳	障がい者 65歳～
1	短期入所	3	66	6
2	生活介護	0	65	10
3	療養介護	0	1	3
4	自立訓練（機能訓練）	0	12	7
5	自立訓練（生活訓練）	0	23	2
6	就労移行支援	0	39	0
7	就労継続支援（A型）	0	24	1
8	就労継続支援（B型）	0	89	3
9	就労定着支援	0	14	1
10	日中一時支援	7	29	0
11	地域活動支援センター	0	26	4
12	児童発達支援	29	8	0
13	放課後等デイサービス	27	21	0
14	保育所等訪問支援	7	0	0
15	その他	0	5	1
16	利用したことがない	3	34	10

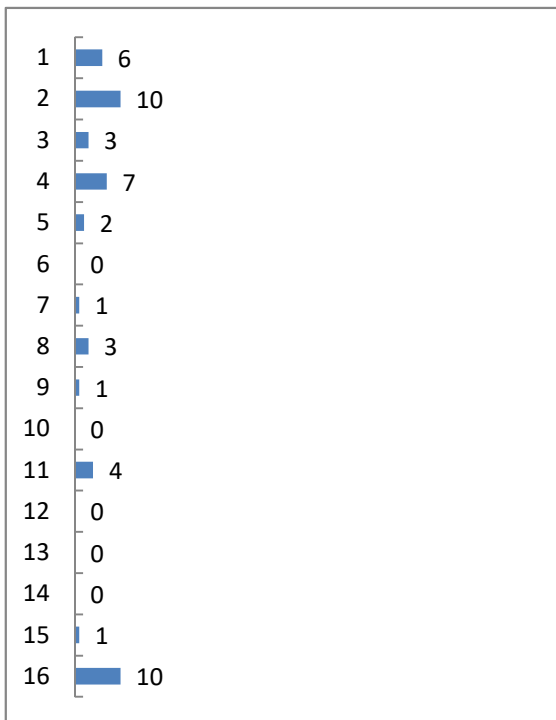
【障がい児】



【障がい者（～64歳）】



【障がい者（65歳～）】



障がい児では、「12 児童発達支援」、「13 放課後等デイサービス」などの児童福祉法のサービスが中心となっています。障がい者（～64歳）では、「1 短期入所」、「2 生活介護」、「8 就労継続支援（B型）」が多くなり、障がい者（65歳～）では、「1 短期入所」、「2 生活介護」、「4 自立訓練（機能訓練）」が多くなっています。

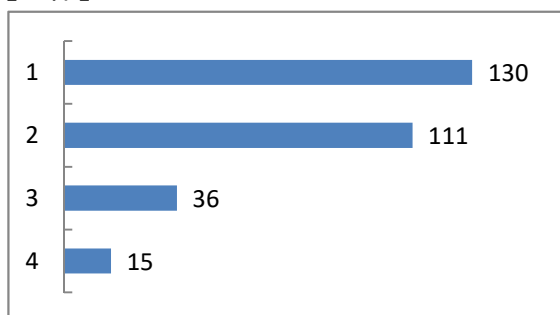
障がい児では約91%、障がい者（～64歳）では約84%、障がい者（65歳～）では約57%の利用率となっており、年齢が上がるとともに利用率が低下していきます。

問28 日中活動系サービスで受けるサービス内容に満足していますか。（1つに○）

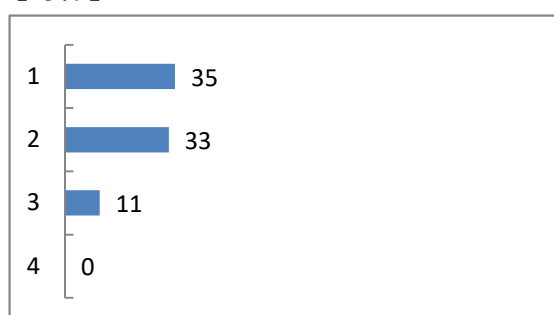
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	満足している	130	35	52	43	25	5
2	やや満足している	111	33	43	38	23	2
3	やや不満である	36	11	14	12	9	1
4	不満である	15	0	6	7	7	0
	有効回答数	292	79	115	100	64	8

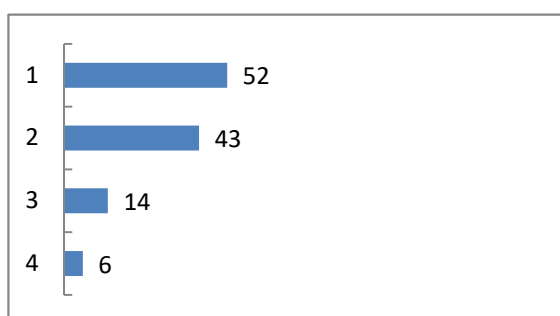
【全体】



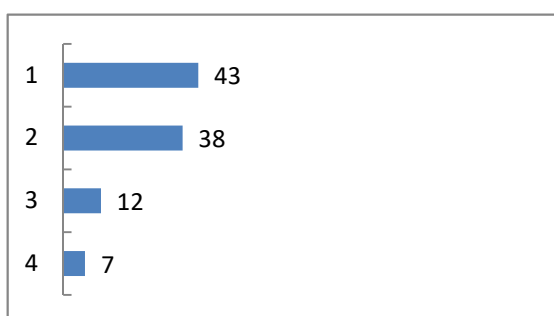
【身体】



【知的】



【精神】



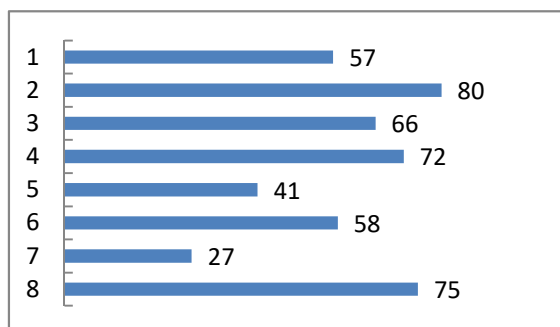
全体では、「1 満足している」が最も多く、「1 満足している」、「2 やや満足している」の合計が8割を上回っています。

問29 日中活動系サービスについて、あなたが改善してほしい（こうなってほしい）と思うことは何ですか。（3つまで○）

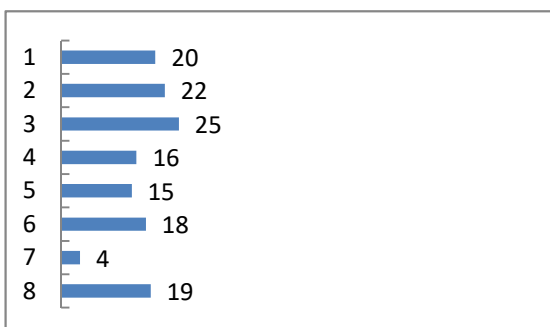
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	利用できる回数や時間を増やす	57	20	21	18	20	1
2	希望する曜日や時間帯に利用できるようにする	80	22	28	24	26	2
3	利用できる事業者の数を増やす	66	25	29	15	16	0
4	サービスの質をよくなる	72	16	32	24	18	1
5	サービス利用料を安くする	41	15	11	16	6	1
6	サービスについての情報提供を増やす	58	18	18	22	14	1
7	その他	27	4	9	14	7	1
8	特にない	75	19	34	24	11	5

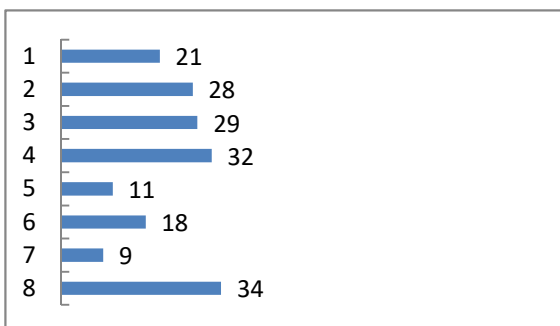
【全体】



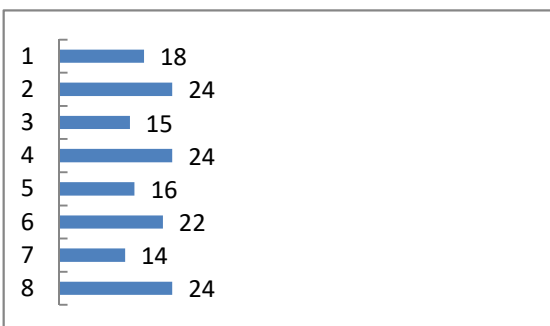
【身体】



【知的】



【精神】



全体では、「2 希望する曜日や時間帯に利用できるようにする」が最も多く、次いで「8 特にない」、「サービスの質をよくなる」となっています。

「8 特にない」を除いた項目としては、身体では、「3 利用できる事業者の数を増やす」、知的では、「4 サービスの質をよくなる」、精神では、「2 希望する曜日や時間帯に利用できるようにする」と「4 サービスの質をよくなる」、発達では、「2 希望する曜日や時間帯に利用できるようにする」が最も多く、障がい種別によって異なる結果となりました。

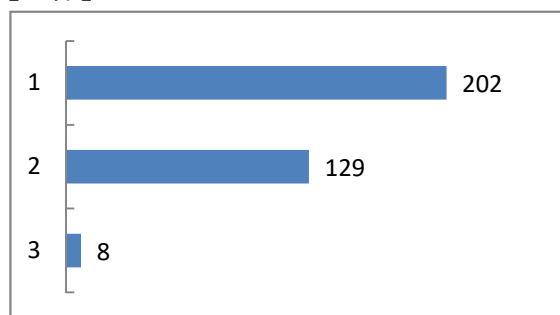
(5) サービス等利用計画について

問30 あなたは、サービス等利用計画を、相談支援専門員（ケアマネージャー）に作ってもらっていますか。（1つに○）

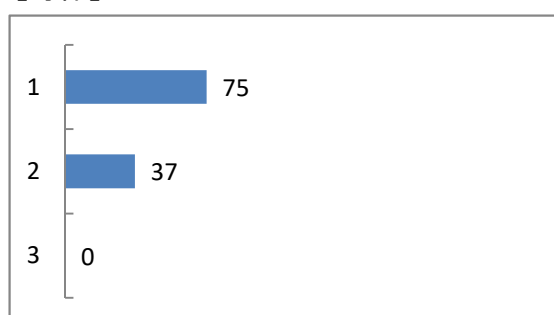
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	はい	202	75	79	49	37	4
2	いいえ（セルフプラン）	129	37	47	48	28	4
3	以前は作ってもらっていたが、現在はセルフプランである	8	0	2	6	4	0
	有効回答数	339	112	128	103	69	8

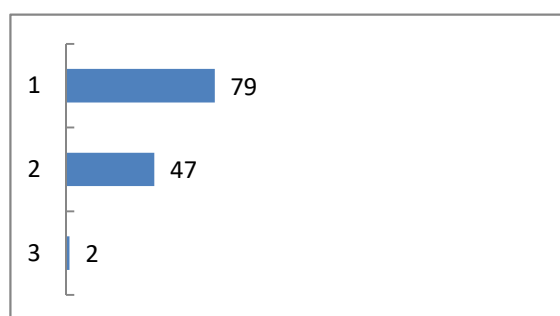
【全体】



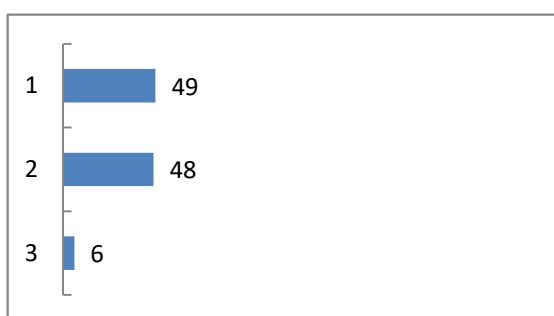
【身体】



【知的】



【精神】



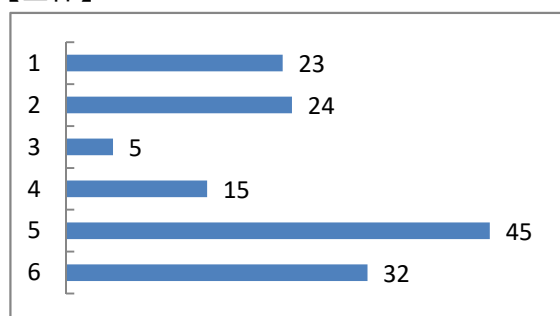
サービス等利用計画については、約4割がセルフプランであり、精神では5割を上回っています。

問30で「2 いいえ（セルフプラン）」「3 以前は作ってもらっていたが、現在はセルフケアプランである」と答えた方におたずねします。
問31 セルフプランの理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

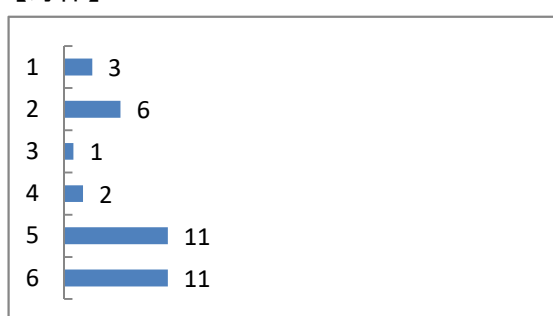
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	相談支援専門員を必要と思わないから	23	3	3	13	7	1
2	セルフプランの方が、負担が少ないから	24	6	9	13	4	0
3	相談事業所の数が少なくて契約できない	5	1	3	3	2	0
4	相談支援専門員に相談しにくいから	15	2	3	11	4	1
5	セルフプラン以外を知らないから	45	11	16	16	7	1
6	その他	32	11	15	14	9	1

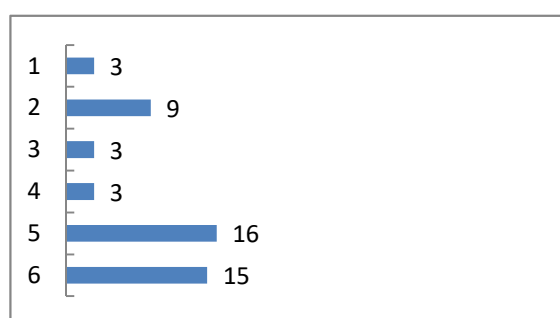
【全体】



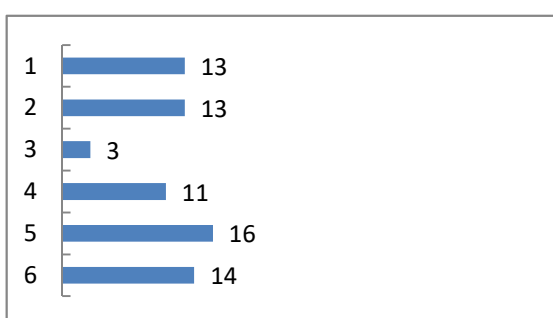
【身体】



【知的】



【精神】



全体では、「5 セルフプラン以外を知らないから」が最も多く、次いで「6 その他」となっています。「6 その他」としては、「事業所に相談して作成している。」、「制度がよく分からない。」などの回答がありました。

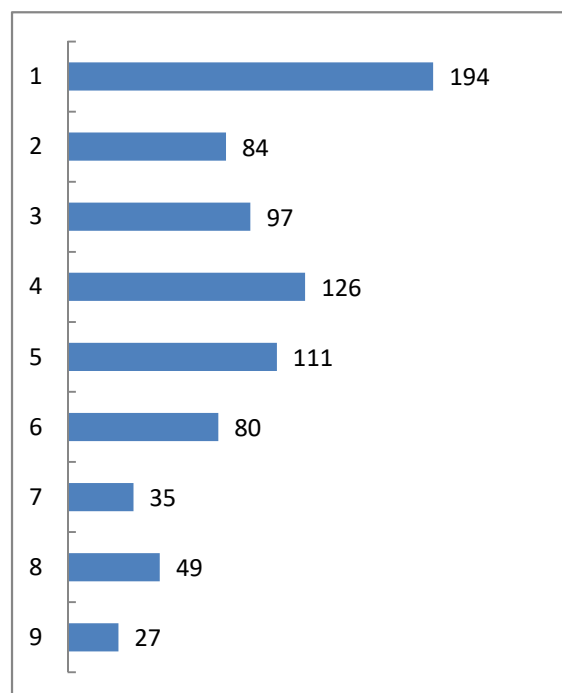
(6) その他

問32 障がい者が地域で安心して暮らしていけるようにするためには、
行政にどのような取組を求めますか。（3つまで○）

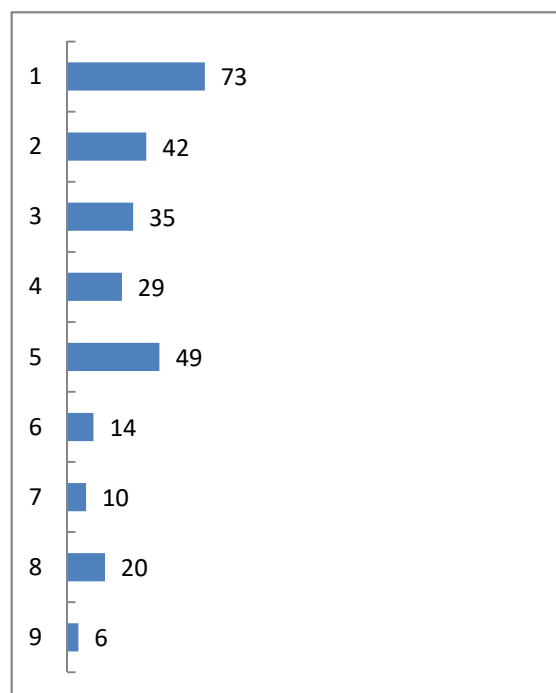
単位：人

		全体	身体	知的	精神	発達	高次脳機能
1	介護保険や障害福祉サービスの充実	194	73	84	50	35	6
2	訪問看護など、地域医療体制の充実	84	42	27	27	8	4
3	公共交通等の充実	97	35	27	40	14	2
4	雇用の場の確保	126	29	36	49	37	3
5	災害に対する支援体制の構築	111	49	47	25	21	4
6	生きがいや趣味などの活動機会の提供	80	14	35	30	20	1
7	地域内交流の促進	35	10	16	9	5	0
8	買い物やごみ出しなどの生活支援	49	20	12	19	5	0
9	その他	27	6	9	12	8	1

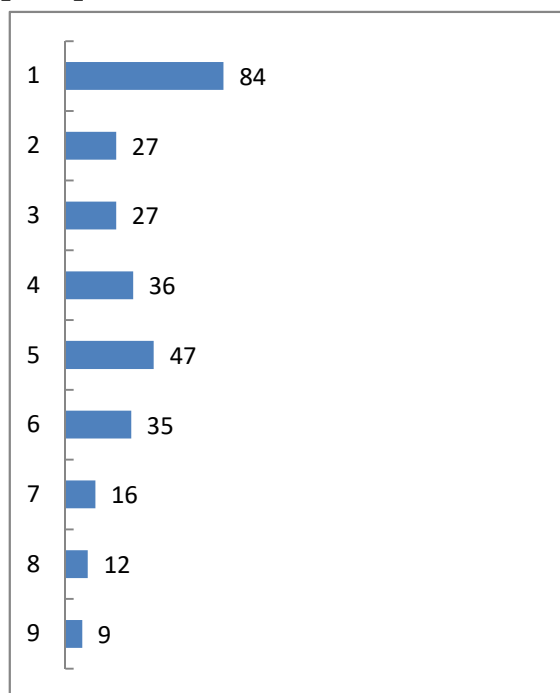
【全体】



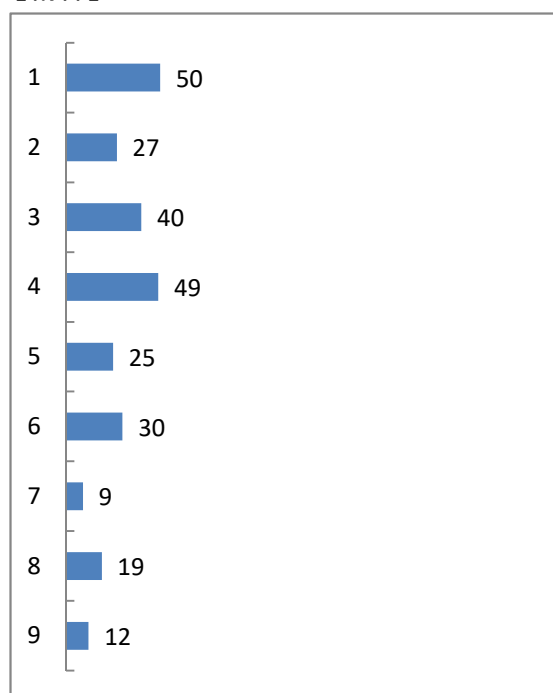
【身体】



【知的】



【精神】



全体では、「1 介護保険や障害福祉サービスの充実」が最も多く、次いで「4 雇用の場の確保」となっています。

身体、知的では、「1 介護保険や障害福祉サービスの充実」が最も多くなっていますが、精神、発達では、「1 介護保険や障害福祉サービスの充実」と「4 雇用の場の確保」がほぼ同数の回答となっています。

問33 障害福祉についてあなたがお考えになっていることがありましたら、ご自由にお書きください。

- 鎖肛（手術済み）、排便を促す薬、浣腸を使用。紙パンツ常時使用。紙パンツの助成があると助かります。1か月の使用料が高いです。
- 色々とお忙しいと思いますが、皆が安心して暮らせるように体に気を付けて頑張ってください。これからもお手数ですがよろしくお願いいたします。
- 神奈中バスの精神障がい者の運賃半額をお願いします。
- 就職をして2ヶ月が経ちましたが、障がい者というだけで挨拶をしても無視されたり、何かミスをすれば陰口をたたかれたり、それでも一生懸命に自分の仕事をしていてもなかなか認めてもらえない。自分がミスをしてしまったとき、一緒に働いている健常者の人に強く肩（両方）をつかまれ、もの凄く怖かった。ただ、障がい者を職場で、障がい者枠で雇用するだけでなく、その人一人一人に対して配慮しなくてはいけないこと、そして一緒に働く一人の人間として認めて欲しい。信頼関係がいつまでも築くことが出来ないとなると、体調にも良くないし、仕事を長く続けること自体難しいと思います。
- ヘルプマークの札を鞆につけているのに、なかなか健常者に気づいてもらえず、助けて欲しい時に気づいてもらえない。もう少し交通の便、台数を増やしてもらいたい。もう少しお金の支援を増やしてほしい。
- 福祉サービスの事業所が利益を追求して、利用者の立場になってサービスの向上を考えなくなってしまうような、市が事業所のサービスの内容を常に見ている体制を整えて欲しいと思います。
- 入院していた病院の事です、看護師に少し偏見な事を言われた経験があったので、そういう考え方をしないようにしてもらいたいと思います。
- 伊勢原や海老名は月10回訪問入浴サービスが受けられるのに、厚木は5回。夏だけではなく10回は入ってもらえればありがたいです。
- 病院へ連れていく事がとても大変。待合室で待てない、大勢の人がいることや、赤ちゃん子供の泣き声でパニックを起こし、隣にいる人に手が出たり奇声を上げたり。本人も具合が悪いので不安定、本人にあった病院探しに苦勞、理解のない医師もいる。特別扱いはしてくれないので、せめて、配慮をしてほしい。障がい者歯科診療のように内科もあったらなと思います。
- 障がい者を受け入れてくれる企業が厚木市は少ないので、もっと増やしてほしいと思います。どうしても通勤するのに交通の便の悪い所が厚木市にあるので…（工場など）。また、軽度の障がいを持つ人の職場を増やしてほしい。
- 初めて障がい者になってしまった時は、やはり小さなショックがありました。でも我が国は障がい者に対してあまり詳しくはわかりませんが、良い方ではないかと思っています。更なる発展を望みます。

- 施設の職員の人数を充実して確保していただき、過ごしの場の中身の充実をしてほしい。個人が必要としている支援を濃く対応していただけるとありがたい。学校ではかなり手厚い指導を受けているが、卒業すると今まで出来ていた事が出来なくなってしまう。施設に不満がある訳ではないが、やはり職員の人数が少ないため、何でもやっていただけるので、せっかく学校で培った事が低下してしまう。でも、職員たちにはものすごく感謝しています。
- 軽度知的障がい者（療育手帳B2）は、中学校卒業後に養護学校に入学しづらい現状があります。サポート校などは学費が高い為、通学させることが難しい家庭もあると思います。横浜市のように軽度知的障がいの子専門の高校があると助かります。横浜のその高校はもちろん高卒の資格もあります。確か二俣川にあったと思います。そこは横浜市民の子しか入学できないので、厚木市在住では受験できません。厚木にもそのような高校があると大変うれしく思います。親からしてみれば将来が見えず不安ばかりな毎日を過ごしております。行政もっとグレーゾーンの何の恩恵も受けられない子の事を考えてもらいたいです。
- ひとりひとり障がいは違う。ただ、自閉症の中でも色々タイプがある。もう少し細かいサポートが必要であり、家に帰宅する際など、もう少しサポートが欲しい。
- 生活保護も受けている為、特に何も考慮されていない。障がい3級の人に対してもっとケアをして欲しい。
- 私は18歳までは精神科にも特にかかっていませんでした。成人して職業を自分で考えて選んできました（専門員の方によりますとクローズ）。53歳の現在に至っては、精神科の医師、専門員の方に相談し、現在の就労継続支援（B型）でサービスを利用しています。今年で8年目になります。希望はまだあまりありませんが、専門員のスタッフの方、医師に感謝しています。
- 寝たきりにならないように、心身のケアをして欲しい。
- 気軽に交流できる場所や機会を増やして欲しい。また、そういう情報をもっと分かりやすく発信して欲しい。
- 精神は仕事が見つけにくい。そのため収入が少ない。バスを半額にして欲しい。
- 児童発達支援で利用しています。診断はまだ受けていないのでグレーゾーン状態ですが、まめの木からの紹介だと2年で利用が切れてしまいます。未診断のままでも児童発達支援を利用できる方法（利用しているサービス担当者の意見でも可など）があるといいなと思います。
- 障害年金の受給資格を緩和して欲しい。
- 普通に歩く人にとってはあまり気にならないと思うが、車椅子などを使う人にとって一般道は水はけを良くする為か、中央から左右に山のようになっているので、どうしても片方に力が必要になるため、車椅子でも負担にならない位、歩行者の歩くところを多めにして片寄らない形にして欲しい。
- お金の必要がある時の為に、貸出制度など生活苦にならないようにして欲しい。
- 親が年老いた後の生活に不安を感じます。重度障がいの人たちも受け入れてもらえる、生涯安心して暮らしていける場所の充実と確保をお願いしたいです。
- 仕事をしている為、長期休みの対応を悩むことがあります。今利用しているサービスはとても親切で心の支えになっています。このような取組に目を向けてくださる市の運営の方に感謝します。ありがとうございます。

- 数年前にあった、障がい者＋家族のバスツアー（ディズニーランド）をまた復活させてほしいです。
- 精神系の病の場合、仕事を探す時に病気をオープンにするかクローズにするかで、仕事につけなくなったり、差別偏見ととなるか、逆にある程度理解してくれるかの賭けになります。服薬さえきちんとしていれば、健常者と変わりなく仕事が出来ますが、すぐ疲れるとか（肉体的なものではなく）の症状が出ます。ほんの少しでもこまめに休みながらですが、仕事はまじめです。
- 厚木は暮らしやすいです。
- 目に見えない障がいは、二の次三の次に扱われていると感じる。障がいを持っていることが分かっても、助けになる場はほぼなく苦しむばかり。個々人での対応、対策が必要なのに理解が得られない事が圧倒的に多く、一側面をなぞった程度の対応を行われ、向き合っている、理解していると主張され終わる。求人に対し、求めている障がい内容、またはその逆の明記が欲しい。
- 障がい福祉に関係する全ての手続きが複雑で、本人が理解できるようなものではなく、全ての手続きも家族の支援が必要であることが問題である。障がいの程度もあるので全てに当てはまる事ではないが、簡単に出来る様な手続（例えばわざわざ市役所まで足を運ばなくてもよい、パソコンで申請できる）になれば、本人もそれに関わる家族の負担も減ると思います。
- 特別養護老人ホームを利用しているとデイサービスには行けないと言われました。リハビリがしたいのに、ただ寝ているだけでいいのでしょうか…。
- 支援を要する人が周りの理解に支えられながら自分らしく生活できる環境が整えられている地域になって欲しい。
- 知的障がいの全介護施設がなく預かってくれるところがありません。高校卒業後、施設に泊まったことはありません。
- 障がい福祉は健康な人の下にあり、ちょこっとすみっこにあるだけの寂しい存在である。光があたらない存在である。
- 身体障がい1級ですが、薬代、介護タクシー、自立訓練に必要な費用、様々な患者に必要とする用具代等々、年金生活での私どもにはとても大きな負担金となります。この先どの様に生活したらよいのか不安しかありません。神奈中タクシー会社の介護タクシーをもっと台数を多くしてもらいたい。利用したい時、いつも利用できない。
- 本厚木駅東口から地下道に車いすの人がスムーズに使えるようにエレベーターの設置！エスカレーターに昇降機で利用するのは現実的ではないですよ！雨の日でも濡れずに駅を利用できる屋根のある車で乗り降り出来るスペースの確保！車いす利用者として雨の日にはせっかくの地下道が使えなかったり、雨に濡れながら車いすから車に乗ったり降りたりする事は本当につらいです。ここに屋根があったらどんなにいいかと雨が降るたびに切実に思っています。どうか改善してください。よろしくお願いします。
- もう少し障がい福祉について理解と充実を願いたい。アンケートを提出してもなかなか制度が改善されていないように思います。是非、障がい者も住みよい厚木になるようにしていただきたいと思います。

- 発達障がいの方に多くの事が出来ないのに、疲れが生じるため、短時間勤務で働ける場をお願いしたい。
- みんなが、全員が、障がい福祉に関わる事は難しいと思います。しかし、普段は何もしていなくても、何かあった時には力を貸して欲しいと思いますが、そういう時はみなさんも大変な時かもしれません。そういう時はどうしたらいいのでしょうか。やっぱり助けてあげたいと思っても、自分が、家族が、と思いをはせるのは当然の事だと思いますが、もうひとひねり欲しいですね。
- 色々な保険証の手続き等の簡略化。外出できないので手続など自宅で出来るようにしてほしい。福祉用具、コミュニケーション機械等の申請許可が早く降りてくれると良い。今すぐ必要なのに申請が降りた時には使用できないことがある（障がいの状態が進んでしまうため）。
- 我々保護者も高齢になり、将来の事を思うと心配になり不安です。でも、障がい者施設がある事で頼りにもしています。
- 私は高齢で聴覚障がい者です。軽作業の仕事が希望ですが、職業安定所に行っても紹介してもらえないし、肉体労働は無理ですが、一日も早く仕事をください。
- 放課後等デイサービスも無償化になってくれたら、すごく助かります。
- 色々な障がいの方の立場を考えて、健常者の方はどう大変なのかをもっと知って欲しいし、理解して欲しいと思います。障がいがあるとバイキン扱いなど…。そんな風な日常がある事を知って欲しいです。
- 行政で考えているバリアフリー（人との認識）と本人が感じているものとの温度差がまだまだあります。例えば、公共のバス利用にしても、運転手によっては割引カードを見せただけで面倒くさそうに嫌な顔や舌打ちをする方が多いです。そういう場合、住みづらさを正直感じます。
- 疲れました。助けて欲しいです。
- 以前、渋谷にあった「子供の城」的な解放スペースがあればと思います。絵本、おもちゃ、ごろごろ出来る広場です。
- 南口神奈中のバス停にベンチが無くて、待っている間疲れるのでベンチを作って欲しい。交通料金をサポートして欲しい。医療費をサポートして欲しい。
- 昔に比べ格段にサービスが充実してありがたく思っています。が、今もまだ通所先・入所施設やグループホーム（特に行動障がいのある人のGH）は足りていないと思います。市や施設の職員さんの理解は十分に感じていますので、あとは「受け皿が増える」ことが何よりの望みです。いつも本当にありがとうございます。
- もっと障がい者に対して理解して欲しい。ヘルパーの人数を増やして欲しい（ヘルパー自身も高齢者が多い為なかなか利用が出来ない。利用しにくい。時間が取れない。）。
- 両親がいなくなっても自宅で暮らすことができるようになったら良いと思います。

- 小学校低学年、男の子の母親です。息子はプールが大好きで、よく市内のプールを利用させていただいておりますが、母と一緒に女性更衣室で着替えをしています（着替えの介助が必要、ロッカーの管理ができないため）。しかし、そろそろ女性更衣室の使用ができなくなる（周りの目が気になる）年齢になるため、プールの利用ができなくなります。他県・他市町村の障がい者家族に聞いたところ、障がい者用更衣室のあるプール・障がい者専用プールのある市町村がある事を知り、厚木市にもあったら我が子も続けられるのと思いました。発達障がいの子供は水の好きな子が多いですが、そういった理由からプールへ行かれなくなったり、障がい者クラスのあるスイミングスクールはYMCAだけなので、プールに入れる子供は限られたわずかな人数になります。ですので、障がい者専用更衣室の設置、もしくはスイミングの療育事業所を増やしていただく、市内のプールで障がい者専用の時間を作るなど、ご検討いただけないでしょうか。また、小中学校の介助員に対して十分な研修（年に1～2回、1～2時間程度の勉強では少なすぎると思います。）をお願いしたいです。また、保護者が希望した場合はサポートブックにも目を通していただきたいです。いつもお世話になりまして大変感謝申し上げます。今後ともご面倒をおかけしますが、何とぞよろしくお願いいたします。
- 精神2級の人にもタクシー券が欲しいです。歩いていて苦しい時がよくあるので。ケースワーカーやナース、ドクター、心理士、作業療法士の質を良くしてもらいたい。デイケアに行っているのですが、そこに来る病人がもっと良い人たちになって欲しいです。障害年金をもっと増やして欲しい。精神障がい者の習い事の場所を作って欲しい。
- 厚木市はよく取り組んでいると思います。不便を感じる時や嫌な思いをする時は、行政の取り組み方よりも個々の方の考え方や行動によるところが大きいと思います。また、自分に障がいがある事を理由に、自分の逃げ道（場？）としている障がい者の方がいらっしゃるのも、現状を難しくしている理由の一つだと思っています。確かにできない事はありますが、それで自分のすべてが否定される訳ではないので、自分の障がいとどのように向き合うかを時々考えています。行政の方にはいつも感謝です！
- 施設入所時の入浴日数が少ない。
- 今は49歳で近くのデイサービスに行っています。今後、相談事業所などを使いたいと思います。
- 親亡き後の生活を心配しています。満員で福祉施設に入所できない。入所後、虐待を受けてしまわないかなど。
- 障がい者は若い人からお年寄りの方までいます。うちは50代ですが、もっと訪問入浴サービスを週に1回ではなく週に2回にして欲しいです。
- 障害年金が少ない。交通費が全額出ない。雇用の場を確保して欲しい。
- 小学生の子供の親です。現在、放課後等デイサービスも利用しているが、順番待ちや短縮授業の時は、送迎対応できないなどで仕事に就けません。健常児と同様に通っている小学校で、そのまま放課後を過ごせる場所を確保して欲しい。幼稚園、保育園で、もう少し障がい児の理解を受け入れて欲しい。完全に排除している園もあり、小学校に入ってから、いきなり「インクルーシブ」と言われても周りの理解が得られない。
- 厚木市の福祉施設は、利用者に暖房費や昼食代や色々と支払わせ、親が負担である。いずれ親は死ぬのに年金だけで余暇を楽しめるわけではない。厚木市の福祉施設の質は低い。福祉を勘違いしている。

- 老人が老人を介護し、障がい者の親も高齢化していく中、自分だけは違うと考えている人があまりにも多い事に驚きを感じている。思いやりの心、明日は我が身に降りかかる可能性も視野に入れて、もう一度見直して欲しいと思う。団地の中には鍵付きのポール等で玄関先まで介護車両が入ることができず、身体麻痺のある人にとっては車椅子からずり落ちる可能性もあるため、介護車両や就労の送迎車両等が玄関先まで入れるように市や県にお願いしてもらいたいと思う。また、訪問介護等に来る方々の駐車場も確保して欲しい。心がない人たちの嫌がらせや、車両へのいたずら等多い為団地によっては支援を断られてしまうところもあるようだ。地域への必要を訴えて協力してもらえよう働きかけていただけると嬉しい。
- ①見た目には分かりにくい知的障がいの娘、日々用心に用心を重ねて親は見守っています。ヘルプカードは良い点もありますが、もし変質者の目に入ったらと考えるところもあります。社会が進化する程に理解力の弱い者が障がい者になるのでしょうか。②バスの割引カード頂いています。年1度更新に切れる数日前に更新に行きます。すると、当日の日付になるため、段々と前倒しにこの日（切れる日）となります。同じ様は分かりますが、交通定期券の様な日付にはできないでしょうか。一度話しましたが嫌味言われた。割引カード（赤い線）がないので明日来てくださいます。③バス割引カードですが、バス運転手も対応が分からない人もいます。通常の運賃払いです（本人はその様な時に分からないのです）。もっと分かりやすい顔写真入りで良いので、年間か月毎に買える（半額）定期券で見せるだけで乗り降り出来たら分かりやすくなると考えます。④親も高齢となり何かとフォロー致しかねない場合を感じてきました。このようなアンケート良かったです。
- デイサービスの職員の言葉遣いをどうにかして欲しい。利用者が聞いていて嫌な気持ちになる。
- 厚木市は障がい福祉に力を入れていると聞きますが、まだまだと感じるところも多々あります。行政の取組も大事ですが、社会の理解（人の心）が一番大事です。障がい者を優しく受け入れることだけでなく、同等の権利と義務を持った社会人であるという事も大切です。障がいは個性ですので、個性と尊重しつつ助けが必要な部分を手助けする、そんな福祉をお願いしたいと思っています。”ともに生きる”が言葉だけにならないようにしたいですね！！
- 今の生活を継続していきたいです。安心、安全に。
- 鮎まつりに是非行きたいです。
- 発達についてはまだまだ理解を得るには時間がかかりそう。自分から情報を発信するのはまだ怖い。
- 自力で生活出来るように、近くに働く場所が欲しい。漢字が読めない（何行きかわからない）、時計が分からないため、一人でのバス・電車の通勤が困難。方向感覚が悪かったり、言葉が詰まったり、語力がないため迷子になるので、地域で働ける様に障がい者の雇用が増えたらと思います。
- 依知地区にも、家族が長期入院や具合が悪く（1日又は半日病院に行く時）なった時などに、安心して預けたりできる場所があったらと思います。グループホームや入所施設、作業所にも依知地区はあまりなく、地域の方々に多く理解してもらえるようになるために沢山これから立ち上げて欲しいです。
- 手続とかが難しそうです。
- 生涯、安定した衣食住を守ってもらいたい。

- 厚木市は、障がい者に対するサービスがとても充実していると思います。障がい福祉については、いつも心から感謝いたしております。これからもよろしくお願い致します。
- 送迎ありで個別療育が受けられる所がない。幼稚園や保育園での加配、小学校も心配である。
- 7歳なのでサービス利用など限られていますが、今のところ大きな不便はありません。学校も放課後等デイサービスも、できるだけコミュニケーションを取りながら日々頑張っていますが、これから先、子供が大きく成長したら、いろんな福祉について考えていかなければいけないと思います。障がいがあるなしに関係なく、平等な生き方ができれば良いとは思いますが、周りの理解などが様々です。障がいそれぞれにあった対応を願いたいとも思います。難しいこともたくさんあるでしょう。
- 障がい福祉は今後も充実が必要です。今回のアンケートも含め、不安や問題がないかのチェック・検証を継続してください。
- 私の身体の病気、高次脳機能障害は見た目では分かりません。どれだけ辛いとか不安だとか、社会復帰したくても、高次脳機能障害や長く起きていることができない等で働きたくても働けない。
- 肢体不自由だと移動が大変で、出かける事が少なくなってしまう。やはり家で過ごす時間が多くなりがち。
- 入所施設の充実。
- 障がいのある方に優しい市町村（人や物）は、健康な方にも住みやすい場所である。また、障がい者（子ども、大人）に対しての障がい理解・ボランティア等、もっと知らせるための機会を作っていく事も大事である。知らないといじめにつながっていく。小さいうちから接する機会も必要。障がいのある方と一緒に住んでいる親の支援はとても大事（安定した気持ちで障がいがある子に接することが大事だから）。厚木市の障がい者に関わっている市の職員等は、自分が担当する障害のある方と会って（地域を歩く）、よく知ることが大切。机上の話し合いだけでは障がい福祉は前には進まない。
- 視覚障がい1級で、サービスの種類など利用者本人が調べられないので使えないです。ケアマネージャーが誰かも分かりませんので、どのようにすればいいか分かりません。今回の手紙でこのような色々なサービスがあるのを知りました。これからもこのままでは使えないと思います。
- 障がい特性に合わせた医療サービスの充実。訪問看護、訪問リハビリ（PT、OT、ST）、訪問歯科（嚥下）、訪問栄養指導。重度身体障がい者を対象とした住む場所（ケアホーム、療護施設）。共生型サービスの拡大。
- 障害年金が少ない。
- 誰もがみな安心して生活していける環境を願い、障がい者や健常者がお互いに負担がかからないような福祉活動がおこなわれるようになってほしいと思います。
- まず「障害者」の表記を変えて「障がい者」にするのではなく、障がい者も生きやすい社会作りの努力をするべきです。表記を変えても差別はなくなりませんから。障がい者はお金がかかるので、給料を上げるべきです。当事者が「障がい者に生まれたくなかった（なりたくなかった。）。」と思わなくなる社会を目指してください！

- 災害時の避難方法や場所に不安がある。訪問看護の質が良く、満足しているが料金設定を見直してほしい。子供のためのリハビリをする場所もしくは在宅でのリハビリの機会があると嬉しい。障がいがある子を持つ親や、障がい者同士の交流の場がもっと欲しい。障がいがある子を育てていると働きに出られないため、生活面が心配。
- 統合失調症の人の場合は、一生不安との戦いなので、それを柔らげる場がもう少しあればと思います。老人介護の場合には、本人が迷惑がることが多いので、自宅にサービス担当者が集まってあれこれ決めることがあると聞きます。フィンランドのオープンダイアログのようなことが、急性期の統合失調症の人にもあればと思います。自分の時は、それがあればずいぶん結果は変わっていたのと思いました。
- 親が死ぬ前に、娘の生活を安定させてやれるか不安で不安で仕方ない。娘の兄弟に負担をかけることなく道を付けてやるにはどうしたらいいか、毎日考えている。信頼できる継続的なアドバイザーを求めている。
- 弱視（ロービジョン）①点字ブロックは黄色を濃くして色のコントラストを上げてほしい②線上ブロックは弱視が視認しやすいように設置してほしい。たとえば、厚木バスセンター2階から保健福祉センター2階に行くとき、タイルと点字ブロックが同色で見えにくいし、曲がりくねって歩行しにくい。
- もうちょっと相談事業所や市役所が、この人がどういうふうになったらよくなるかをわかってほしい。支援計画書を作ったら、頭からそのとおりやれということは無しにしてほしい。作業所に通う緑色の受給者証も一年ごとにと決まっているが、人間は思うとおりいかないんだから。それを押しつけるのをやめてほしいです。
- 手続など一度にまとめてできるようにしていただきたい。まず、自分が障がいになったらと考えていただきたい。1つ1つ取り組んでほしいと思います。視覚の場合、一歩ふみ出すことも、恐怖の世界です。よろしくお願いいたします。
- 利用できる施設が少ないこと。安心して利用できる施設が少ないこと。このことがあるので、結局家庭で家族がすべて負担することになる。
- 作業所通所交通費を全額出して欲しいです。
- “障がい”とひとまとめにする時点で、支援を充実させる方向とはかけはなれていくように思います。
- 視覚障がい者に目をむけてほしい。
- 家計が苦しく親が働きたくても、フルタイム勤務で平日5日子供を預けられるところがありません。放課後デイサービスや日中一時支援は、10:30~16:00までだったり、「週2日までにしてください」と言われたりして、子供の預け先がありません。民営の学童は高く、市の学童は高学年は支援級の子供だけで、子供本人が低学年の子たちと過ごすことを嫌がります。親がフルタイム勤務できる預け先を作ってほしいです。
- ケアマネジャー、ホームヘルパー、訪問看護師、現在関わっている人たちが良くしてくださるので感謝しております。

- 家計が苦しくて働きたいが、平日のフルタイム勤務するために子供を安心して預ける場所がない。同じ障がい児を持つ親と交流できる機会がない。進路のための情報や支援学校、就労支援等の見学など、個人で活動するしか方法がない。働かないと経済的に苦しいので情報収集や訪問、面談などをすることに時間を費やせない。親の会に入会すると情報は得られるが会費と活動時間に余裕がない。
- 親としての考えを書きました。現在、就労継続支援（B型）に在籍し、仕事も真面目に取り組んで頑張っています。親としては、いずれ入所を希望しておりますが、本人にはまだ何も言うてはいません。そのためにはお友達と仲良くでき、指導員等まわりの方々のアドバイスがしっかりと聞けるようにと、心掛けて生活をしています。
- 普段からあまりサービス等利用していない人にとっては、いざという時、どこに相談すればいいか、よくわからないことも多くあると思います。もう少し気軽に相談できる窓口が欲しい。自分1人での外出が厳しい障がい者にとって、何かあった際に福祉課の窓口へ出向くのはなかなか大変なので、もう少しネット等で申請等の対応をしてもらえるとすごく助かると思います。
- 当事者の方々が安心して暮らしていけるのが一番の望みですが、そのために手助け、協力してくださる方々の生活の充実（仕事の量、給料等）も必要だと思っています。
- 親に何かあって一緒に住む事が出来なくなった時に、入所できる施設がない。グループホームはハードルが高く、やはり介護施設に入所できたらと思います。
- いつも親切な対応ありがとうございます。
- 若い（現役）お母さんたちは「放課後、事業所のデイサービスなど充実していて良い」と話しますが、我々60歳代の母親としては、母親たちを過保護にしすぎるのではないかと思います。何でも他人任せで、私たちの頃とは比べものになりません。もう少し、子供たちの面倒を見るとか、自覚が欲しいですね（30歳代の障がいを持つ母親）！！
- 障がいについてみなさん理解があると思われませんが、まだまだで特に働ける場所が少なく大変です。もっと社会へ出ていける場所があるといいと思います。
- 将来家族が亡くなり自分一人になった時、一人で生活していく事が出来なくて心配です。強迫性障害や知能が正常でないことや、他にも一生治りそうでない病氣も抱えていて（ぜんそく、アトピー）将来とても大変になりそうです。精神病を抱えて生活するための障がい福祉サービスがほとんどないのはおかしいです。
- 運動する公園を作ってほしい。
- いつか手帳を持っている人全員が、バス割引やいろんなサービスが受けられるようになればいいと思っています。
- 就労継続支援（A型）の交通費が市から助成金が3分の2しか支給されておらず、利用者として毎月の負担が大きい。また支給される交通費も毎月ではなく、半年に1度という生活の負担が大きいところがあるので、安心して利用できるように交通費を全額で毎月支給にさせていただくことを強く望みます。

- 土日など休日にヘルパーと外出をしたいと思っているけどヘルパーが見つからない。重度で45歳の男性なので女性のヘルパーでは無理。男性も一人ではきついのかなどと考えると、いないのが現状です。現在は父親が車で1時間程度外出していますが、親も高齢なので月に1回でも利用できればと以前から相談していますが、いないのが現状です。
- 言語がなく、筆記も出来ません。施設に入所しています。今は月一度帰宅していますが、将来が心配です。
- 土、日に利用できる事業所が少ない。公共交通が利用するのが苦手なのに、事業所で車で移動支援できる所が少ない。サービス利用できる日数、時間をもらっても使えないのでは何の意味もないと思う（親の意見です。）。
- 自閉症の息子の父です。自分が高齢化した後、息子が過ごせる場所が、スムーズにうまく具合に見つかるか不安です。施設の数も少なく、自閉症の方が過ごしやすい環境も整備されているとは言えないと思います。川越であったように、災害時には居場所がなくなったらいまわしになる可能性もあります。家族は、つらくても、日々何十倍もの努力をしています。自閉症は言葉で説明しても一般の方にはわかりにくく、奇声を発しても理解のある視線で見られることは少ないです。親が高齢化しても、せめて本人らしく人生を過ごせる環境と人の理解が得られる社会を期待しています。
- 自宅から自転車で通える距離に就労継続支援（A型）の事業所が無いので、作ってもらえたらと思います。障がい者枠の就職先が厚木市内にもっと増えて欲しい。
- 精神障害者保健福祉手帳2級の人もマル障にしてほしい。あとタクシー券も出してもらいたい。それだけで人生が変わると思うから。変わらないなら海老名市に引っ越したい。
- ヘルプカードがほしいのですが、どのようにしたら良いですか？教えてください！！通所交通費を3分の2から「全額」に変更してください。セルフプランの作成は毎回毎回大変です。記載内容に変更がなければ、同じ物（コピー）でも良いのではないですか？バスに乗車する際、「精神障害者保健福祉手帳」でも他の手帳同様、割引（半額）運賃にて乗車できるようにしてください！！精神だけダメ！というのは不公平です！！就労継続支援（B型）の給料（工賃）の基準をもっと人並みに上げてください！！基準（レベル）が低すぎではないでしょうか？ 以上、切によろしくご検討、改善の程、お願い申し上げます。
- 就労継続支援（A型）の事業所をもっと増やしてほしい。精神障害者保健福祉手帳2級の人もマル障を作してほしい。タクシー券も。
- 障がいについて、知ってもらいたいという気持ちはあるが、色メガネで見られたくないという気持ちもあるので、知られたくないという気持ちもある。なので、世の中が偏見が1日でも早く、なくなればいいなと思っている。
- 障がい者も最低限度の生活ができることを保証してほしい。
- 親の支援がなくなった場合の生活面での不安。
- 近隣同士のコミュニケーションが少ないので、参加できるような施設がほしい。
- 今、仕事をしたいと思いますが、私は年金がないため、現実的にむずかしいと思います。一人暮らしで、年金はないが仕事をしている障がい者には、なにか家賃その他の支援をしていただけたらととてもありがたいです。家族からも支援はありません。そういう人は、仕事をしたくても生活保護を切ることができません。なにか、公的な支援があれば、生活保護を受けず仕事をする方が増えると思います。

- 神奈中バスを利用するのですが、身体・知的障害者手帳が使えるのに、精神障がい者だけ外されているのか。不公平感を感じています。
- 現在、町田の施設にいますが、厚木に帰りたくて仕方がありません。身体のグループホームを厚木に作ってほしいです。早急をお願いします。
- 現在、息子が川崎市にある施設に入所しております。毎週日曜日は、私の手で食べさせたく車で通っていますが、主人が在宅全面介助で立つ事もできませんので、往復4～5時間と1時間位の息子との面会で急ぎ帰宅となり、私も84歳アップアップの毎日です。福祉課には助けていただくばかりで感謝の一言につきています。これからもよろしくお願い申し上げます。
- 息子が3歳の頃から児童発達支援に行い、私も含めだと思うのですが、そこで初めて障がいについて学び、知っていきました。それまで福祉や障がいに関わることなく暮らしてきたので、行政の取組、向上心のある方々のお力で大変助けられましたし、勇気付けられました。障がいを受け入れるには、私自身勇気と忍耐力が必要でした。私や主人の親は理解が乏しく、話をしても受け入れてもらえなかったからです。世代間の差、自分自身の勉強不足をこんなに悔しく思ったことはありませんでした。いくら行政や向上心のある方々が頑張ってくださっても、その取組は局地的なのだな、と痛感しております。しかし、その取組が少しずつ、世の中に浸透していくことを願ってやみません。世の中全体が福祉について明るくなれ！
- 電車、バスに乗ることがありますが、割引サービスを本人がうまくつかえませんが(療育手帳をみせて半額サービスをうけるなど)。移動支援を利用しなくても、1人で近い所に行くことができるようになってくれればもっと広がると思います。
- 学校内に療育の授業を取り入れてほしいです。登下校付き添ってくれる人がいてくれたら助かります。
- 障がい者のみでなく、どんな分野の対象者にも言えることだと思いますが、その方の立場に立った思いで相談、思考、行動して、頼りになり、役立てれば両者とも喜びをえられ、信頼感を持て、社会も変わっていくと思います。私の体験で悟ったことで、生活習慣にするよう努力中です。
- 障害者就労支援や就業先に行く時でも、移動支援のヘルパーを使えるようにしてほしい。
- 精神障がい2級ですが病院、作業所へ通うのに交通費が金銭的に大変で、通う事ができません。バス代を無料にしてもらいたいです。
- 利用できる制度やサービスなどが、もっと周知されたり、分かりやすくなったら、なお良いと思います。
- 軽度の発達障がいなのであまり困っていることはないです。学校でも交流級で、本人は楽しくやっています。外見や行動は、一般の子供たちと変わりなく、みんなと馴染んでいます。やはり少しづつみんなについていけない所もあります(理解力など)。将来、就職の時に普通にやっていけるかが心配です。
- 18歳までの支援はたくさんありますが、20歳からの支援のあり方をもっと考えてほしいです。特に親が年をとった時の周りとの関わり方や仕事など考えてほしいです。よろしくお願いします。

- 途中で突然障がいを抱えることになった者として、行政にお願いがあります。行政の窓口で手帳の申請をすれば、どのような障がいか、抱える不安や不自由さを伺い知れるはずです。困り事はないだろうかと、窓口に来た者に対して行政側のできる支援やサービス、支援機関へつなげる等、最大限の配慮をしていただけたらと思います。何も分からず、個人的に支援機関を捜し、今までの生活続ける事に本人も家族も本当に苦労しました。今もそれは変わらないです。
- 就労移行支援を利用した際、地域活動支援センターを一時やめなければなりませんでした。仕事のことを考える際も、居場所が必要であることを身にしみて感じました。就労移行支援と地域活動支援センターは、同時に必要です。同じような(寂しい)経験をする人が出ないように、ご配慮お願いいたします。
- 各種サービスの地域格差が大きいと思う。県単位でみると、療育手帳の配布の基準はゆるめで助かっている。私の子供は高機能自閉症のため、他県では療育手帳の取得を無理であることも考えられる。県内でみると、川崎市は特に優れているかと思う。